



大阪府立支援学校

キャリア教育支援体制強化事業 成果報告書

(令和2年度～令和4年度)

大阪府教育委員会

目 次

＜モデル校の取組み＞

大阪府立思斉支援学校

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	3
Ⅰ キャリア教育支援体制強化事業 研究開始にあたって・・・・・・・・	4
Ⅱ 令和2年度の取組み・・・・・・・・	9
Ⅲ 令和3年度の取組み・・・・・・・・	15
Ⅳ 令和4年度の取組み・・・・・・・・	26
Ⅴ 研究成果と課題・・・・・・・・	38
おわりに・・・・・・・・	47
資料集・・・・・・・・	48

大阪府立交野支援学校四條畷校

Ⅰ 研究開始にあたって・・・・・・・・	87
Ⅱ 令和2年度の取組み・・・・・・・・	91
Ⅲ 令和3年度の取組み・・・・・・・・	94
Ⅳ 令和4年度の取組み・・・・・・・・	106
Ⅴ 研究成果と課題・・・・・・・・	121
資料集・・・・・・・・	128

大阪府立思斉支援学校

はじめに

平成 23 年 1 月、中央教育審議会は答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」を公表した。答申では、幼児期の教育から高等教育までを通したキャリア教育・職業教育の在り方をまとめており、その中で、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤になる能力として「基礎的・汎用的能力」を提示し、キャリア教育の中心として育成することとしている。

キャリア教育については、学校現場でその理念が浸透してきている一方で、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないか、といった指摘（平成 28 年 12 月中央教育審議会）もあり、教育課程全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取り組みが求められている。

本校においては、小学部・中学部・高等部における一貫した教育が前提になっているが、学部ごとに教育課程を編成しているため、学校としての教育課程の一貫性がどこまで担保できているかについては課題がある。そこで本校のキャリア教育は小学部から高等部までを一貫した教育課程ととらえ、卒業後を見据えた観点から、社会的・職業的自立に向けて求められる資質・能力を体系化し身に付けられるようにした。一貫性を持たせるための柱として「キャリアプランニングマトリクス」を作成し、児童生徒のキャリア発達を促す取り組みを実践することで、学校としての学びの連続性を担保した。

本報告では、思斉支援学校が取り組んできた「キャリアプランニングマトリクス」とキャリア教育において必要となる「自己肯定感」をキーワードにしたキャリア教育の実践を報告する。

キャリア教育推進委員会



I キャリア教育支援体制強化事業 研究開始にあたって

1 事業開始の経緯と学校の課題

本事業は、本校の就労希望者の低調な推移や、3学部一貫した教育課程が整っていない現状について、キャリア教育の視点からこれらの問題を是正していこうとするものである。

本事業を進めるにあたって、改めて本校のキャリア教育について振り返った際、キャリア教育の位置付けや取り組みの実態把握がどのように行われているかは明確になっていない現状を再確認した。そこで、まずは本校全教員を対象としたアンケート調査を実施し、その結果をふまえて、本校におけるキャリア教育への取り組みの現状と課題を整理することとした。アンケートの内容は、植草学園短期大学（2012）「知的障害特別支援学校におけるキャリア教育に関する意識調査」『植草学園短期大学研究紀要』第13号（p33-38）を参考にした。（特別支援学校のキャリア教育に関する意識調査を公表している稀有な事例である。）

（1）方法

- ① アンケートの対象 — 思斉支援学校 全教員 136 名
- ② アンケートの内容 — 本校のキャリア教育の取組状況等について
（詳細な内容は結果欄参照）
- ③ 調査実施期間 — 令和2年10月下旬～11月上旬

（2）結果

① 回答者数		
学 部	回答数（人）	全回答者数に対する割合
小 学 部	31	27%
中 学 部	37	32%
高 等 部	47	41%
不 明	1	0%

◆回収率85%

② 回答者の内訳		
教職経験年数	回答数（人）	全回答者数に対する割合
1年目～ 5年目	27	24%
5年目～10年目	37	33%
11年目～15年目	15	13%
16年目～20年目	6	5%
21年目～30年目	16	14%
31年目以降	12	11%

◆教職経験年数10年目までの教員で57%を占める。

③ キャリア教育の必要性について		
	回答数（人）	全回答者数に対する割合
とても必要である	31	27%
必要である	71	61%
必要ない	1	1%
どちらとも言えない	8	7%
分からない	5	4%

◆キャリア教育の必要性は高く意識されている。

④ キャリア教育において重視したい指導内容		
	回答数（人）	全回答者数に対する割合
他学部との系統性	40	12%
本人中心の計画づくり	17	5%
個別の指導計画との関連性	14	4%
自立的支援	43	13%
基本的生活習慣の定着	55	16%
勤労観・職業間の育成	40	12%
児童生徒の主体性	38	11%
人間関係・社会形成能力	41	12%
自己理解・自己管理能力	7	2%
課題対応能力	11	3%
キャリアプランニング能力	24	7%
分からない	7	2%

- ◆「本人中心の計画作り」「個別の指導計画との関連性」や基礎的・汎用的能力（自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）のポイントが全体的に低い。キャリア教育に関する用語がまだ理解されていない段階にあると思われる。基礎的・汎用的能力の中でも、「人間関係・社会形成能力」のポイントが高いのは、自立活動との関連性を感じたからではないかと考えられる。

⑤ キャリア教育の視点が教育課程に反映されているか。		
	回答数（人）	全回答者数に対する割合
反映されている	12	10%
反映されていない	18	16%
どちらとも言えない	58	50%
分からない	28	24%

⑥ キャリア教育の視点を授業内容に反映させているか。		
	回答数（人）	全回答者数に対する割合
反映されている	31	27%
反映されていない	15	13%
どちらとも言えない	50	44%
分からない	19	17%

- ◆キャリア教育の必要性は認識しつつも、その内容を授業に反映させているかについて、具体的な根拠を見つけることができていない。

⑦ 教育課程において、小学部と中学部の系統性は必要か。				
	小学部		中学部	
必要だ	27	87%	24	73%
必要ではない	0	0%	2	6%
どちらとも言えない	4	13%	3	9%
分からない	0	0%	4	12%

⑧ 小学部と中学部の連携はできているか。				
	小学部		中学部	
できている	0	0%	2	6%
できていない	18	58%	13	39%
どちらとも言えない	5	16%	11	33%
分からない	8	26%	7	21%

⑨ 教育課程において、中学部と高等部の系統性は必要か。				
	中 学 部		高 等 部	
必 要 だ	2 6	8 1 %	3 3	7 0 %
必 要 で は な い	1	3 %	2	4 %
ど ち ら と も 言 え な い	5	1 6 %	8	1 7 %
分 か ら な い	0	0 %	4	9 %

⑩ 中学部と高等部の連携はできているか。				
	中 学 部		高 等 部	
で き て い る	1	3 %	2	4 %
で き て い な い	9	2 9 %	1 7	3 5 %
ど ち ら と も 言 え な い	1 6	5 2 %	2 0	4 1 %
分 か ら な い	5	1 6 %	1 0	2 0 %

◆学部間の系統性が必要であるとの認識を示しつつも、教育課程が系統立てたものになっていない。

⑪ 既存のキャリア教育全体計画（※１）を活用しているか。		
	回答数（人）	全回答者数に対する割合
し て い る	1 0	1 0 %
し て い な い	9 2	9 0 %

⑫ 既存のキャリア教育全学習プログラム（※２）を活用しているか。		
	回答数（人）	全回答者数に対する割合
し て い る	8	7 %
し て い な い	1 0 3	9 3 %

⑬ ワークキャリアとライフキャリアの言葉の意味を知っているか。		
	回答数（人）	全回答者数に対する割合
知 っ て い る	5 9	5 1 %
知 ら な い	5 7	4 9 %

⑭ 自由記述
ワークキャリアやライフキャリアが全く別のものとは判断せず、どちらかが充実すれば必ず結びついてくるものだと考える。今の本校の生徒を見ていると教員からのキャリアに対する働きかけが弱い気がする。日頃の教員の言葉かけや働きかけの小さな努力の積み重ねが大切であることを知って欲しい。そのためにも自立活動や個別の指導計画の考え方を今一度見直してみることが重要だと思う。
キャリア教育の視点から、小学部の児童が目ざすところを明らかにしたい。今現在は各学年がバラバラに取り組んでいるという印象。また中高が、小学部の間に何ができるようになっておいてほしいか、小学部に何を求めているかを知る意味も含めて、中高の教育課程についても知る機会がほしい。
まずは学部内の教育課程をシラバスと連携させてつくるべき。
学部が変わっても児童生徒が受けるべき支援を受けて過ごせたらいい。
実際に就職先や就労支援、作業所等の進路が決定した際の決め手や役に立った学校での支援や指導が知りたい。
高等部卒業後の状況を小中学部の教員がもっと認識できるようにした方が良い。そして高等部の卒業後を見据えての教育課程を早急に作り実施する必要があると考える。

(3) 考察

自由記述欄からもわかるが、キャリア教育を推し進めるにあたって、学部間の系統性を意識しにくいという課題が挙げた。従来から学部ごとに年間指導計画が作られていたものの、実際に行われている授業は各担当者に委ねられており、学部の連続性や発達の順序を意識したものではなかった。従来からキャリア教育の全体計画や学習プログラムは存在していたが、校内でキャリア教育を推進する部署があいまいで、円滑に運用されていたとは言い難い。また、育てたい資質・能力を基に必要な教育内容をどのように設定しているかという視点が弱いことがわかった。

(※1) 既存のキャリア教育全体計画

本校における次の内容が記載されている。

- ・キャリア教育の目標
- ・育成すべき能力や態度
- ・教育目標
- ・児童生徒の実態
- ・保護者・教職員・地域の願い

(※2) 既存のキャリア教育全学習プログラム

本校における次の内容が記載されている。

- ・各教科等の関連
- ・教育内容や方針
- ・学習活動
- ・指導体制

Ⅱ 令和２年度の取組み

１ キャリア教育アドバイザーによる校内視察と研修の実施

校内アンケートの結果、本校の実情として、

（あ）キャリア教育に関する情報は言葉として知っている程度であること。

（い）キャリア教育の視点が授業に反映されているかについては、具体的な根拠が持てないでいること。

（う）キャリア教育についての教員間・学部間で共通理解が不十分であり、小学部・中学部・高等部の教育課程に系統性がないことなどが課題として挙げた。

そこで、キャリア教育アドバイザーとして、梅花女子大学心理こども学部教授 閑喜美史 氏を招き（あ）と（い）について、校内研修と授業見学（指導助言）を実施することで、キャリア教育について正しく理解をし、学校全体で共通認識を図った。

（１）校内研修の内容

キャリア教育の基礎理解に関すること

中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」を中心にした解説。

各学部段階のキャリア教育推進の主なポイントについて

小学部：社会性、自主性、自立性、関心・意欲等を養う。

中学部：社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く。

高等部：高等部修了までに、生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成する。また、これらを通じ、勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立する。

キャリア教育に結びつくと考えられる学習活動について

沖縄県立はなさき支援学校のキャリア教育の取組みについて事例紹介。

キャリア教育の視点を活かした授業づくりについて

自立活動の内容（６区分２７項目）とキャリア教育のつながりや関連性について。

(2) 研修終了後のアンケート結果

		とても そう思う	少し そう思う	あまり 思わない	全く 思わない
1	自身の期待した研修内容であったか。	14%	63%	18%	5%
2	キャリア教育の課題と展望について理解できたか。	15%	65%	15%	5%
3	研修の学びを教育実践に生かしたいか。	28%	56%	13%	3%
4	研修内容は充実していたか。	15%	60%	19%	6%
5	キャリア教育を進めるにあたっての見通しや課題が見つかったか。	14%	55%	25%	6%
自由記述					
10年前からキャリア教育を取り入れようと盛んに言われてきた。しかし現場に浸透しているとは思えない。キャリアとは、生き方そのものを表すと思うが、どうしても職業教育の考え方から抜け出せない人もいて、根底の考え方が違うからいざ全体で取り組もうとしてもうまく機能しないのだと思う。今回の事業は職業教育の古い考えをどれだけ打ち破れるかの挑戦になると思う。最近、子どもにつけたい力やこうなってほしいという教員の思いが大切にされている。周りの先生方の授業をみても、日ごろからそのような視点を感じることは多くなく、言葉は悪いが、やみくもに授業を進めている方、自身の感情のままに言葉かけをされている方をお見受けする。日々の授業がキャリア教育であることに気付けるように進めてほしい。					
キャリア教育は新しく特別な考え方を取り入れるというよりそれぞれの学部で行われている教育活動を意味付け、系統立てることと理解した。そうであれば、全校教科会で全学部の教科担当が顔を合わせる機会があるのだから、キャリア教育について話し合う場にできるのではと思った。					
基本的な内容であった。共通理解を図るための研修であったように思う。					

(3) 見学した授業

- ・小学部第4学年「生活」
- ・小学部第6学年「生活」
- ・高等部第3学年「職業」

(4) 指導・助言

- ・教育課程に則った授業が展開されていない。教科名は「生活」であるが、週によって内容にばらつきがあり、「生活」の授業を通して、子どもに何を身に付けさせたいのかが定まっていない。子どもにも、「生活」の授業は何をするのか、何が目標なのかが伝わっておらず、活動したい欲求が見られるのに、教員がそれに応えきれていない状況にある。【小学部第4学年／生活】
- ・教育課程上、小学部は「日常生活の指導」と「あそびの指導」が大半を占めているにもかかわらず、これらに該当するシラバスがないのはどうしてか。どの授業で読み替えをしているのか。【小学部共通】
- ・授業における評価は、自己評価とともに生徒同士・生徒－教員間の相互評価を取り入れてほしい。生徒の自己評価と相手からの評価のズレを確認し、そこを是正できてこそ、働くための力がつく。【高等部／職業（織物）】
- ・自立活動がメインのグループを見学した。生徒は指示も通り、活動欲求も高い。生徒の学びたい欲求に応えるだけの活動量が用意できていない。【高等部／職業（清掃）】
- ・生徒により重いものを持たせて、重心を意識させたり、体を使う作業を取り入れたりしたほうがよい。【高等部／職業（園芸）】
- ・時間を意識させる仕組みをつくった方がよい。授業の始まりが、校時の始まりと一致しないのは改めるべき。時間を守ることは働くことにつながる。【共通】
- ・キャリア教育全体企画のなかのキャリア発達能力の目標（基礎的汎用的能力）について、具体的な活動と対応させてイメージしやすい文言に変える。【共通】

(5) その他

キャリア教育推進委員を対象に、次の内容でご講話いただいた。

- ・キャリア教育全体計画について
- ・基礎的・汎用的能力とは何か
- ・身に付けさせたい力と具体的な学習活動について
- ・今後のキャリア教育支援体制強化事業の進め方について

(6) 考察

キャリア教育アドバイザーからは、

(あ) 本校では教育課程に沿った授業が展開されていないこと。

(い) 授業を通して、目ざしたい子ども像や身につけさせたい力が定まっていないこと。

(う) キャリア教育について定めた目標が具体的な活動と対応できていないこと。

などが課題として指摘された。

アンケート結果からも言えることであるが、キャリア教育で求められている「力」というものが、教員にはイメージしづらいことがわかった。そこで今後は、以下の内容について取組んでいくこととした。

- ・キャリア教育を理解するうえで頻出するキーワード（基礎的汎用的能力、キャリアプランニングマトリクス、生活の質等）を浸透させたり、どのように授業に結び付けていったりするのかを教員に提示し、見通しを持たせる。
- ・教員間・学部間の共通理解・組織的な取り組みを通じて、教育課程の一貫性や系統性を高めていく。
- ・育てたい資質・能力を基に具体的な教育内容を設定していくという事業推進の筋道が立った。

2 (本校の) キャリア教育支援体制強化事業の取組み案の作成

アンケート結果やキャリア教育アドバイザーによる校内視察により浮かび上がった本校の課題に対し、キャリア教育推進委員会では、次の計画案を作成し改善に取り組むこととした。

年 月	取 組 み 内 容
R2. 4	・キャリア教育支援体制強化事業開始
R2. 10	・キャリア教育についてのアンケート実施（教員対象） ・キャリア教育に関する通信の発行
R3. 1～3	・キャリア教育アドバイザーによる校内視察・研修実施 ・キャリアプランニングマトリクス原案の作成
R3. 4～7	・キャリアプランニングマトリクスの策定
R3. 9～12	・キャリアプランニングマトリクスの授業への展開と検証 ・シラバスへのキャリア教育目標導入についての検討 ・個別の指導計画へのキャリア教育目標導入についての検討
R4. 1～3	・地域の社会資源を生かした取組み（生徒の体験的な活動）
R4. 4～12	・他学部との共同学習 ・地域との交流 ・自立活動とキャリア教育を結ぶ ・キャリアプランニングマトリクスの授業への展開

3 キャリアプランニングマトリクス原案の作成

キャリア教育という視点で、小学部から高等部までの教育課程の一貫性を担保するために、各学部を俯瞰する役割を果たす『キャリアプランニングマトリクス』を作成し、全体に提案することにした。

キャリアプランニングマトリクスとは学校生活 12 年間の学びの連続性が見える化したもの、言い換えれば卒業後の生活を見据え、児童生徒に付けさせたい力を系統立てて一覧にしたものである。マトリクスはいろいろな目標を積み上げて、できることを増やしていく面もあるが、技術の獲得だけに主眼を置いているわけではない。本校では、マトリクスという共通した指標を基礎に、日々の授業内容を考え、実践していくことで学びの連続性を踏まえようと考えた。本校がめざすイメージ像をマトリクスで可視化し、そこに書かれている内容を授業に落とし込めるように作成した。

新規作成するマトリクスは、他の学校で使われているものを参考にして、国立特別支援教育総合研究所が平成 20 年に公表した試案を基盤に作成した。それが、第 1 版である。

【資料 1－1 ～ 1－3】

第 1 版に対しては、次の意見が挙がったので、改訂を行なった。

- ・学部段階別に 200 近い項目を並べており、情報量が多すぎて、理解・実践することが難しい。
- ・つけたい力に各教科がどのように関連しているかが分かりにくい。
- ・学部でつけたい力を区切ってしまったため、子どもの発達に合わせて運用できない。
- ・マトリクスをどうやって使うかが分かりにくい。
- ・キャリア教育推進委員会で作成したため、実践する教員の認識を取り入れられていない。

4 キャリア教育に関する校内における情報共有

(1) 小学部教員を対象とした進路講話（年 2 回）【資料 2】

第 1 回目	第 2 回目
・本校卒業生の進路実績について ・本校の教育課程について ・本校の職業コースについて ・キャリアプランニングマトリクスについて ・自立活動とキャリア教育について ・大阪府立支援学校の実践例について等	・障がい児を対象とした福祉サービスについて ・18 歳以降に利用できる福祉サービスについて等

第 1 回目は、キャリア教育推進委員が、第 2 回目は進路指導主事（高等部）が講師となり、上の表の内容で小学部教員を対象とした講話を行った。高等部を卒業した後の生徒の生活について、（これまで進路指導に精通していなかった）小学部の教員も理解することができた。

(2) 通信「思斉のしせい」の発行（週 1 回）【資料 3】

国立特別支援教育総合研究所が主催する専門研修（令和 2 年 1 月～3 月）に参加した教員による研修報告書「思斉のしせい」を発行した。研修中、キャリア教育等の分野について学んだ内容を週 1 回のペースで全校教員に発信した。なお、この取り組みは埼玉県立越谷西特別支援学校が同様に発行する「コンシェルジュレポート」とのコラボレーション企画であり、同校とは記事を通じた交流を行った。

通信の効果測定は行っていない。通信の発行は、本校の教員向けに始まった取り組みであったが、現在（令和 4 年 9 月）は、本校支援室の地域支援の一環として引き継がれ、校区の各学校にキャリア教育を含めた特別支援教育の知識を提供している。

Ⅲ 令和３年度の取組み

１ キャリアプランニングマトリクス第２版【資料４】の作成

第１版の反省を踏まえ、第２版を作成した。なお、第２版は広島県立三原特別支援学校が作成したカリキュラム・マップ「清掃」「おもてなし」を参照した。（三原特別支援学校の取り組んでいる「接客」や「清掃」の内容が本校の取組み内容に近い。）

（１）第２版の改善点

- ・ 普段の授業の中で実践していることを取り入れた。（日々の挨拶、呼名されたときの応答、友だちとのコミュニケーションで必要なことなど。）
- ・ 本校の特色ある取り組みとして職業コースで取り組んでいる「接客」や「清掃」について具体的に表現した。
- ・ あいさつ、みだしなみなどの各項目についてＡ～Ｃの３段階とし、全ての児童生徒に活用しやすいようにした。

（２）第２版の課題点

- ・ これまで本校で実践し、成果をあげてきた授業づくりの方針やノウハウがキャリアプランニングマトリクスの内容と関連付けられるのかはわからない。
- ・ 授業計画や個別の指導計画とキャリアプランニングマトリクスを関連付けて考えた教員が少ない。

２ マトリクス運用シートの作成と蓄積

（１）マトリクス運用シートの作成

第２版の課題に対しては、マトリクスを実際に運用していくことで、教員がキャリア教育の観点を意識し、掲載した内容が児童生徒にとって本当に力になっているのかを検証していくことにした。検証するために用意したのが、次頁に掲載してある「マトリクス運用シート」である。

このシートは、授業の中でマトリクスにある内容を扱い、実践できるかどうかを確認するためのものである。シートには、身に付けたい力、本時の学習活動や支援方法、力が身についたかの３項目について記入するようになっている。

上段には、それぞれの教員が実践する授業の中で、児童生徒に身に付けさせたい力をマトリクスの中から選ぶ。中段には、その身に付けさせたい力に関連した本時の授業活動や支援方法について記入する。下段には、学習方法や支援方法が有効であったかについて総括するようになっている。

(4) 分析結果

各学部 100 枚ずつ、3 学部で 300 枚の提出を目標にしたが、集められた枚数は小学部 100 枚、中学部 42 枚、高等部 51 枚の、計 193 枚であった。どの学部もほぼ一人 1 枚提出があったが、中学部・高等部については、複数枚数の提出は難しかった。小学部は、36 人の教員で 100 枚を達成している。全体で 300 枚を達成できなかった理由に、本事業の必要性について教員が共通認識を持てていないこと（キャリアに対する基礎的な理解が全体に浸透しないうちに、事業を進めてしまったこと）が挙げられる。小学部については、進路指導部と協力し、キャリア教育について研修等を行ってきた効果が大きい。

全体で 300 枚の提出は達成できなかったが、統計的には有効とみて傾向を分析した。

【資料 8】に掲載しているマトリクスのそれぞれの項目には、数字を記載している。数字はその項目を選んだ教員の割合を示している。概観すると、本校の教員がキャリア教育で大切だと思っている項目は、人とかかわり、意思表示、手順に沿うこと、見通しを持つこと、指示を聞いて行動すること、自分の役割を果たしながらみんなと一緒に活動することであった。また、本校に通う児童生徒の 4 割は、発達段階がマトリクスでいう A 段階にあること（マトリクスの段階設定が高かったという可能性もある）、具体的な職業能力よりも、自他理解やコミュニケーション能力に重点を置いて指導していることが分かった。

(5) キャリアプランニングマトリクスについて

「マトリクス運用シート」を集めることで教員が考える「付けたい力」を明らかにすることができた。同時に提出のあった教員からは、キャリア教育とはどういったものか理解できたといった安心感も少なからず得ることができた。日ごろの授業について、マトリクス運用シートを使って検証することで、すでにキャリア教育の視点が授業に反映されていることに気づいたからである。自分たちがすでに行ってきた授業が決してキャリア教育と無関係ではなく、多くの部分がキャリア教育の観点で行われてきたということを改めて認識することができた。

また、授業において、基礎的汎用的能力についてキャリアプランニングマトリクスの特定の領域の取り扱いが少なかったり、対応していないものがあったりすることにも気が付いた。その場合、授業自体の目標に照らして、キャリア教育の観点からの成果に不足があれば改善を行っていきたい。

キャリアプランニングマトリクスは、私たちがキャリア教育の内容を把握する上で重要な指標になった。マトリクスの役割は、シラバスで決めている教育内容を、キャリア教育の観点から見直したり、補完したりすることである。普段行っている授業がキャリア教育的なものであるために、つい学習内容とマトリクスに互換性があるかのような錯覚をもってしまいがちであるが、マトリクスだけで授業内容を決めるのではなく、まず、学習指導要領に準拠した教育課程をしっかりと編成したうえで、それをマトリクスの観点から検証するなり、改善するなりといった手順をとることが必要であると感じた。

3 「子どもの願いや思い」の聞き取り調査

(1) 児童生徒の願いや思いについて

キャリア教育推進事業のなかで、キャリア教育に対する教員の思いを吸い上げてきた半面、児童生徒の願いや思いについては直接取り入れる動きが弱いという意見が挙げられた。児童生徒側から表出される願いや思いなどについては、個別の教育支援計画に「本人の願い」を書く欄が設けられているが、子どもによっては意思の確認や将来を見通しての判断が難しかったりするなど、意味のある項目になりえていない現実が一部にある。

本人の願いを把握することによって、キャリア教育における本人の生き方への支援を考えることができる。これまで、教員が児童生徒に身に付けさせたい力をマトリクスの中に盛り込むことはできたが、児童生徒の思いを吸い上げる動きは弱い。児童生徒自身が自分の生活の中で現実的な必要性をもって発揮したい、生き生きと活用したいと思える力もマトリクスの内容に反映させたいとキャリア教育推進委員会の中で意見が出た。

そこで、卒業を控える高等部3年の職業コースの生徒にこの視点から学校生活、将来への希望についてアンケートをとることにした。設問については、教員が児童生徒に身に付けさせたいと思っているマトリクスの内容について、その達成状況を生徒自身に自己評価してもらう項目と、生徒自身が自分の成長のために必要だと感じている能力について問う構成になっている。

(2) アンケート内容

- ・ キャリアマトリクスに関連する 10 項目について、高等部3年間の振り返り。
（「よくできた・できた・すこしできた・あまりできなかった」の4段階）
- ・ 高等部3年間で頑張ったこと。
- ・ 高等部3年間の経験で将来役に立つと思うこと。
- ・ 高等部3年間で自分が成長したと思うこと。
- ・ これから勉強したいこと。
- ・ どんな大人になりたいか。

(3) アンケート結果（文章表記は原文のまま）

	質問	◎	○	△	×
1	友だちや先生の話聞いて理解することができた。	4	2	0	0
2	相手が理解しやすいように工夫して自分の考えや気持ちを伝えることができた。	1	5	0	0
3	自分から役割や仕事を見つけ、友だちと協力して行動することができた。	3	3	0	0
4	自分の興味や関心、長所を生かして活動することができた。	3	2	1	0
5	苦手なことも最後まで取り組むことができた。	2	3	1	0
6	分からないことやもっと知りたいことについて、情報を集めることができた。	1	3	2	0
7	何かをするとき、見通しを持って計画的に進めることができた。	1	2	3	0
8	手順を覚えて清掃ができた。	5	1	0	0
9	友だちのことを考えて行動することができた。	2	4	0	0
10	自分の好きなこと、得意なことで力を発揮することができた。	3	3	0	0

◎：よくできた ○：できた △：少しできた ×：あまりできなかった

高等部3年間でがんばったこと
・自分の意見を相手に伝えるようにがんばりました。 ・指示通りに動いたり効率の良い作業を考えたり、早く作業をするように意識しました。 ・親に言われていることを意識してがんばりました。
・いろいろあったけどがんばれた。
・部活をがんばった。 ・実習をがんばった。
・自分から友だちとコミュニケーションすること。 ・自分の気持ちを相手に伝えること。 ・将来のために「一つ先のことを考えて行動する」と心がけ、現場実習でも学校でも取り組みました。
・コミュニケーション力を高めること。 ・自分の思っていることを言うようにすること。
・カフェの接客。 ・自分の気持ちを言うこと。

高等部3年間の経験で将来役に立つと思うこと
・現場実習で働く大変さや働く人と協力することの大切さを知ることができました。
・相手の気持ちを考えたり、人とのつながりを大事にしたり、感謝の気持ちを持ってお礼をいうことなどを教えていただきました。 ・周りと同じスピードで作業をすること。
・人とかかわり方。
・接客の挨拶。 ・校内実習の立ち仕事。
・職業でのカフェの実習。 ・家庭科の授業。
・現場実習で仕事の大変さを学んだ。
・職業でパソコンのタイピングをしていくうちに、あまり手を見ずに打つことができた。
・校内実習、現場実習、面接など、色々な方とコミュニケーションをとり続けてきたおかげで、初対面

の方やお買い物の際に、分からないことを店員さんに聞けた。(成長できた経験でした。)
・バスケット部で体力をつけたこと。 ・掃除の力をつけた。

高等部で自分が成長したこと
・相手を気づかうことができるようになった。 ・作業時間前にいるように時間を守ること。
・前よりコミュニケーションがとれるようになったこと。 ・自分のことが好きになったこと。
・自分が立てた目標をクリアできるように、あきらめずがんばることができた。
・特に思い当たりません。
・友達や先生とコミュニケーションが取れるようになった。
・自分の苦手なことでも積極的に仕事ができるようになった。
・自分からコミュニケーションできることが増えました。面接で相手の目を見て、受け答えすることができました。 ・相手に自分の気持ちを伝えることができました。
・現場実習で、仕事の作業ができたり、分からないことを何度も聞いたりすることができました。
・先生の話をよく聞けるようになった。 ・自分からすることを聞けるようになった。

これから勉強したいこと
・私は、スーパーで働くので、いろいろな食品のルールの勉強です。
・SDGsをもっと知りたいので、それについて学びたいです。
・料理と人とのかかわり。
・エクセル。
・パソコンのより詳しい勉強。
・仕事をする上での人付き合い。 ・料理。
・人とのかかわり方。

どんな大人になりたいか
・人に喜んでもらえる大人。 ・人の役に立てる大人。 ・人に愛される人。
・どんな大人になりたいかとかはないかな。今思ってもその通りの人生になることはほとんどないから。
・人の役に立てる大人。
・人に喜んでもらえる人。
・職場で長く働ける女性。 ・自分に素直になりたい。 ・料理ができる女性。
・笑顔で誰とでもコミュニケーションができる。 ・自分を隠しすぎない。
・難しい言葉や内容を理解できる。 ・恋人ができ、結婚し、その人とずっと一緒にいたい。
・自分の意見を言える人。 ・人に感謝される人。

(4) 考察

概観すると、教員が生徒に身に付けさせたいと考えている力は、生徒自身も認識できしており、力として身につけていることがわかった。◎（よくできた）、○（できた）の回答が全体の過半数を超えているのは10項目中7項目である。生徒の自己肯定感の向上につながるように、教員が授業の内容や支援の方法を考えて実施できていると考えたい。一方で、相対的にみると、自分から情報を集めて見通しを立てることは、他の項目と比べるとやや低い。

自由記述欄を見ると、高等部3年間で頑張ったことや学んだことがたくさんあり、ほとんどの生徒が自分の成長を感じている。また、学んできたことを将来に生かしたい気持ちを読み取れる。頑張ったことは、コミュニケーションの分野で自分の意思表示を挙げた意見が多かった。高等部3年間の経験の中で、将来役に立つと思うことは、対人という観点で述べられているものが多い。コミュニケーションに関する記述が多いのは、これから勉強したいことの欄でも同じである。どんな大人になりたいかの設問からは、やはり自己肯定感を高く持ち、自分の力を発揮できる大人になりたいという気持ちを読み取れる。ただ中には、自己肯定感が低く、将来の夢や自分の希望の実現に消極的な意見を寄せる生徒もいる。早期から自分のキャリアについて考える機会の設定の必要性を改めて感じた。設定した（小さな）目標やその達成状況を小刻みに確認させ、できたことで自己肯定感が高められるような指導が重要である。

4 キャリア教育の実践

(1) 高等部職業コースでの取組み

本校では、高等部に職業コース（職業自立コース・社会自立コース・生活自立コース）を設置している。特色ある取組みとして、第2学年と第3学年の職業自立コースでは、それぞれカフェを運営している。高等部3年生はカフェ「SISEA」を、高等部2年生は「思斉ブー太郎カフェ」を月2回営業している。

職業コースの教育課程は、シラバスにおいて単元、学習活動、評価基準を定めて編成している。単元において、3観点別目標や身に付けさせたい資質・能力について具体的に定め、学習活動を行っている。

「SISEA」では、令和4年2月5日（土）の学習参観日に合わせて「カフェと雑貨の店 SISEA」をオープンさせ、社会自立・生活自立コースの生徒たちが製作した小物等も合わせて販売する学習を行った。通常はカフェ単独での営業だが、この日は卒業を控えた高等部3年生全員が「SISEA」の運営に参加した。

この単元の目標は次のようになっている。

- ・正しい接客態度を身に付けることができる。(知識・技能)
- ・顧客に対する挨拶や言葉遣いを身に付けることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・自分の役割を最後まで取り組む。(学びに向かう力・人間性等)
- ・保護者や教員に商品を提供し、評価される経験をする。(キャリアプランニングマトリクス)



(左上) カフェオープンを知らせる掲示物

(右上) 呼び込みのチラシ

(下) 商品カタログ

(2) 小学部と高等部の交流学习

小学部児童の買い物学習として高等部のカフェを利用する学習を設定した。

通常は月2回程度オープンしている高等部のカフェを、小学部のために臨時（貸し切り）オープンした。コロナ禍のため、以前のように直接飲料を注いで提供することはできないので、既製品のパックジュースを数種類用意し、その中から好きなものを選んでもらった。高等部の生徒たちはこの日に向けて、どうすれば小学部の児童に喜んでもらえるか、意見を出し合って考えた。

小学部の児童にも伝わる言葉遣い、優しい笑顔に気を配り、ちょっとしたおまけ（プレゼント）を提供するなどして、店内の雰囲気を和やかにするように心がけた。

小学部の児童は、ほぼ大半が金銭の扱いに不慣れであり、難しい言葉も理解しづらい。高等部の生徒は、児童の接し方に戸惑うこともあったが、教員に支援を求めることなく、自分の経験等を生かし、お店を切り盛りすることができていた。小学部の児童も、高等部生徒の誘導にそって、質問に答えたり商品やサービスを選んだりすることができていた。感想を聞くと、児童は「高校生のお兄ちゃんお姉ちゃんってやさしいね。」と言い、教員も「高等部生ってこんなに誠実で素直な面を持っているんですね。」と好印象であった。高等部の生徒は、最上級学年として、小学部の児童のことを理解しようとしてくれていた。また、高等部の教員は、児童が静かに待っている姿や、丁寧な挨拶や言葉遣いを意識して行っているのを見て、高等部での指導は、小学部低学年からのきめ細かい積み上げの上に成り立っていることに気づくことができた。小学部・高等部の教員が、お互いの学部の子どもたちのことや指導のあり方を、改めて知れた点が見逃せない。子どもの側だけでなく、小学部と高等部で教員間の交流が増えたことも成果である。お互いの子どもを見合うところから、なぜキャリア教育が、小学部と高等部の連携が必要なかが少しではあるが理解された。



(左) 会計の様子。

(中央)「手作りコースター」をプレゼントしている様子。

(右) 後日、小学部3年生からお礼状が手渡された。

(右下) お礼状の内容。



(3) 地域資源を生かした取り組み

高等部2年生の職業自立コースの生徒を対象に、出前授業を実施した。

大阪市北区にあるリーガロイヤルホテルの人事部の方にお越しいただき、コロナ禍における「おもてなしのこころ」についてご講話いただいた。接客業務に必要な心構えや、真に喜ばれる接客とはどのようなものか、ワークショップを交えて学んだ。

講話では、「笑顔」「あいさつ」「返事」を、おもてなし（接客）の3つのポイントとして挙げ、良い接客になる要素を一つずつ確認した。

例えば、マスクを着用した際の笑顔の表出の仕方については、眉毛や目を（ややオーバーに）動かして豊かな表情を作ることや、語先後礼で礼儀正しさを表すなどである。生徒たちは二人一組になって、自分の接客がさらに良いものになるように練習し合った。

その後、取り組んでいる「カフェ実習」についても、一つひとつの動作について講師の先生に確認していただき、今自分ができていること、さらに良くするためにできることについてアドバイスを頂いた。

生徒たちは、この講習を通じて現在の自己分析をすることができ、職業（仕事）の楽しさや厳しさを感じ取ることができた。また、プロの仕事を学ぶことで、社会生活を送るうえで必要な力を高め、就労に向けて準備にもつながった。ただ単に、接客の手順を覚えるのではなく、なぜそうするのか、なぜこの動作が必要なのかを理解し、生徒自身が考えて動いている姿が見られた。

生徒たちは、仕事をしていて嬉しかったこと、大変なこと、ホテルにおける就労規則（髪型等）や障がい者の雇用状況などについて、各々が気になることを積極的に質問していた。

出前授業で受けた指導は、職業自立コースの授業で復習し、学校で運営しているカフェの接客で実践している。

今後も、キャリア教育につながる地域の教育的資源を積極的に活用していきたい。



講師の先生から講義を受ける様子

(4) センターの機能の取組み

思斉支援学校のキャリア教育を取り入れた地域支援を行っていこうと構想している。その一歩として、大阪市鶴見区役所保健福祉課子育て支援室と連携した合同研修会を実施した。対象は、鶴見区内に所在する、保育園・幼稚園の教職員、放課後等デイサービスの職員である。本校に入学する前から、地域の関係者が「発達」や「キャリア教育」という共通の意識を持って、子どもたちに関わっていききたいという鶴見区役所の声に本校の支援室がこたえた。

現段階では、学校紹介や簡単な子どもの発達についての紹介にとどまっているが、今後は、保健師さんや子ども相談室の相談員さん、保育園、幼稚園の先生とキャリア教育に関する情報交換を進めていく予定である。

また、本校は特別支援学校のセンター的機能の一貫として、校区の学校への訪問支援を行っている。その際に、キャリアプランニングマトリクスの項目を取り込んだ実態把握シートを作成するなどして、(キャリア教育の面からも)対象の子どもに適した支援を提供できるシステムが構築できないか検討している。



鶴見区役所で講演する本校のリーディングスタッフ

IV 令和4年度の取組み

1 職員研修の実施

特別支援学校のキャリア教育は、自立活動と近接した教育活動である。キャリア教育と自立活動の共通する目標は「自立」であり、自立活動にキャリア教育の視点を盛り込むことで、特別支援学校のキャリア教育が充実すると考える。しかし、本校では、子どもたちの実態をより的確に把握するために具体的に何をしたらよいのか、と悩む教員が多くいた。心理検査や発達検査から、客観的な実態把握はできるが、毎日子どもたちと関わっているからこそ見えてくるものもある。そこで、自立活動の視点から子どもたちの実態を把握することを通して、子ども理解を深め、指導に生かすことを目的に、夏期公開講座を実施した。

(1) 題目等

「今、改めて知的障がい校における自立活動とは」
大阪成蹊大学教育学部准教授 瀧本 一夫 氏

(2) 講話内容

自立活動を充実させるためには、実態把握において子どもの情報を「収集」し、収集した情報同士を「関連づけ」て「整理」することを通して、子どもの中心となる課題が導き出せる。情報の収集・関連付け・整理ができれば、的確な実態把握ができ、それを根拠に指導内容を考えることができる。

「収集」では、子どもの困難さだけではなく、長所を把握し、伸ばすことでつまづきを改善したり、調和的な発達につなげたりする。「関連付け」では、集めた情報同士の因果関係や関連性に着目して考える。「整理」では、自立活動の内容である6区分27項目に即して分類する。この一連の作業を通せば、教員としての経験則や直感に基づく実態把握では見えなかった観点に気づくことができる。

そして、具体的な指導内容については、学習指導要領の解説編を参考にしながら、指導の「場面」「対象」「手段」の3つを決める。これらを繰り返すことで、子どもたちの生活の質を向上させることにつながる。

(3) 実践（小学部）

午前中瀧本先生の講話を拝聴した後、午後からクラスごとに分かれて、対象児童を選びの実態把握を次の手順で行った。

- (A) 対象児童の実態について、強みや課題を付箋に書きだす。
- (B) 集まった付箋を、自立活動の6区分27項目に分類して模造紙に貼る。
- (C) 自立活動の短期目標を設定する。
- (D) 短期目標を達成させるために身に付けるべき力、必要な指導について考える。

(4) 講演・実践（小学部）の様子



(左上) 夏期公開講座 (右上) 小学部実践の様子
(下) 成果物

(5) 参加者の感想

- ・ 午前の研修の後、午後すぐに実施することができ、すごく今後の自分のためになった。改めて、学年の先生方と児童について深く話ができる機会だったので本当にありがたかった。
- ・ 児童の自立活動をじっくり話し合い分析する時間は普段あまりないのでよかった。
- ・ とても学びのある研修だった。クラス全員分やりたいと思った。(目標設定のときにやりたい。) 午前中の研修と関連付けて考えることができたので、子どもの実態把握から目標設定の文言の書き方まで深く考えることができた。
- ・ 一人の児童に焦点を当ててクラスで話をするができる貴重な機会だった。
- ・ 私には見えていなかったことが他の教員の目には見えており、なるほどとなるが多かった。
- ・ 自立活動等、児童について考えるときにどうしても課題ばかりに目を向けてしまうのだが、実際に紙に書いて意見を出し合うことで、たくさん長所も見え、伸ばす方法が見えたのでよかった。
- ・ 一人の児童に対して複数の教員で「収集」「関連付け」「整理」することで新たな気づきや深い実態把握ができた。

2 思斉支援学校小学部と高等部の交流学习の実施

学年や学部内での児童生徒間の交流は、特別なしかけがなくとも自然にできることが多い。しかし、社会に出れば年齢の違う者同士が協力し合うほうが自然であり、学校内においても年齢の異なる集団との交流が児童生徒の自己肯定感や将来の意識に影響を与えることができると考え、小学部と高等部の交流学习を設定することとした。

キャリア教育推進委員が、小学部1年生と高等部3年生の担任であることから、対象を同学年として、高校生が小学生をサポートする形で交流学习を行った。高校生が小学生を教える設定にしたのは、高等部の生徒が小学部の児童に分かりやすく手順を説明したり手助けしたりする場面を増やしたかったからである。(キャリアプランニングマトリクス5-C・9-Cに該当) 一方で、小学部の児童としても、高校生が先生として教えてくれることで課題への興味・関心が引き出しやすくなるのではないかと考えた。題材は『リースをつくろう』図工(小)、美術(高)である。

(1) 「図工・美術」学習指導案・・・【資料9】

(2) 学習活動（75分）

- ・授業の場所と流れ、めあてを知る。
- ・教室に移動し、グループに分かれて座る。
- ・学習活動の流れを確認する
- ・グループで自己紹介をする。
- ・名前を伝え、好きな色を質問する。(高等部)
- ・自分で名前を伝え、高等部の生徒の質問に答える。(学習指導要領小学部1段階)
- ・自分の顔写真を相手に見せ、高等部の生徒が提示する色カードを見て選択する。(学習指導要領小学部2段階)
- ・小学部の児童が選んだ色を粘土に混ぜる。(高等部)
- ・高等部の生徒が混ぜた粘土をこねる。(小学部)
- ・手のひらで粘土を伸ばし、小学部の児童が型を取った粘土をパットの上に載せる。(高等部)
- ・好きな型を選択し、粘土の型を取る。(小学部)
- ・今日の授業の感想を言葉で伝える。
- ・感想や感謝の気持ちを言葉で伝える。(小学部1段階)
- ・「ありがとう」や「ハイタッチ」をして伝える。(学習指導要領小学部2段階)
- ・次回の学習活動を知る。

(3) 高等部生徒の感想

- ・小学部1年と遊べたり、手作りのメダルをもらって嬉しかったです。かわいかったです。サイコー●●くん。
- ・小学部1年生と一緒に作るのが楽しかったです。教えるのがちょっと難しかったです。
- ・●●さんと●●さんとペアになってよかったです。粘土をこねたり一緒にできてよかったです。教えるのが難しかったけれど、うまくできました。●●さん、●●さんといろんなことを話しました。大変だったけど楽しかったです。
- ・小学部1年生と交流会をしてみて一緒に遊べてよかったです。ちょっかいもかけられたけどかわいかったです。また遊びに行きます。
- ・1年生と一緒に遊べてよかったです。
- ・短い時間だったけど、一緒にリースづくりをしたり、メダルを作ってくれて嬉しかったです。また一緒にギヤーギヤーさわごうね。
- ・1年生といっぱい遊べて楽しかったです。かわいかったです。またサンタみたいにやってきます。
- ・2時間一緒にリース作りが楽しかった。思斉祭の劇すごよかった。またクラスに遊びに行きます。
- ・メダルをつくってくださりありがとうございました。

(4) 教員の感想

1年生の実態として、教室移動が難しかったり、座っていることが難しい児童がたくさんいる中、高等部の生徒が交流学习の中でどのように児童と関わるのか、私自身の見通しが立たないところがあった。

本時の学習では、小学部と高等部との関りを重視することから、教員の関りは極力控えるようにしたが、小学部児童の予測できない動作や行動に高等部の生徒も少し困惑する状況も見られた。しかし、教員が見守り続けると、高等部の生徒が自ら手を添えたり、優しく言葉かけをしたり、時にはユーモア溢れる発言をしたりする姿があり、小学部の児童もその関りから安心や頼もしさを感じているようだった。

また、教員側も今まで挨拶しか交わさなかった高等部の生徒との会話が生まれたり、今後も交流学习を実施していきたいとの声があったりと、交流学习を通じて、児童生徒だけでなく教員の他学部への意識や関りも豊かになったと感じた。(小学部教員)

高等部の生徒が他学部の児童と交流をすることが初めてのため、子どもたちの距離感が縮まらず、盛り上がるのがなく交流が終わる可能性もあると思っていた。交流が始まってからは、子どもたちに壁はなく、児童が見やすいように目線を下げたり、教える際に、手を添えたり、「ぎゅーだよ」と馴染みやすい言葉かけをしたりと相手を思っている行動が自然ととれていた。

休憩時間には一緒に本を読んだり、抱っこしたり、お話したりと交流がより深まる様子が見られた。

普段クールな様子が見られる高等部の生徒も交流中や交流後の表情が柔らかく、感想を聞くと「楽しかった」「またやりたい」と次を期待する声も多くあった。交流後も児童の様子を気にかけていて、廊下などですれ違うときに声をかけており、繋がりが継続している。(高等部教員)

(5) 総括

これまで校内で学部間交流を行ったことがなく、今回の試みは学部間交流の試金石として、今後の模範になることをねらいとした。何カ月も前から、小学部児童と高校部生徒が一緒にできる活動やテーマは何か、お互いに相手をどう意識させるか、どんなツールで交流するかについて担当者間で話し合い、準備を進めた。

交流の進行は、小学部と高等部の教員がそれぞれの教室で行い、両学部の教員がサブティーチャーとして加わった。1教室を3つのグループに分け、それぞれに生徒をメンターとして配置した。生徒は伝わりやすい言葉を選びながら児童に話しかけていた。授業に係る話から、無関係なものまでいろいろな話題を投げかけながら打ち解け合った。粘土は取り扱いが簡単ではあるが、細かい作業や集中力が求められる場面では生徒が行い、児童の学習活動のすべてにおいて生徒がサポートしてくれた。

今回の交流学习をとおして、児童生徒のキャリアプランニング能力(相手の気持ちを

知る)を確かめることができた。小学部1年生と高等部3年生の交流では、高等部生徒が見違えるほど優しくなる。小学部児童も想像以上に、高等部生徒に心を開いてかかわる姿が見られた。また、お互いに他者意識をもつきっかけになった。伝える相手が明確になると、「どうすれば相手に伝わるか」を考えようになり、相手に説明できるようになる過程で、自身の理解も深まった。

今回の交流は、キャリア推進委員が受け持つ学年で行ったので、実践はスムーズであったが、一部での取組みの実践になったことは反省点である。今後、学校全体に異学年交流学習の意義を拡げていけるようにすすめていきたい。

(6) 児童生徒の様子



(上段左)(上段中央) 小学部教室の様子

(上段右)(中段)(下段左) 美術室の様子

(下段中央) 後日、作品を高等部の生徒がラッピングして届けた

(下段右) 小学部児童から高等部生徒へお礼のメダルをおくった

3 職業自立コースにおける難波支援学校との交流

思斉支援学校のキャリア教育の取組みは、大阪府教育庁が実施する研修「就労支援研修」及び「キャリア教育支援体制強化事業中間報告会」の2回において、府立学校の教職員を対象に報告している。本校の取組みを聞いてくださった難波支援学校の先生から、「ぜひ、両校で交流をしませんか。」と誘いを受け、両校の高等部職業コースで協働学習が実現した。

日程や対象学年等の調整が難しかったが、生徒たちはこれまで経験したことのなかった支援学校の生徒同士の交流をすることができた。

(1) 日 程 令和4年12月1日(木)

(2) 場 所 大阪府立難波支援学校 図書室、教室等

(3) 対象生徒 思斉支援学校 高等部3年生 職業自立コース(13名)
難波支援学校 高等部2年生 職業自立コース(12名)

(4) 目的及びキャリアプランニングマトリクスの観点

【思斉】

- ・他の生徒と連携、協力しながら作業する。(マトリクス9-C)
- ・限られた時間で、場所や状況に応じて効率よく清掃をする。(マトリクス12-C)
- ・校外の人たちに、商品やサービスを提供し、評価される経験をする。(マトリクス17-C)
- ・交流を通して経験を深め、社会性を養う。
- ・これまで学習してきたことを互いに教え合うことでより深い学びに発展させる。

【難波】

目的	キャリアプランニングマトリクスの観点	
「職業」の授業成果を発表する。	やってみる	新しいことにチャレンジし、失敗しても次にすすむ。
学んだ技術を他校の生徒にアドバイスする。	伝える	自ら、その場に応じた言動をとる。
望ましい態度で人と関わる経験をする。	かかわる	自分の立場を意識して、適切に人と関わる
他校の生徒と協働する。	役割	自分の役割だけでなく、周りの状況を見て、手伝ったり代わったりする。

(5) 時 程 ・ 内 容

思 齊		難 波	
9:00	思齊発（メトロ・JR）	9:30	会場集合、準備、リハーサル
10:20	難波着 更衣		
		10:40	交流開始あいさつ 学校紹介プレゼンテーション
10:55	学校紹介プレゼンテーション		
11:15	机拭き 協働学習 開始〔2階 講堂前 特設会場〕 1. グループ 4グループ（1～4班、1グループ6～7名） 2. 手順の確認 3. 教室巡回清掃の説明 4. 教室巡回清掃 5. 片付け 6. 振り返り 交流終了あいさつ（思齊）		
12:10	机拭き 協働学習 終了		
12:15	昼食		給食
13:00	難波発		



(6) そ の 他

- ・机の拭き方は次の難波支援学校の方法による。
 （水拭き）①杵拭き ②横拭き ③縦拭き
 （乾拭き）①杵拭き ②横拭き
 （アルコール拭き）

(7) 生徒の感想（原文のまま）

・今回は協働学習をさせていただきありがとうございました。難波支援学校を見た時に廊下が広く、キレイで何も言われなくても皆が右側通行をしていたのすごかったです。そしてプレゼン発表を見させていただいた時は、高校2年生なのにコミュニケーションや連携、そして自分たちでも理解ができる発表だったのでものすごく素晴らしかったです。掃除の際に、難波の生徒さんに机の拭き方を教えてもらいました。私が困っていた時にわかりやすく、ていねいに教えてもらったり、難波の生徒さんの声かけが私よりできていたのすごかったです。最後に難波支援学校の高校二年生の皆さんと先生方ありがとうございました。

・難波の学校を見たときは、思斉支援学校の3倍くらい大きくてびっくりしました。廊下や教室も広がったです。机の拭き方を教えてくれてありがとうございました。教えてもらいすぐできるようになりました。グループで、次は何をしたらいいか分からないときに、相談したらこたえてくれました。いろいろな場所をグループで掃除できて楽しかったです。難波のみなさんのプレゼンが上手でびっくりしました。一人一人がでてきて、発表していて、上手にスムーズに交代していました。すごかったです。今日は貴重な時間をありがとうございました。

・思斉支援学校と違うことがたくさんあって驚きました。同じ机の拭き掃除でも思斉とは違ったやり方もあるんだなと思いました。例えば、拭いた椅子の角度や向きで同じ人が拭かないようにして分かりやすかったので、自分もやっていきたいと思いました。

・難波のみなさんの学校紹介のプレゼンがかなりの準備をされていることを感じました。声の大きさやスライドの見やすさなど、非常に丁寧でわかりやすいプレゼンでした。全体を通して、難波のみなさんの礼儀正しい所や、はきはきと発言されている所、広い校内をいつも清掃されていること、素晴らしいスライドを見せていただいた所から、多くのことを学ばせていただきました。

・私は難波支援学校と交流できてよかったです。短い時間でしたが、机の拭き方や椅子の向きや角度などいろいろ知ることができてよかったです。最初は緊張して話すこともできなかったけれど、一緒にペアの人が優しく教えてくれたのでわかりやすくてすぐにできました。発表の声とか聞き取りやすく絵の背景がきれいでした。今日は本当に交流ができてよかったです。掃除の基本とか難波支援学校の良い所を知ることができて嬉しかったです。これから教えてもらったことを生かして掃除をやっていきたいと思います。



お礼状を書く様子

(8) 総括

生徒同士で教え教えられる関係のなかで、生徒からは、他者に対する思いやりや配慮を感じることができた。清掃という活動を通して、同じ目標の達成に向けて一緒に頑張ろうとする姿勢を見ることができた。大きな校舎や系統立った清掃のマニュアル等、思斉支援学校と難波支援学校の校風や学習スタイルの違いを感じた生徒もいたが、思斉の生徒は教わったことを積極的に行動に移し、相手校のスタイルを理解して清掃活動をすることができていた。思斉支援学校高等部3年の職業コースでは、授業の中で、生徒自身が考え判断する場面が多くなるように課題設定を行っており、その成果もあって、今回初めての場所、初めて出会う人であっても、周りの人とどのように行動すれば

よいかを判断できていたと思う。

2校間での共同学習であったが、今後は近隣の支援学校にも呼びかけて、参加校を増やして継続できたらと考えている。

(9) 活動の様子



(上段左・上段中)

学校紹介プレゼンテーションの様子

(上段右・中段左)

両校の生徒が2人1組になって活動の説明を聞く

(中段中・中段右・下段左)

難波支援の生徒から助言を受ける思斉支援の生徒

(下段中)

教室巡回清掃

(下段右)

中学部のある教室に書かれていたお礼の言葉

4 ペアレントトレーニングとキャリア教育報告会の実施

小学部の保護者を対象に、「Co-そだてセミナー」と題して、ペアレントトレーニング講座を実施した。この講座は、子どもの困った行動の背景を考え、適切な行動に注目し、ポジティブな行動支援を体験的に学べるプログラムになっている。本講座の最終的な目標の一つに「学校・家庭・福祉機関との連携方法をともに考える」ことを掲げ、学校と家庭が連携して児童生徒のキャリア発達に貢献できることを探求した。

講師は、社会人学生として、兵庫教育大学大学院学校教育研究科に通う本校教諭が務めた。

(1) 内容等

実施日	テーマ	内容
第1回 11月5日（土）	オリエンテーション	・応用行動分析について ・子どもの好きなもの探し ・子どもに望むこと ・ターゲット行動を決める ・行動の記録方法を決める
第2回 11月19日（土）	ほめ方 伝え方	・ABC分析をして、問題解決のための対策を考える。 ・子どものよい行動を特定し、適切な行動に注目する。 ・不適切な行動に対する指示（予告など） ・不適切行動防止のための環境調整 ・家庭でのルールづくり
個別相談会（ZOOM） 11月28日（月）		・個別相談
第3回 12月3日（土）	環境の工夫 振り返り	・学校、保護者、福祉機関の連携を考える ・思斉支援学校のキャリア教育

(2) 学校と保護者の連携

応用行動分析は、望ましい行動を伸ばし、人とかかわるうえで不適切と考えられる行動を減らしていくものである。望ましい生活スキルの一つひとつを細かく分析し、子どもに応じて分かりやすく言葉かけができるようになることを目指している。

子どもの行動を細かく分析していくと、子どもたちの、「思い」にたどりつく。できないという困難さのなかに、「こうしたい」「こうなりたい」という本人の思いは確実にあり、すべての子どもにできることがあり、その可能性があることがわかった。保護者や教

員は、その思いの理解に努めていくことが肝心であるが、子どもの反応ややり取りを記録して振り返ると、親と子ども、教員と児童生徒の相互関係の中で、確実に学び合い、高め合っている事実にとどり着くことができた。子どもに関係する人たちが子ども理解に努め、悩みながら子どものキャリア発達を支援しており、今後も複数の目で子ども理解をしていきたいと感じた。

(3) 思斉支援学校のキャリア教育の報告会

本校が令和2年度から令和4年度にかけて実践してきたキャリア教育の取組みについて、本報告書をもとに説明した。



講習会の様子

V 研究成果と課題

1 キャリア教育推進委員会の取組みによる成果

学部間の系統性を意識しにくい、教育内容をどのように設定しているかという視点が弱いという課題に対して、本研究では、小学部から高等部までの一貫性を担保するために、キャリアプランニングマトリクスを作成し、児童生徒に付けたい力を明確にして授業のなかで運用してきた。

「マトリクス運用シート」を用いて、教職員がマトリクスの項目のどこに重点を置いて指導しているのかを調査し、思斉支援学校が考える指導の重点度を数値化して示している。【資料8】

数値化したものの中から特にポイントの高かった10項目を選び、それぞれについてどの程度児童生徒に身に付けさせることができたのか、児童生徒自身に自己評価してもらう形で探った。このアンケートは2022年4月と12月の2回行い、その推移を研究成果として報告する。

(1) 方法

- ① アンケートの対象
- | | | |
|----------|---------|-----------|
| — 思斉支援学校 | 小学部6年 | 6名 |
| | 中学部3年C班 | 9名（後期は8名） |
| | 高等部3年D班 | 12名 |

小学部は、自力でアンケートに答えることができる児童、口頭で選択肢の中から選べる児童に回答してもらった。中学部は、「職業・家庭」の授業を受けている生徒、高等部は、職業自立コースを受講している生徒に回答してもらった。

- ② アンケートの内容
- | | |
|---|--------------------------------|
| — | キャリアプランニングマトリクスの重点項目の取得状況について。 |
|---|--------------------------------|
- ③ 調査実施期間
- | | |
|---|---------------|
| — | 令和4年4月、12月の2回 |
|---|---------------|
- ④ 質問項目
- | | |
|---|--|
| — | 10項目。項目内容はマトリクスに沿っている。
小学部・中学部・高等部の難度に多少の差はあるが、ほぼ同じ内容にしている。 |
|---|--|

(2) アンケートの内容及び調査結果

小学部（回答者6名）

質問		よく できる	できる	すこし できる	あまり できない	ポイ ント
		(3点)	(2点)	(1点)	(0点)	(平均)
1) 先生の話最後まで聞くことができる。	前	2	2	2	0	2.0
	後	4	2	0	0	2.7
2) 自分の気持ちを伝えることができる。	前	0	2	4	0	1.3
	後	3	2	1	0	2.3
3) 友だちと協力することができる。	前	1	3	2	0	1.8
	後	2	1	3	0	1.8
4) 苦手なことも最後まで取り組むことができる。	前	0	3	3	0	1.5
	後	2	3	1	0	2.2
5) 分からないことを、人に聞いたり、本やインターネット使ったりして調べることができる。	前	1	1	2	2	1.2
	後	2	2	2	0	2.0
6) 一日の予定がわかる。	前	2	4	0	0	2.3
	後	5	1	0	0	2.8
7) 掃除のやり方がわかる。	前	2	3	1	0	2.2
	後	3	3	0	0	2.5
8) 自分の良いところがわかる。	前	0	2	4	0	1.3
	後	2	2	2	0	2.0
9) 自分の興味のあることがわかる。	前	1	1	3	1	1.3
	後	2	1	2	1	1.7
10) 誰かの役に立つ仕事がしたい。	前	1	2	3	0	1.7
	後	3	1	1	1	2.0

いま、がんばっていることを教えてください。(前)
・おいしいがすきな㊤あじがまずいことがきらいけど、まずいと思ってがんばって食べる。
・泣かない。
・へんじをかつこよくいう。
・びりびり（紙ちぎりのこと）
・まいにちえをかくこと。
・バスケの練習。

5年生のときと比べて、自信がついたことを教えてください。(前)
・おはなしができたことがあったんです。
・自分の気持ちを少し言えるようになった。
・自分の気持ちを言えるようになっている。

6年生の目標を教えてください。(前)
・じゅぎょうしてからうんどうしてね、ぼくはうんどうぶそく。たいりよくをつけてたいじゅうをかるくしようかな。
・大きな声を出す。
・はっきりお礼を言う。

中学部 (回答者 前期：9名 後期：8名)

質問		よく できる	できる	すこし できる	あまり できない	ポイ ント
		(3点)	(2点)	(1点)	(0点)	(平均)
1) 友だちや先生の話最後まで聞くことができる。	前	1	4	3	1	1.6
	後	5	2	1	0	2.5
2) 自分の考えや気持ちを伝えることができる。	前	0	1	5	3	0.8
	後	1	5	2	0	1.9
3) 友だちと協力することができる。	前	0	7	2	0	1.6
	後	4	4	0	0	2.5
4) 苦手なことも最後まで取り組むことができる。	前	5	1	2	1	2.1
	後	4	3	1	0	2.4
5) 分からないことを、人に聞いたり、本やインターネット使ったりして調べることができる。	前	3	4	2	0	2.1
	後	6	0	1	1	2.4
6) 見通しをもって活動ができる。	前	3	5	1	0	2.2
	後	2	6	0	0	2.3
7) 手順を覚えて掃除ができる。	前	4	4	1	0	2.3
	後	6	1	1	0	2.6
8) 自分の良いところがわかる。	前	0	3	4	2	1.1
	後	0	5	2	1	1.5
9) 自分の興味のあることがわかる。	前	7	2	0	0	2.8
	後	5	2	1	0	2.5
10) 誰かの役に立つ仕事がしたい。	前	5	2	2	0	2.3
	後	4	2	2	0	2.3

いま、がんばっていることを教えてください。(前)
・学校に遅刻しないように頑張っている。
・言葉づかいに気をつけている。
・自分がおもったこと、おもっていることをきいてもらう。
・周りを見ておてつだいをしている。
・学校を休まないようにしている。
・毎日学校に来る。
・先生や友だちとがんばってはなせる。
・自分から進んで手をあげることががんばっている。
小学校(小学部)のときと比べて、自信がついたことを教えてください。(前)
・少し明るくなれた。
・物事にじしんが持てるようになった。
・わからない。
・自分から人と話すようになった。
・学校にこれるようになった。
・にがてな物も食べれるようになった。
・すこししゃべれる。
・自分の気持ちを言えるようになった。
・ことばづかいがよくなった。
・小学校の時よりも漢字を書けるようになった。

今年度の目標を教えてください。(前)
・一回も休まずに登校する。
・楽しくすごす。
・みんなと楽しくすごす時間やクラスのリーダーとして行動する。
・学校にちこくしないこと。
・学校を休まないようにしたい。
・こまったことを先生につたえる。
・学級委員会で決まった事をわかりやすく伝えられるようにがんばります。
・学校にくること。
・自分の気持ちをもっと言えるようになりたい。

高等部（回答者 12 名／回答者数が 12 に満たない箇所は未回答者あり）

質問		よく できる	できる	すこし できる	あまり できない	ポイ ント
		(3点)	(2点)	(1点)	(0点)	(平均)
1) 友だちや先生の話最後まで聞いて理解することができる。	前	4	7	0	1	2.2
	後	3	8	1	0	2.2
2) 自分の考えや気持ちを伝えて理解してもらすることができる。	前	4	2	4	1	1.8
	後	0	6	3	2	1.4
3) 友だちのことを考えながら、協力することができる。	前	6	3	3	0	2.3
	後	4	7	1	0	2.3
4) 苦手なことも最後まで取り組むことができる。	前	3	7	2	0	2.1
	後	2	7	1	2	1.8
5) 分からないことを、人に聞いたり、本やインターネット使ったりして調べることができる。	前	10	2	0	0	2.8
	後	8	2	2	0	2.5
6) 何かをするとき、見通しをもって計画的に進めることができる。	前	2	5	3	1	1.7
	後	3	4	4	1	1.8
7) 手順を覚えて掃除ができる。	前	7	4	0	0	2.6
	後	4	4	4	0	2.0
8) 自分の良いところがわかる。	前	4	2	3	3	1.6
	後	1	4	1	6	1.0
9) 自分の興味のあることがわかる。	前	8	3	0	1	2.5
	後	6	5	1	0	2.4
10) 誰かの役に立つ仕事がしたい。	前	6	4	2	0	2.3
	後	8	2	1	1	2.4

いま、がんばっていることを教えてください。（前）
・体力をつけて登校している。
・プラス思考で動いている。
・学校を休まず登校している。
・ひざを悪くしないようにしている。
・料理が作れるように頑張っています。
・友だちとけんかをしないようにがんばっています。
・自分から積極的に行動すること。
・ストレスがたまっても物にあたらないようにしている。
・かぜとかひかないように夜ちゃんと寝る。

・遅刻しないように学校に登校している。 ・言葉使いを注意されないようにしている。 ・メリハリをつけるようにしている。
・体調管理
・しんどくても学校に来ている。 ・先生とかに自分から相談できるように頑張っている。 ・報連相をできるように頑張っている。 ・周りを見て行動できるようにしている。
・バスケ／FPS ゲーム
・苦手な授業も頑張って受けている。

中学校（中学部）のときと比べて、自信がついたことを教えてください。（前）
・なし。
・人と話せるようになった。
・めげずに学校に行く。
・友だちと話をすること。
・仕事が早くできるようになった。
・自分が思っていることを言えるようになった。
・要領よくものごとをできるようになった。
・集団行動ができるようになった。
・授業と休み時間の ON と OFF をつけることができるようになった。
・ちゃんと学校に行けるようになった。
・あいさつ

今年度の目標を教えてください。（前）
・忘れ物をしないようにする。
・中学と同じくらいの体重にしたい。
・ちこくしないようにする。
・あと9か月くいのないように学校生活を過ごすことにします。
・もっと積極的に行動できるようになりたい。
・自分の将来の夢にむかってがんばる！！
・言葉づかいをしっかりとてく。
・手伝いをする。
・しんどくても授業にでることを目標にしている。
・校外実習をがんばる。

・自分からあいさつをする。
・自分を知ることです。

(3) 考察

小学部・中学部と高等部で対照的な結果となった。

小学部児童の自己評価は9項目が上昇し、残る1項目は横ばいであった。特に、(1)「先生の話最後まで聞くことができる」(4)「苦手なことも最後まで取り組むことができる」(5)「分からないことを、人に聞いたり、本やインターネットを使ったりして調べることができる」(8)「自分の良いところがわかる」の項目は、0.7～0.8 ポイントと大きく上昇している。

中学部の生徒の自己評価は8項目が上昇し、1項目が横ばい、1項目は減少であった。

(1)「友だちや先生の話最後まで聞くことができる」(2)「自分の考えや気持ちを伝えることができる」(3)「友だちと協力することができる」の項目が、どれも1.1ポイントと大きく上昇している。両学部の児童生徒は学習によってできることが増え、自己の成長を実感できていると思われる。できるようになることや成功体験が直接自己肯定感の向上に結び付いている。

一方で高等部の生徒の自己評価でポイントが上昇したのは、(6)「見通しをもって計画的に進めることができる」(10)「誰かの役に立つ仕事がしたい」の2項目であり、その他2項目が横ばい、6項目が減少していた。(7)「手順を覚えて掃除ができる」(8)「自分の良いところがわかる」の項目のポイントが大きく下がっている。掃除のスキルは一度身に付ければ、その後も安定して力が発揮できるものと思われるが下がっている。これは本年度は「職業」の時間に専門的に清掃の学習に取り組んだので、これまで身に付けていた清掃方法と異なったためと思われる。専門的な清掃方法で、難易度があがって求められるレベルと現時点の自分を比べて自信がなくなってしまったと考える。専門性や新しく身に付けさせたい力については、これまでの学習と関連付けて学習させたい。

2 進路指導部の取組みによる成果

進路指導部では、中学部で職場体験学習、高等部で進路学習、校内実習・現場実習を実施し、児童生徒に「働くこと」について考える機会を作っている。

本事業を展開するにあたり、本校高等部卒業生の就労率にも着目してみる。本校高等部3年生の進路先の推移はつぎのようになっている。

年度	在籍数	進学	就労※	開発校	移行支援	B 型	自立訓練	生活介護	その他
R 4	45	0	9	0	6	15	3	6	6
R 3	47	0	7	0	3	18	8	8	3
R 2	48	0	10	0	5	17	4	9	3
R 1	38	0	2	3	8	12	4	5	4
H 3 0	55	0	4	0	6	16	10	12	7
H 2 9	52	0	2	1	9	16	7	13	4
H 2 8	52	0	3	2	11	13	9	10	4

※就労には就労継続支援 A 型を含む

※令和4年度については、令和5年2月15日時点の見込み数である

令和元年度を除けば、高等部3年生の在籍者数は50人前後である。進路先の特徴として挙げられるのは、就労継続支援 B 型が毎年最多ではあるが、令和2年度から、就労者数が劇的に伸びていることがわかる。就労率で表すと、令和元年度までは4%から6%を推移していたが、令和2年度になって、前年度比4倍を超える就労率（21%）を記録し、その後も15%（R3）、20%（R4見込み）と堅調である。

要因として挙げられるのが、職業コースが軌道にのってきたことである。思斉支援学校は、平成28年に大阪市から大阪府へ移管され、その2年後の平成30年に、高等部に職業コースを設置した。職業コースのカリキュラムを丸三年履修した令和2年度の卒業生から就労率が上昇したのは、この教育課程の変化によるものが大きいとみている。また、令和2年度に進路副主事の役職を新設し、進路指導主事は主に進路開拓、副主事が就労の定着率を支えるサポート的役割として機能させたことも就労率を伸ばす理由の一つになっていると考えている。

3 課題

キャリア教育の充実には、全教職員が目的意識を明確にして計画づくりに取り組み、目標を確認しつつ実践することで進んでいく。取り組みが進んでいる学校を見ると、やはり先導するプロジェクトチーム（PT）の働きが重要であることがわかる。PTが学校の現状を分析し、課題を把握したうえで、学校の全体が協働して業務遂行できるように段取り、支援や助言を行うのが理想である。本校は3年間、キャリア教育に取り組んだが、PTの取り組みを十分に学校全体に広げきれていない。

PTが重点事項として立案した計画が、目標を意識して適切に実施できているかどうかの進行管理が不十分であったと反省している。また、一定の期限を設けて取り組み内容の評価・検証を行う体制作りも同じである。今後PTで進捗状況を報告しあい、チームのワーキング状況と学校全体の進捗状況を把握して、改善案を示していきたい。

また、キャリアプランニングマトリクスの達成状況を問うた本校児童生徒へのアンケート結果から、小学部・中学部段階と高等部段階では、自己評価に大きな隔たりがある結果となった。本校のキャリア教育が高等部生徒のニーズに合致していたのか、教育課程上はつながったとみえる実践内容や目標が、高等部生徒の実態と合わなかった可能性も考えられる。

新しい取り組みを実施してキャリア教育を発展させていくことに加えて、教職員のキャリア教育に関するマネジメント意識を高めて、学校全体で取り組んでいくことが本校の大きな課題である。

おわりに

この3年間、思斉支援学校のキャリア教育を進めるなかで、まさしく子どものキャリア発達が促されている瞬間を垣間見ることができた。小学部から中学部へ、中学部から高等部へ進学したときなど環境の「変化」に対応できたとき、係の仕事や担当を任されて、自分の責任を果たせたとき、学校で取組んでいることや教員の助言に対して、それがなぜ重要なのかを理解し行動できたときなどである。

そのような時間のなかで、子どもは自分のできることを発揮して、相手に応じたり、自分の行動を認められたりしながら、働くことや社会に対する気持ちを変化させていった。自立に向けて、できることを増やしながら、同時に身に付けた能力を発揮させよう、新しいことに挑戦してみようという前向きな気持ちを子どもから感じることができた。これからも、私たち教員は子どものキャリア発達が「促される」ように、意図して状況を設定したり、役割を担ってもらえるように働きかけたりしていかなければならないと改めて認識した。

伝統ある思斉支援学校のなかで、キャリア教育を系統的に捉え、子どものニーズに応じて的確に展開できているかについては課題があるが、この間に教員は思斉支援学校の子どもが、どのような工夫をすればできることが増え、手ごたえを感じ、自己肯定感を深められるかということを常に考え実践してきた。この先もこれらの視点を大切にして、授業や教育課程を捉え直しながら「なりたい自分になれる」子どもの育成をめざし、キャリア教育を発展させていきたい。

令和5年2月
キャリア教育推進委員会



【資料１－１】思斉支援学校キャリアプランニングマトリクス（第１版）

思 斉 支 援 学 校 キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ マ ト リ ク ス								
学校教育目標		豊かなこころ ・ 楽しむ力 ・ 体力 ・ コミュニケーション						
学部		小学部		中学部		高等部		
段階		低学年	高学年	1 段階	2 段階	1 段階	2 段階	
キャリア発達の段階		職業及び生活にかかわる基礎的な能力獲得の時期		前段階で獲得した能力を統合して、働くことに応用する能力獲得の時期		職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期		
キャリア発達段階の解説と発達課題		未分化であるが、職業及び家庭・地域生活に関する基礎的な能力の習得と意欲を育て、後の柔軟性に必要な統合する能力習得の始まりの時期である。キャリア発達の視点からは、学校及び生活に関連する諸活動のすべてにおいて、遊びから目的が明確な活動へ、扱われる素材が身近なものから地域にある素材へ、援助を受けながらの活動から自主的・自立的活動へと発展しながら全人的発達をとげる時期であり、働くことに対する夢や意欲を育てる。		小学部段階で積み上げてきた基礎的な能力を、職場（働くこと）や生活の場において、変化に対応する力として般化できるようにしていく時期である。キャリア発達の視点からは、職業生活に必要な自己及び他者理解（自らのよさや仲間のよさ）を深め、実際の職業体験を通じて自らの適性に気づき、やりがいや充実感の体感を通して、職業の意義、価値を知ること学ぶ。自己の判断による進路選択を経験する時期である。		中学部段階で培ってきた能力を土台に、実際に企業等で働くことを前提にした継続的な職業体験を通して、職業関連知識・技術を得るとともに、職業選択、及び移行準備の時期である。キャリア発達の視点からは、自らの適性ややりがいなどに基づいた意思決定、働くことの知識・技術の獲得と必要な態度の形成、必要な支援を適切に求め、指示・助言を理解し実行する力、職業生活に必要な習慣形成、経済生活に必要な知識と余暇の活用等を図る時期である。		
能力領域		小学部段階において育てたい力		中学部段階において育てたい力		高等部段階において育てたい力		
4 ・ 8		基 ・ 汎						
人間関係形成能力	人間関係形成・社会形成能力	人とのかかわり						
		自己理解 ・ 他者理解						
		☐ 大人や友達と仲良く遊ぶ。		☐ 自分の良さを生かして、意欲的に活動する。	☐ 自分の良い点を見つけ、自信を持つ。	☐ 自分の役割を継続的に実行する。	☐ 自分の良さや個性を理解する。	☐ 実践的な体験を通して、自己の能力や適正を知る。
		☐ 自分の好きなもの、好きなことをもつ。		☐ 友達の良いところを見つける。	☐ 自分と相手の違いを知る。	☐ 役割を果たし認められる喜びを知る。	☐ 集団の中で他者と協調して行動できる	☐ 自分の言動が相手に及ぼす影響について知る。
		☐ 友達に関心をもつ。		☐ 意欲的に友達と関わる。	☐ 友達と協力して、いろいろな活動に取り組む。	☐ 学校や家庭の一員であるという自覚をもつ。	☐ 挨拶や返事ができ、自分の気持ちを相手に伝えることができる。	☐ 他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容することができる。
		集団参加						
		協力 ・ 協働						
		☐ 身近な大人からの働きかけを受け入れる。		☐ 友達に働きかけたり、合わせたりして活動する。	☐ 集団生活に慣れる。	☐ 自分の意見を述べることができる。	☐ 集団の中で自分の役割と責任を理解し、互いに支え合いながら仕事をする。	
		☐ 遊びの中で、教員と友達とかわりながら活動する。		☐ 進んで集団に参加することができる。	☐ 集団の中の一人として、活動に参加する。	☐ 相手の立場を考慮することができる。		
		☐ 待つことや順番を守ることができる。		☐ 教員や友達の行動を、自分のモデルにすることができる。		☐ 自分の役割を理解して、他者と協力することができる。	☐ 集団の中で他者と協調して行動できる。	☐ リーダーとそれを支える人の立場を理解することができる。
						☐ 集団の一員としての役割を遂行する。		
		意思表現						
		☐ 自分の思いを伝えようとする。		☐ 見聞きたことや自分の気持ちなどを、大人や友達に伝える。	☐ 挨拶や返事が自分からできるようになる。	☐ 集団の中で、自分の意見を表現する。	☐ 挨拶や返事が自分からできるようになる。	☐ 自分の思いや意見を適切な方法で伝える。
		☐ 「はい」「いいえ」を言葉や身振り、サインで相手に伝える。		☐ 活動の許可を求めたり、終了を報告したりする。	☐ 支援を求めることができる。	☐ 目的をもって意思を伝える。	☐ 支援を求めることができる。	☐ 異年齢の人や異性等と適切なコミュニケーションを行うことができる。
		☐ 困ったときに発声やサインなどで支援を求める。		☐ 困ったときに支援を求める。	☐ 支援を受け入れることができる。	☐ 見聞きたことなどを相手にわかるように話す。	☐ 支援を受け入れることができる。	☐ 他者に配慮しながら、人間関係を築こうとする。
		挨拶 ・ 清潔 ・ 身だしなみ						
		場に応じた言動						
		☐ 身近な人に挨拶をする。		☐ 身近な人と簡単な対応をする。	☐ 場の状況や立場を理解して、その場に応じた挨拶や振る舞いができる。		☐ 質問や報告ができる。	
☐ 「ありがとう」「ごめんなさい」を伝える。		☐ 「ありがとう」「ごめんなさい」を場に応じて適切に言う。	☐ 場や状況に応じた適切な言葉遣い、服装、身だしなみを心がける。		☐ 電話の対応や訪問時のマナーを身につける。			

【資料１－２】思斉支援学校キャリアプランニングマトリクス（第１版）

学部		小学部		中学部		高等部	
段階		低学年	高学年	1 段階	2 段階	1 段階	2 段階
能力領域		様々な情報への関心					
4・8	基・汎			情報収集と活用			
情報活用能力	キャリアプランニング能力	□家族や家の近くの様子に興味や関心を持つ。	□家族がそれぞれ役割を持っていることに気づく。	□見学や体験を通して、いろいろな職業や進路に興味を持つ。	□生き方や進路に関する情報を通して、働くことに興味・関心を持つ。	□実際の活動を通して、身近で働く人々の様子に興味・関心を持つ。	□産業現場等における実習を通して、職業生活に必要な事柄を理解する。
		□学校の周りの様子に興味や関心を持つ。	□身近で働く人に関心を持つ。	□家庭や学校での自分の役割や身近で働く人の様子を知る。	□職業に就くためには、基礎的な知識と技能が必要であることを理解する。	□適切な進路選択のために、色々な職業や職業生活について知る。	□職業生活に必要な実証的な知識を深める。
		□大人の話を聞いたり、写真などを手がかりにして、見通しをもって行動する。	□身近な地域社会における仕事や働く人について関心を持ち、知ろうとする。	□指示を受ける相手が分かり、指示に従って行動できる。	□道具や材料の扱い方などが分かり、安全や衛生に気をつけながら使用できる。	□道具の操作方法を理解する。	□材料や製品の管理を適切に行い、安全や衛生に気をつけて、正確に効率的に作業することができる。
		□大人の話を聞いたり、絵本を読んでもらったりする。	□身近な人の話を聞いて、内容のあらましが分かる。	□情報を得るためには、様々な方法があることを体験を通して理解する。	□職業生活や家庭生活で使われる情報機器などの初歩的な扱いに慣れる。	□必要な情報を得るために様々な方法を活用する。	□政治、経済、文化などの情報に興味を持ち、職業生活に必要な事柄を調べる。
		□大人や友達などの簡単な指示や話しかけが分かる。	□身近な人の指示を聞き、理解することができる。	□話の内容をおおまかに聞き取ることができる。	□簡単な指示書や工程表を見て、活動を理解し、作業に取り組むことができる。	□携帯電話やスマートフォンの正しい利用方法を学ぶ。	□新聞や、インターネット、図書館の利用について学び、それらを活用して自身の思考を深めることができる。
		社会資源の活用とマナー					
						法や制度の活用	
		□大人と一緒に日常生活の簡単な決まりに従って行動する。	□日常生活に必要な簡単な決まりやマナーが分かり、それらを守って行動する。	□社会生活に必要ないろいろな決まりがあることを知り、それらを守る。		□社会のルールや制度、職業に必要な資格、各種サービス、相談機関等に関する情報や知識、社会生活上の規範、法の遵守、権利侵害等への対処方法などを理解する。	
		□一人で好きな遊びをしたり、大人や友達とかかわって遊んだりする。	□友達とかかわりながら、決まりを守って仲良く遊ぶ。				
		□大人や友達と簡単な決まりのある遊びをする。	□大人の支援を受けながら、身近な公共施設や公共物を利用し、その役割を知る。	□日常生活に関係の深い公共施設や公共物などの役割が分かり、それらを利用する。			
		□身近な公共施設や公共物を大人と一緒に利用する。					
		金銭の扱い					
		□大人と一緒に簡単な買い物をする。	□自分の好きなものが買える。	金銭の使い方と管理			
				□小遣い帳をつけることができる。		消費者生活の理解	
		□いろいろな金種があることを知る。	□簡単なお金の計算ができる。	□日常生活における初歩的な数量の処理や計算をする。		□消費税や納税の義務について理解する。	
		□お金を払えば、ものが買えることがわかる。	□お金を渡しておつりが受け取れる。	□販売活動や買い物、預貯金などを通じて金銭のやりとりや管理をする。		□計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や、労働の対価としての給与の意味を知る。	
		はたらくよろこび					
				役割の理解と働くことの意義			
		□身の回りのことを自分でしようとする。	□人数や年齢の異なる集団活動において、様々な活動があることを理解する。	□働くことに興味や関心を持ち、働く楽しみや喜びを経験する。	□学校生活や家庭生活において、自分が果たすべき役割があることを理解し、継続的に実行する。	□社会には様々な職業があることを知り、興味・関心や課題意識をもつことができる。	□様々な職業が社会や生活に果たしている役割や意義を理解する。
		□学級等の基礎的な集団活動において、手伝いをする。	□友達を意識したり、簡単な役割を果たしたりする。	□自分の役割を理解し、慣れないことや新しい活動にも取り組む。	□集団を意識し、周囲と協力してやり遂げようとする。		□社会生活の中で自分が果たすべき役割があることを理解し、実行する。

【資料1－3】思斉支援学校キャリアプランニングマトリクス（第1版）

学部		小学部		中学部		高等部		
段階		低学年	高学年	1 段階	2 段階	1 段階	2 段階	
4・8		基・汎		習慣形成				
将来設計能力	課題対応能力 キャリアプランニング能力	□作業などを通して集中力や持続力を高める。						
		□家庭や学校生活に必要な基礎的な習慣を形成する。	□時間に区切りをつけて、活動の切り替えを行う。	□日常生活に応じた身辺処理能力を高め、生活のリズムを整える。	□時間の管理、暦の活用、準備や片付けなどの習慣を身に付ける。	□将来の自分の職業を想定した体力を身につける。	□スケジュールに合わせて、仕事と自分の生活を組み立てる。	
		□排汗・食事・睡眠などの生活のリズムをつくる。	□時計や暦を活用する経験を積む。	□手洗い、整理整頓、道具の扱いや管理などを理解する。	□体の成長に関心を持ったり、病気の予防などについて理解したりする。	□職業生活を遂行するのに必要な実践的な習慣を形成する。	□作業環境下で安全を意識する。	
		□作業などを通して四肢を使う大きな動き、手指の細かい動き、活動に適した姿勢等を身に付ける。				□家庭生活に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。		
		夢や希望						
		□自分の好きなことを見つける。		□将来の夢や憧れの職業を持つ。		□自分で目標を立て、目標に向けて取り組む。		
		□身近な職業や働く人を知る。		□将来の夢を話す機会や相手を持つ。		□職業生活を思い描き、新しい生活へ期待を持つ。		
		やりがい						
		生きがい						
		□「ありがとう」と感謝される経験をすること。		□好きな活動への意欲を様々な学習活動へつなげる。	□自分の役割を果たす時間を中心にして、余った時間を有効に使う。	□働くことにやりがいを感じること及び将来設計に基づいた余暇活動の活用を考える。		
		□興味を持って活動に取り組み、最後まで物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。		□学校生活の中で休憩時間を有効に使って楽しむ。	□家庭生活における余暇の過ごし方がわかる。			
		□自分の力でやり遂げる経験を重ね、充実感や達成感を味わうことにより、将来のやりがいへとつなげる。						
		□やり遂げたという気持ちを持ち、自分なりの充実感や満足感を得る。		進路計画				
		□将来設計に基づき、主体的に進路計画を		□将来設計に結びつく進路計画を行い、卒業後の生活に期待を持つ。				
意思決定能力	課題対応能力 キャリアプランニング能力	目標設定						
		□自分のやりたいことが分かる。	□自分のやるべきことがわかる。	□自分の決めた目標や課された課題を理解して主体的に取り組む。	□自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。	□正確に作業などができる方法を知り、失敗した場合はその原因を知る。		
		□自分のことは自分でしようとする。	□集団の中で、決められたことを最後までやる遂げようとする。	□積極的に役割を果たす。	□大人の助言や自分自身の経験から、改善点を知る。	□将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その解決に向けて取り組む。		
		自己選択						
		自己選択（決定・責任）						
		□好きな遊びや活動が選択できる。		□好きな遊びや活動をもち、進んで取り組む。		□自己の個性や興味、関心等に基づいてよりよい選択をしようとする。		□実習などの経験を基に、自分の意思と責任で主体的に進路を選択する。
		□自分のやりたいことが選べる。		□自分がやりたい仕事、やれそうな仕事を選んで取り組む。		□主体的に進路を選択しようとしたり、選択した結果を受け入れ、決定に伴う責任を果たす。		□選択の意味や、自分の判断や決定の過程、結果には責任が伴うことを理解する。
		振り返り						
		肯定的な自己評価 ・ 自己調整						
		□写真などを手がかりにしながら、頑張ったことや楽しかった活動を振り返る。		□活動を振り返り、頑張ったことや楽しかったことを考え発表する。		□振り返りをもとに考えたことを次の活動に生かそうとする。		□実習を通して、客観的、肯定的に自己を評価する。
		自己調整						
		□気持ちの折り合いをつけて、自分の気持ちをコントロールする。		□時間や数量、回数などを目安にしながら、好き嫌いをしないで、最後まで活動に取り組む。		□様々なトラブルに対しての対処方法を身につける。		
				□指示や指導を受け入れたら、活動内容の変更に対応できたりする。		□円滑な人間関係の保ち方を学ぶ。		

【資料 2】小学部教員を対象とした進路講話

小学部進路講話

★まずは基本から

A 名称とその内容として適するものをどうしを線で結びましょう。

一般企業等に雇用されることが可能と見込まれる場合に、就労に向けて ・ 就労継続支援 A 型
必要な知識および能力の向上のために一定期間訓練を行うところ。利用
期限は原則 2 年以内。利用料金がかかることもある。

一般企業に雇用されることが難しい場合に、雇用規約を結ばない形で就労 ・ 就労継続支援 B 型
の機会を提供するところ。

生活能力の維持・向上のため、一定の支援が必要な場合に、自立した日常 ・ 就労移行支援
生活を営むために必要な訓練や支援を行うところ。

雇用契約に基づく就労の機会を提供し、一般企業等での就労に向けた訓練 ・ 自立訓練
を行うところ。

B 昨年度高等部を卒業した生徒の進路実績について、あてはまる数字を書きましょう。

卒業生数 38 名							
進学	就職	就労移行 支援	就労継続 支援 A 型	就労継続 支援 B 型	自立訓練	生活介護	その他

C 思斉支援学校の教育課程で、中学部に実際にあるものをすべて選びましょう。

日常生活の指導 ・ 家庭 ・ 職業 ・ あそびの指導 ・ 自立活動 ・ 職業基礎

D 高等部職業自立コースで導入されている、本校の特色ある取組みはなんでしょう。

★12年間の連続性のあるキャリア教育

キャリアとは、簡単に言うと、働くことにまつわる生き方そのものをさします。人生として長いスパンで考えるものであり、連続するプロセスであることがその特徴です。

キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア教育を促す教育」と定義されています。(2011 中央教育審議会)

特別支援学校におけるキャリア教育とは、「障がいの状況を踏まえて児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、生活上の困難を克服できる資質や能力を高め、社会的な自立を育てる教育」と考えられています。これらの定義を踏まえて、特別支援学校においてキャリア教育を推進するには、

- ・学校として小学部、中学部、高等部を総合的にとらえる。
- ・社会的自立に向けて各学部間や各領域間に関連する活動を体系化し、計画的かつ組織的に実施する。

結果として教育課程の在り方を見直すことが必要になります。

大阪府の支援学校では、「キャリアプランニングマトリックス」を作成し、年間指導計画の作成に活用したり、マトリックスに対応する具体的な教育活動を記載したりして活用しています。

★キャリアプランニングマトリックス

2010年に国立特別支援教育総合研究所(NISE)により『知的障害のある児童生徒のキャリアプランニングマトリックス』が策定され、これを足掛かりとして支援学校におけるキャリア教育の推進が図られてきました。NISE版マトリックスには、

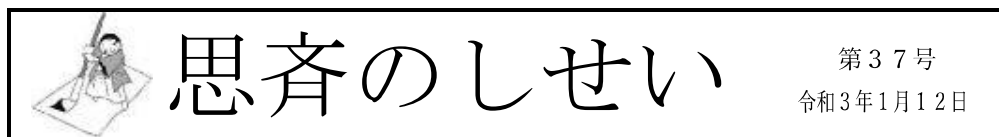
(1) 人間関係形成能力(2) 情報活用能力(3) 将来設計能力(4) 意思決定能力の4領域を設定し、それぞれに観点を設けています。さらに発達段階に応じて体系化しています。NISE版とSHISEI版を見比べてみましょう。

★キャリア教育と自立活動のめざすところは同じ

自立活動は、障がいに起因する困難の改善・克服に主体的に取り組むことで、社会性と自立性を高め、将来的に社会生活や職業生活への積極的な参加をめざしています。

キャリア教育(特別支援学校)は児童生徒の障がいの状況や発達状況を踏まえた教育活動をとおして、他者との関係性を育むことで自己を認識し、障がいに起因する困難を克服できる意欲や資質、能力を育てることをめざしています。その結果が将来の社会的な自立につながります。

【資料3】通信「思斉のしせい」の発行（第37号／一部抜粋）



★思斉支援学校キャリア教育推進事業について

知らぬ間に実践していたことが「それってキャリア教育じゃない？」ということもたくさんあります。思斉支援学校のキャリア教育推進事業は、「やることはほとんど同じだけど、新しい見方・考え方で今一度見直してみよう。」そして「もっとできることがあればやってみよう。」という意識で取り組んでいきたいと思っています。

★キャリア教育推進に必要な3つの土壌

- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 教育課程の見直しと業務改善(2) 児童生徒が主体となる活動(3) 組織の見直し | } | <p>(1)～(3)について思斉の課題を洗い出し改善策を実行していくことが、この事業の中身になります。</p> |
|---|---|---|

★本校の課題

- (1) 教育課程の見直しと授業改善
 - ・教育課程そのものを整備し活用しきれていない学部がある。
 - ・全校の教員が共通した目標（子どもたちに身につけさせたい力）を認識しないまま日々の教育活動に進んでしまっている。
 - ・小学部・中学部、高等部の12年間を通して、教育の方法や内容に一貫性がない。
- (2) 子どもが主体となる活動
 - ・子どもの社会的な体験活動や自分の生き方を考える機会が不足している。
(教育活動の中で、子ども自身が「働くこと」を意識する機会が少ないのではないか。)
 - ・授業、生活指導、行事など様々な場面ごとに、どんな能力を伸ばすかが明確に決まっていない。(教育活動が、職業間およびキャリア発達に関わる能力の育成と結びついていないのではないか。)
 - ・各学部で連携した活動が行えていない。
 - ・技術の習得に重点が置かれ、働くことへの意欲の育成が十分でないのではないか。
- (3) 組織の見直し

【資料４】思斉支援学校キャリアプランニングマトリクス（第２版）

思斉支援学校キャリアプランニングマトリクス						
学校教育目標		豊かなこころ ・ 楽しむ力 ・ 体力 ・ コミュニケーション				
基礎的 汎用的能力	A段階		B段階		C段階	
人間関係形成 社会形成能力	あいさつ					
	(1)	朝や帰り、始まりや終わりのあいさつをする。	(1)	学校生活において、人や場面に応じたあいさつを知り、実践する。	(1)	学校生活や社会生活において、人や場面に応じたあいさつをする。
	身だしなみ					
	(2)	校内服や給食着等を、学校場面に応じて身なりを整える。	(2)	場や状況に応じて身なりを整える。	(2)	社会生活場面に応じた身なりを整える。
	人とのかかわり					
	(3)	相手の話に対して反応を示す。	(3)	相手の話を理解しようとする態度を示す。	(3)	返事の仕方や言葉遣いに気を付ける。
	(4)	相手に対して簡単な報告や要求を伝える。	(4)	話の内容に応じた行動をしたり、返答したりする。	(4)	報告・連絡・相談をする。
	意思表示					
	(5)	自分の好きなことやしたいことを伝える。	(5)	自分の意見を伝える。	(5)	見聞きしたことなどを相手に分かるように話す。
	(6)	相手のしたいことを知る。	(6)	相手の意見を聞いて、全体の考えをまとめる。	(6)	他者に配慮しながら、人間関係を築こうとする。
自己自己 管理理能力	様々な情報への関心					
	(7)	流れに沿ってスケジュールに従える。	(7)	手順（表）に沿うことができる。	(7)	手順（表）の通りに行うことができる。
	(8)	大人の話を聞いたり、写真などを手がかりにしたりして、見通しをもって行動する。	(8)	指示を受ける相手がわかり、指示にしたがって行動できる。	(8)	話の内容を聞き取ることができる。
	(9)	自分の思いや気持ちを自分なりの方法で伝える。	(9)	困ったときに、他者に援助を求めたり、作業の進捗状況を教員に報告したりすることができる。	(9)	他の生徒と連携、協力しながら作業する。
課題対応 能力	道具の使い方の理解 道具を使う技能					
	(10)	清掃に必要な道具の名前と物が一致している。	(10)	整理整頓の正しい仕方を理解する。	(10)	よく使う道具の正しい使い方や清掃の手順を理解する。
	清掃の意味や必要性の理解					
	(11)	「汚い」「きれい」「気持ち悪い」「気持ち良い」の違いがわかる。	(11)	「どこを」「どのように」清掃すれば良いのが分かる。	(11)	「なぜ」「何のために」という行動の意味を考え、理解する。
	身に付けた知識・技能の活用					
	(12)	指示にしたがって、準備や片付け、簡単な清掃をすることができる。	(12)	場所が変わっても、基本的な手順に沿って清掃できる。	(12)	限られた時間で、場所や状況に応じて、効率よく清掃をする。
	ゴミや汚れを見つける、やりきる力					
	(13)	ゴミや汚れを見つかったり、気づいたりできる。	(13)	きれいになることに気持ち良いと感じ、進んで清掃を行う。	(13)	きれいになるまで、任された場所の清掃をやりきる。
	作業の継続					
	(14)	姿勢を維持しながら１０分程度活動を継続する。	(14)	２０分程度、同じ姿勢で作業を続ける。	(14)	４０分程度、同じ姿勢で作業を続ける。
課題解決力	課題解決力					
	(15)	集団の中で、自分たちがしたいことやみんなと一緒にしたいことを決める。	(15)	相手に喜ばれることを実践する。	(15)	自分の目標や依頼をよりよく達成する方法を考え、実行する。
	相手の気持ちを知る					
キャリア プラン ニング 能力	(16)	相手が好きなものやしたいことを知ろうとする。	(16)	活動の内容や方法を決めるために、相手が喜ぶことを聞いたり、考えたりする。	(16)	相手の立場になる経験を基に活動をよりよくしようとする。
	自己肯定感					
	(17)	自分の役割を果たしながら、他の児童生徒と一緒に楽しい経験や嬉しい経験をする。	(17)	校内の相手に対して、楽しいことや喜ぶことを実践し、評価される経験をする。	(17)	校外の人たちに、商品やサービスを提供し、評価される経験をする。

【資料5】マトリクス運用シートの集積（小学部）

	単元名	身に付け させたい力	マトリクス	本時の学習活動 支援方法	身についたかどうか
1	インタビューしてみよう (生活)	・相手に簡単な質問をする。	3ーB 4ーB 3ーC	・インタビューした内容を聞き取り、メモを取る。 ・本番までに繰り返し練習をする。 ・専用の用紙を活用する。(見やすく・整理しやすい)	・教員が横から助ける場合があったが、ほとんど一人で質問し聞き取ったことをメモした。わからないときは、「もう一度お願いします。」と伝えることができた。
2	あいさつ (生活)	・時と場合に合ったあいさつができる。 ・あいさつの言葉を知る。		・あいさつをしている絵カードを提示して「なんて言いますか?」と聞く。答えを黒板に書き、それを見てプリント学習する。	・一度では難しかったが、繰り返しすることで言葉を知ることができた。
3	同音異義語 (ことば)	・語彙を増やす		・言葉にちなんだ絵カードを提示し、視覚的支援。	・「きる」など同音異義語があることを知ることができた。
4	家でのお手伝い (道徳)	・みんなのために働こうとする力 ・自分のことは自分で行おうとする力	1 5ーA 1 6ーB	・資料「おふろそうじ」を読んでも話し合う。 ・お手伝いで嬉しさを感じた経験を開き、価値への方向づけを図る。	・自分の生活を振り返り、家族のために働くよさに気付いた。今後もお手伝いをがんばりたいという発言が見られた。
5	みんなでわくわく学校探検 (生活)	・決まりやマナーを守る。 ・いろいろな人がいたり、いろいろな物があったりすることに気づく。	3ーA 1ーB	・静かに廊下を歩けた児童や職員室できちんと挨拶ができた児童をしっかり称賛することでマナーへの意識を高める。 ・学校の「ひみつ」を提示して学校にはいろいろな物があることに気づかせる。	・一時間の指導では習慣として成立しないので、日常生活の中で繰り返し指導する。
6	音楽あそび (音楽)	・クラスの一員だと実感させる。 ・気持ちを切り替え次の行動を行う。	1 5ーA 7ーC	・指導している教師に集中できるように顔を近づけたり発言する場面を増やしたりする。 ・歌・楽器・身体表現・鑑賞の気持ちを切り替え、メリハリのある授業を行う。	・友だちと一緒にダンスや楽器を鳴らし、楽しさを共有できたと思われる。・進んで発言する場面も見られた。納得のいかない場面でも参加しようとする態度が見られた。
7	名刺で自己紹介をしよう (ことば)	・相手の話に興味を持って聞くことができる。 ・話すことを書いて、自己紹介の準備を進めることができる。	3ーA 3ーB	・自己紹介を楽しむ秘密を見つける。(はっきり話す、丁寧に話す、最後まで聞く) ・友だちの自己紹介を見て、話し方や聞き方について話し合う。	・自分のことを相手にわかりやすく伝え、友だちの話をしっかり受け止めることができた。
8	バスケットボール (体育)	・相手が受け取りやすいパスをすることができる。 ・自分の立つ位置やパスする相手のところに自分から動くことができる。 ・定められた位置で、パス、ドリブル、シュートをすることができる。	4ーA 8ーB	・友だちとのパス練習で、決められた位置に並んだり、元の位置に戻ったりする。フープや椅子を用意し、立ち位置を示す。繰り返し反復練習することで、パスする相手がわかるようにする。 ・名前を呼びながらパスをする。バウンドパスを練習し、相手を取りやすい力加減になるようにする。どの場所でドリブル、パス、シュートをするのか手本を見せながら説明する。	・全員が完璧に身に付いていたわけではなかったが、目標を達成できた児童が多かった。達成に向けての道筋は見えていた児童が多かった。

9	朝の着替え・準備 (自立活動)	・朝の準備・着替えを一人で行う。 ・シャツをズボンの中に入れる。	8-A 2-A	・朝の準備の手順カードを見てそれに沿って準備を行う。 できるようになってきたらカードはなしで行う。 ・シャツをズボンの中に入れた状態の写真を机の上に置いておき、自分で気づいて入れられるようにする。	・朝の準備、着替えが一人で行えるようになった。 ・着替え時には、シャツを忘れず入れることができるようになった。
10	係活動しよう (特別活動)	・自分の役割を果たし、その活動について評価を受ける。 ・手順に沿って、係の役割を果たすことができる。	15-B 7-B	・係活動を知り、その役割を果たす。 ・児童の実態に合うように、係や活動の内容を設定する。	・児童の実態に合わせて係活動を設定することで、意欲的に取り組むことができた。 また、創意工夫をしながら、活動に取り組む児童の姿も見られた。 ・係活動に取り組む中で、教員や友だちから「ありがとう」や「すごいね」と声をかけてもらっている場面を見ることができた。
11	風で動く車を作ろう (生活)	・手順に沿って、作ることができる。 ・困っている友だちを手伝うことができる。	7-B 15-B	・作り方が分かりやすくなるように、動画で手順を示す。 ・班ごとに制作することで、友だちの様子を見たり、手助けしたりしやすくなる。	・作り方を動画で示すことで、児童が手順通りに制作できる場面が増えたように感じた。 ・班ごとに制作することで、隣の児童を手伝ってあげる場面を見ることができた。
12	お誕生日会しよう (生活)	・自分がしたい活動を選択することができる。 ・友だちがクラスでしたいことを知り、一緒に楽しむ。	5-A 6-A	・その月の誕生日の児童が誕生日会の活動をいくつかの中から選択し、その活動をクラスで取り組む。 ・選択しやすいように画像を用意しておく。	・それぞれの児童が誕生日会でしたい活動を選択することができた。 ・友だちが選択した活動であっても、一緒に楽しく参加することができた。
13	学校の中の顔探し (生活)	タブレットを使って、写真を撮影することができる。 ・集団の中で、自分の意見を伝えることができる。	5-B	・学校内で、顔に見える物や場所を探してタブレットで撮影する。 ・撮影した写真を学級で発表する。	・学校の中で顔に見える物を児童は楽しんで探して、タブレットで撮影できた。電気のスイッチやロッカーなど味方によって顔に見える物をグループで協力して探し出すことができていた。学級に戻り、電子黒板を使い、見つけた顔を発表することができた。
14	落ち着く言葉の魔法 (道徳)	落ち着く言葉を使いセルフトークができる。	9-A	・自分の心を落ち着かせる言葉を考え発表する。 ・落ち着く言葉のセルフトークをして、輪投げに取り組む。	自分が安心するために、セルフトークをすることで心理的な面で自己理解が深まったのではないだろうか。
15	ペアワークをしよう (体育)	友だちとペアになり、協力して課題に取り組むことができる。	3-A	・友だちと協力してボールを運ぶ。 ・友だちとペアになり、相互にタッピングやハンドマッサージをする。	ペアワークでは、課題に対して協力して取り組む姿が見られた。タッピングやハンドマッサージでは友だちの体が痛くないように力を調整する様子が見られた。
16	朝の会 (自立活動)	・教員や友だちに挨拶をする。 ・椅子に座って前に注目をする。	1-A 3-A	・前に出て一人ずつ挨拶をする。 ・教員が横につき、興味がそわたり立ち歩こうとしたりしたときは言葉かけをする。	・朝の会や授業時間は「椅子に座る」ということが分かってきた様子。 ・はじめの挨拶時は、全員が教員の方を向き、足を揃えて挨拶しようとしている姿もある。 ・朝の挨拶も音数が合うようになりたり大きな声で言えるようになりたりと、それぞれ力が伸びている。

17	そうじ (自立活動)	・清掃の意味・ 必要性の理解。 ・汚れを見つ けてきれいに する。	11-A 13-A	・汚れやごみを見つけて集め ていた。 ・「そうじの達人は隅を丁寧 にする」と伝えるとほこりや 砂がたまっていることに気 づいていた。	・雑巾は2往復と伝えてい たが、他児が終わるまで何往 復もしている児童がいた。日 によって気持ちにムラがあ るが楽しんで活動している。
18	ダンス (音楽)	・教員を見て、 同じように体 を動かすこと ができる。	8-B	・1～2分の短い音楽で、簡 単な振り付けにする。	・簡単な振り付けをスモー ルステップで達成すること ができた。
19	あそび (自立活動)	・友だちとコ ミュニケーシ ョンがとれる ようになる。	6-A 6-C	・集団遊びやゲーム性のある 遊びをする。	・ゲーム性のある遊びを継 続することで、勝ち負けを繰 り返すことにより、負けた時 の気持ちを受け入れること ができるようになってきた。
20	およその数 (かず)	・買い物の計 算において見 通しが持てる ようになる。	8-A	・買い物をするとき、予算内 に収めるために、商品の値段 を切り上げて計算する。 ・計算機器を使って計算す る。	・商品の値段を概数で表し たり、合計金額を計算したり して、予算内での買い物計画 を立てることができた。
21	ヨガ (自立活動)	・他の児童と 連携、協力しな がら作業する。	9-C	・児童同士で向かい合って座 り、両足を開いて合わせる。 その状態で両手をつないで 引っ張ったり引っ張られた りして、柔軟体操をする。歌 に合わせてリズムにのって 引っ張ったり引っ張られた りを教員が児童の肩をもっ て支援する。	・最初は同時に引っ張り合 ったり、一方が引っ張り続け たりしていたが、歌に合わせ て支援していると支援なし でタイミング良く引っ張り 合って柔軟体操ができた。
22	ざこう (図工)	・自己理解 ・自己管理能 力	7-B	・手順が分かりやすいよう に、ホワイトボードに書く。 ・見本や手順を見せながら伝 える。	・ホワイトボードを見て、手 順を理解できた児童がいた。 ・その都度、言葉かけや質問 をすることで、手順通りでき た児童もいた。
23	みんなで清 掃しよう (自立活動)	・進んで清掃 ができる。 ・友だちと協 力して掃除を することができる。	12-A	・子ども同士がペアで大きな 荷物を運ぶなど、一人でき ない場面を設定する。 ・活動の流れの手順を掲示 し、説明する。	・大きいものを運ぶときは、 友だちに協力をお願いする ことができた。 ・教員の少ない指示で自分 の役割に取り組むことがで きた。
24	生活 (生活)	・活動を行う ために、どう計 画を立てること が必要か考 え、計画を立て てみる。	7-9-A 7-9-C	・校内探検で行きたい場所、 行っていたいこと、行ったら きの役割分担について教員 の説明を聞き、児童間で話し 合う。	・場所の写真を見て、「行っ て〇〇がしたい！」と具体的 に意思表示したり、発言す ることの難しい児童に対して 「〇〇ちゃんは本が好きだ から、図書室で本を読みたい んじゃない？」と配慮したり する様子が見られた。
25	生活 (生活)	・指示にした がって準備や 片付け、簡単な 清掃をすること ができる。		・教員の指示に従って教室の 雑巾がけをする。 ・自力で姿勢を保って雑巾が けをすることが難しい児童 には木製の箱で厚めの雑巾 を押さえて姿勢を維持しや すくできるように支援する。	・店員役の児童は、「いらっ しゃいませ」「ありがとうご ざいました」と元気に挨拶す ることができていた。また、 客役の児童は商品を選び購 入するまでの流れで、簡単な 金銭のやり取りの学習をす ることができた。
26	お店屋さん になろう (生活)	・簡単な接客 の対応ができ る。	17-A	・「いらっしゃいませ」「ありが おとうございました」などの 簡単な対応の練習をする。 ・店員役とお客役に分かれて、商品 の購入・販売の練習をする。	・店員役の児童は、「いらっ しゃいませ」「ありがとうご ざいました」と元気に挨拶 することができていた。また、 客役の児童は商品を選び購 入するまでの流れで、簡単な 金銭のやり取りの学習をす ることができた。

27	せんたくをしよう (生活)	・「汚い」「きれい」の違いがわかる ・洗濯板を使い洗濯することができる。	11-A 10-C	・洗濯板の使い方を学ぶ。布巾で教室を清掃する。 ・洗濯板とたらい、石鹸を使い布巾を洗う。洗った布巾を干す。	・布巾で教室を清掃することで、教室の中の汚れがある所に着目することができていた。汚れた布巾を洗濯板で洗濯することで、汚れた状態からきれいな状態へと布巾が変化するのを視覚的に理解することができていた。
28	係活動をしよう (自立活動)	・集団の中で、自分たちがしたいことやみんなですしたいことを決める。	15-A 15-B	・学級でやりたい係活動について話し合い、発表する・ ・自分がやりたい係を決めて、係カードを作る。	・自分がやりたいと決めた係について児童は積極的に取り組んでいる。例えば、出席係の児童は、自分から教師に「出席書きに職員室行こう」と言って率先して係の仕事に取り組むことができていた。
29	あいだのとりかた (自立活動)	・人との適切な距離の取り方を学ぶ。	3-A	・生活場面での適切な距離についてクイズ形式で考え答える。 ・友だちを遊びに誘う場面や、順番を待つ場面での人との適切な距離の取り方をロールプレイする。	・児童らは距離の取り方や誘い方についてのロールプレイに真剣に取り組んでいた。教員がわざと間違った取り方をすると、「それはだめ」という発言をしており、距離の取り方に対して理解できている様子だった。
30	うれしい言葉の魔法 (ことば)	・友だちに言われてうれしい言葉を考え、実践する。	3-C	・友だちに言われてうれしい言葉を考えて発表する。 ・うれしい言葉を短冊に書き、教室に掲示する。	・「ありがとう」「すごい」「お話ししよう」などの言葉を考えて発表することができていた。短冊づくりでは、字の書ける児童は字を書き、書けない児童は短冊に色を塗るようにしたことで、協力して作業することもできていた。掲示された短冊を教員と一緒に確認し、使用するようにして定着を図っている。
31	進路学習 (特別活動)	・人間関係の大切さがわかる	3-A 3-C 4-C	・悪口と注意の対応の仕方について考える。悪口と注意の違いを確認し、それぞれの対応を決める。	・対応の仕方について考えることができた。
32	スーパーマーケットの工夫 (生活)	・相手の願いを知る力、わかる力	16-B	・スーパーマーケットで働く人々は、消費者の要望に応えるためにどのような工夫をしているかを考える。 ・スーパーにあるお客様の声などを写真に撮って見せる。	・働いている人は、買い手のニーズを気にして接客したり、商品を売っていることに気づいた。
33	投票をしよう (生活)	・理由を述べることができる	11-C	・模擬投票をする。 ・ワークシートに投票前の自分の考えや投票を判断した理由を書かせる。	・人の意見を聞いて、賛成できる点を見つけ、なぜそう思うのかを発表することができた。
34	向いているのはどんなひと？ (生活)	・自分の考えを発表したり、グループで話し合ったりできる。	9-A 9-C	・3種類の仕事に必要な適正について考え、グループで話し合い、分類する。働くために大切なことを、現場実習での気づきと関連させる。	・二人一組など、人数が少ないほど自分の考えを発表できた。
35	学期のまとめ (特別活動)	自分の役割や責任に気付く力	15-A 17-A	・来学期に向けて役割や責任について話し合う。具体的な行事を挙げて前向きに振り返ることができるようにする。	・高学年として大変なことはあるが、努力や協力をするとうまくいったことに気づくことができた。

3 6	招待状を書こう (ことば)	・他者に働きかける力	4-A 9-A	・運動会の競技について紹介する招待状を保護者を書く。 ・自分が頑張っていることを振り返る。	・招待状には何を書けばよいか理解することができた。 自分の考えをまとめ、説明することを通してコミュニケーション力が育った。
3 7	着替え (自立活動)	・(言葉かけだけで)自分で着替えることができる。	2-A 7-A	・着替えの手順表を見せる。 支援する場合は、子どもと同じ方向を向いて後ろから支援する。 ・初期は、「右足曲げて～伸ばして～」などと言葉をかけながら行う。	・少しずつ覚えて自分で履けるようになってきた。 ・着替えるスピードが早くなっている。
3 8	図工 (図工)	道具(はさみ)が使えるようになる。	1 0-C	・1回切り→2回切り→連続切りの順番に挑戦する。 ・いろいろな素材を使って切る練習をする。	・はさみを上手に支持して操作できるようになった。 ・あらかじめ紙に線を引いていたなら、それを目当てにして切ることができるようになった。
3 9	給食 (自立活動)	外で食事をする際に、周りの人に不快感を与えないようにする。 ・手づかみでご飯をためない。	6-C 1 1-A	・「こうやって食べるんだよ」とスプーンを口に運ぶ姿をみせる。 ・スプーンに一口大の食べ物をのせて渡す。自分の手でしっかり握る練習をする。	・スプーンを上手に持って、給食が食べられるようになった。 ・手づかみで食べる回数が減った。
4 0	朝の会・帰りの会 (自立活動)	・一日の見通しをもつ	8-A	・前日に明日の予定を発表する。当日も詳細に確認する。 ・名前を呼んで、教員に注意を向かわせる。	・予定カードを見て、行動に移すことができた。 ・一日をスムーズに過ごすことができた。
4 1	着替え (自立活動)	・着替えの手順を覚えて一人で着替える。 ・シャツをズボンの中に入れる等、身だしなみを整える。	2-A	・着替えの手順書を用意し、その手順書を見ながら着がえられるようにする。 ・手順書の中に「シャツを入れる」という項目を入れ、自分で意識できるようにしたり、言葉かけをしたりする。	・手順書があることで、それを見ながら一人で着替えることができたり、手順書がなくても手順を覚えて着替えたりすることができた。 ・トイレ後にシャツが出ていることはあったが、言葉かけをするとシャツを入れることができた。着替えの際には手順書を見てシャツを入れることができた。
4 2	図工 (図工)	・作品を通して、自分の気持ちを表現する。 ・友だちと一緒に楽しんで、一つの作品をつくりあげる。	9-A 1 5-A 1 7-A	・自分が塗りたい部分を選択させ、自分の担当する部分を完成させる。	・自分の担当する部分を完成させることができ、友だちと協力して一つの作品を作り上げることができた。
4 3	ことばとかず (かず)	・自分で決めたスケジュールに沿って活動する。	7-C	・お小遣いの範囲で買えるものを試行錯誤しながら決定する。アプリで確認ができるようにする。実際に買い物をする。	・実際に決めたものを買うことができた。また、売り切れなどのアクシデントにも対応できた。
4 4	体育 (体育)	・初見のことでも落ち着いて活動する。 ・成功体験を積み、自信を持つ。	8-A 1 7-A	・目の前での手本や動画等児童の実態に合わせて、「今からすること」の提示方法を複数準備する。 ・繰り返し取り組むことで成功体験を積む。	・複数の手がかりを元に初見の活動でも落ち着いて活動する児童が増えた。 ・初見では難しかった活動も繰り返し取り組むうちに成功するようになったり、よりレベルアップした活動に取り組んだりすることができるようになった。

4 5	終わりの会 (自立活動)	・自分の思いや楽しかったことなどを相手に伝えることができる。	5-A 5-B 5-C	・毎日終わりの会の「ふりかえり」で今日の授業で頑張ったことや楽しかったことなどを発表させる。児童の段階により、授業の内容を答えさせたり、難しい子には授業名のカードの下に自分の写真カードを貼らせたりしている。	・授業でしたことを思い出して言葉にして説明したり、何択かから選ぶことができたりする児童が増えた。
4 6	かず (かず)	・形と名前が一致している。	1 0-A	・同じ形どうしを分類する。 ・形(模型)を手取るたびに、「まるだね」「しかくだね」と言葉かけする。	・型に合わせて分類することができた。 ・名称を聞いただけでは、まだ形を取ることができない。
4 7	道徳 (道徳)	・後始末(片付け)ができる。	1 2-A	・ごみ箱を3つ用意し、分別してごみを捨てる。片付けをしないと、後から使う人が困るということに気づかせる。 Keynote やクイズを取り入れる。	・教室において共有物が乱れていたなら、自発的に整えるようになってきた。 ・ごみを分けて捨てること、同じ空間で過ごす人のことに気を向けることができるようになってきた。
4 8	図工 (図工)	・作品を通して自分の気持ちを表現する。 ・友だちと一緒に楽しんで作品を作り上げる。	9-A 1 7-A	・自分が塗る部分を選択させ、自分の担当する部分を完成させる。	・自分の担当する部分を完成させることができ、友だちと1つの作品を楽しく作りあげることができた。
4 9	フェスティバルを開こう (生活)	・相手に対して簡単な報告や要求を伝える。 ・手順に沿うことができる。	4-A 7-B	・イベントポスターからの情報の読み取り(発表)、活動全体(特にポスター作成)児童が発表しやすい質問やヒントを投げかける。流れや見本を示し、やり方を繰り返し伝える。	・見つけた情報を教員に報告することができた。 ・手順に沿って自らのポスターを完成させた。
5 0	図工 (図工)	・授業の始まりと終わりを意識して姿勢を正す。 ・動画や写真などを見て、本時の内容を分かろうとする。	1-A 8-A	・姿勢を正して、授業に集中できるように、休み時間と授業の切り替えがわかるように声かけする。 ・教員が事前に行っている活動の動画をみる。	・授業に集中してスタートすることができている。 ・次、これ?や活動に必要なものを提示すると自ら行おうとすることがあった。
5 1	ことばとかず 名刺交換をしよう (ことば)	・名刺カード作成を通して、自分の好きなものを伝えることができる。 ・作成した名刺カードを交換し、相手のことを知ろうとする。	5-A 1 6-A	・自分の好きなことや苦手なことなどを書いた名刺作りをする。 ・書くことが難しい児童は写真やイラストを使って名刺作りをする。	・自分のことについて書いたり、写真を貼ったりする活動を貼ったりする活動を通して自己理解につながったと思われる。進んで名刺交換をする姿もあり、相手へ積極的に関わることができたのではない。
5 2	ポスターを作ろう (ことば)	・自分の考えを相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりする力	5-B	・友だちのポスターについて、よいところと直すところを伝え、よりよい内容にする。 ・アドバイスの視点を明確に持たせ、2色の付箋を用いて良さと改善点を伝える。	・グループで協力して考えを伝えあうことができた。

5 3	正しく分別しよう (生活)	・表示（マーク）にしたがって、正しくわかる能力。	7－C	・プラスチックや缶に表示されているマークに注目して、ごみを分別する。 ・判別が付きやすいごみを用意する。	・友だちの頑張りを実感し、自分もそうなりたいと思うようになり来年の目標を設定することができた。
5 4	運動会を振り返ろう (特別活動)	・自分や周りの頑張りに気づき、来年度への見通しを持つ。	1 1－C 1 7－A	・自分や友だちの頑張りを振り返り、来年の目標を考える。	・友だちの頑張りを実感し、自分もそうなりたいと思うようになり来年の目標を設定することができた。
5 5	せいかつ (生活)	・見通しを持って散歩に行く。 ・話を聞く場面では、話している人の方目や体を向ける。	8－A 3－B	・散歩に行く前に写真や絵カードで行先やルート、約束事などを確認する。 ・集合時などは前の教員に注目するように言葉かけをし、砂遊びなどをしている場合は手を膝に置くように促す。	・はじめは散歩に不安を覚えていた児童が今では初めての場所にもスムーズに行けるようになった。集合時には、ほとんどの児童が前を向いて話を聞けるようになった。
5 6	せいかつ (生活)	・箒や雑巾の名称や使い方がわかる。 ・床面に沿って、箒でゴミを集めたり雑巾をかけたりすることができる。	1 0－A 1 2－A	・教員が手本を見せる。 ・床にテープを線で引き、ゴミを一方方向に集めたり、雑巾をまっすぐかけたりしやすいようにする。	・箒の持ち方が定着してきた。ゴミをもれなく集めることもほぼ全員できている。雑巾は、まっすぐかけることに加え、絞ることもできるようになってきた。
5 7	音楽あそび (音楽)	・自分の好きなものを見つけて、のびのびと活動をする。	5－A	・複数の楽器を用意していろいろな音色が楽しめるようにする。 ・自分なりにリズムをとって楽器がたたけるように、リズムの捉えやすい曲を選ぶ。	・選択肢の中から自分がやりたい楽器を選んで音を鳴らすことができた。
5 8	着替え (自立活動)	・自分でできる範囲で着替えられるようになる。	6－A 6－C	・立位の状態で着替えることが難しいので、椅子に座って着がえるようにした。	・椅子に座ると体幹が安定し、落ち着いて着がえることができた。 ・教員の指示がなくても着替えの一連の動作ができた。
5 9	水族館の思い出 (図工)	・作品の一部や役割を担っていることを実感できる。 ・他の児童と協力しながら1つの作品を作り上げることができる。	1 5－A 1 7－C	・自分が塗る部分を選択させ、自分の担当する部分を完成させる。 ・自分の活動の写真を見て振り返る。	1つの作品として自分の担当部分を完成させることで、「これは自分がやった」という発言をとおして、実感がわいていたと思われる。役割を自ら選択し、進んで発言する姿も見られたので、達成感を得ることができたのではないかな。
6 0	音楽あそび (音楽)	自分のしたいことや楽しかったことを伝える。	5－A	・鳴らしたい楽器を目の前で提示し、選ぶように促す。 ・授業の振り返りの時間に、授業カードを使って、どれが楽しかったのかを発表する時間をつくる。	・楽器を選ぶことは、ほとんどの児童ができていたが、一人の児童が選ぶことができなかった。楽器の写真カードを提示したり、前に出て選ぶようにしたりする等、別の方法も試してみればよかった。 ・5人のうち、3人の児童が、授業カードを指さしたり、言葉で伝えたりして楽しかったことを発表できた。

6 1	ボール投げあそびをしよう (体育)	・ボールを投げる、受けることができる。 ・自分ができたことを発表(見本)ができる。	9-A	・同程度の力の児童をペアにする。 ・児童ができているかを確認し、ふりかえりの時にみんなの前でできるひとを聞く。	・見てもらいたいという気持ちが高まり、がんばる児童が増えた。
6 2	買い物学習をしよう (かず)	・自分の意見を伝える。 ・買い物の仕方を知る。わかる。	5-B	・本物のお金・商品を用紙し、買い物ごっこをする。 ・支援としては本物を用意する。	・自動販売機で買い物をしたことがない児童もあり、買い方を知ることにつながった。
6 3	体育 (体育)	・指示を聞いて長縄やボール投げをする位置に移動させる。	8-B 3-A	・順番が来た児童の前に立ち、名前を呼び、移動する位置を指差したり、フープを置いたりして移動させる。	・位置を指差ししただけではわからない児童にはフープで位置を示すことで移動できる児童が多かった。
6 4	いろいろな食べ物を知ろう (道徳)	・教員の指示を聞き、正しくゲームに参加することができる。 ・自分の意見を伝える。	4-B 5-B	・事前にルール確認。教員が手本を見せる。 ・ゲームに1人ずつ参加し、発表の場を設ける。	・ルールを理解し、参加できる児童もいたが、ルールを理解したうえでルール違反をする児童もいた。 ・一人ずつ発言の場を作ることができたが、周りがざわついていたので、もう少し1人ずつ時間を丁寧にとりたかった。
6 5	特別活動 (特別活動)	・他学年の教室に入るときなどに挨拶をする。 ・小学部の児童が喜ぶことをする。	1 5-B 1-B	・小学部全体のごみ集めを行ったり、学部集会の司会などを担当したりした。ごみ集めでは、教室の出入り時に「失礼します」「失礼しました」といった挨拶をいうよう促した。	・ごみ集めや司会をすることで、児童や教員に感謝されたり、声をかけられたりすることで、人の役に立つ嬉しさを感じられたように思われた。
6 6	帰りの会 (自立活動)	・今日あった出来事を発表することができる。	5-C	・帰りの会などで、今日あった出来事を発表する場面を設定する。説明が分かりにくい場合は、いつ、どこで、だれなどと教員と一緒に整理してから話すようにする。	・学校での発表は、ヒントがなくてもスムーズにできるようになった。また、家でも保護者にわかりやすく説明できた。
6 7	そうじ (自立活動)	・そうじの手順を知る。	1 3-A	・箒の持ち方や掃き方を説明する。掃いていない所が分かりやすくなるように、ちぎった新聞紙を掃く場所に置いていく。	・両手で箒をもつことが定着しつつある。また、自らごみを見つけて掃くこともあった。
6 8	朝の会 (自立活動)	・自分なりに朝の挨拶ができる。 ・名前を呼ばれた際に反応を示す。	1-A 3-A	・普段から挨拶をする際は、お辞儀をしながら行う。発語がない児童もお辞儀をすることができるよう、一緒に行う。 ・児童の目線に合わせて名前を呼ぶ。教員が手本を見せたり、ハイタッチができるよう手を出したりする。	・発語がない児童は「おはようございます」のあいさつのタイミングでお辞儀をして挨拶ができた。 ・目線を合わせることで自分の名前が呼ばれていることが分かり、教員の出す手にハイタッチができた。
6 9	そうじ (自立活動)	・箒や雑巾などの清掃道具の名前を知り、使うことができる。 ・指示にしたがって、決まった場所の雑巾がけやほうきができる。	1 0-A 1 2-A	・導入で「箒」や「雑巾」など教員と一緒に名前を確認する。使い方の手本を見て取り組む。 ・1人ずつ決まった範囲での雑巾がけをする。	・「これはなに？」と聞かれると、指をさしながら「ぞうきん」と答えることができた。1人で取り組むことが難しい児童も教員が手を添えて繰り返し取り組んだことで、両手を雑巾に添えて1人で雑巾がけができる距離が伸びた。

7 0	そうじ (自立活動)	よく使う道具 の正しい使い 方や清掃の手 順を理解する。	1 0－C	・箒で掃除をするときに目に見え るごみ(新聞紙)を使っ て、ごみを掃く練習をする。	・教室に落ちているごみを 自分で探す子が増えた。
7 1	役割を果た すこと (生活)	・社会生活に はいろいろな 役割があるこ とやその大切 さがわかる。	1 7－A	・宿泊学習を振り返り、様々 な役割があったことを思い 出す。目的を達成できた理由 について考え発表する。	・役割を果たすことの大切 さや役割の関連性に気付く ことができた。
7 2	私たちの住 む町 (生活)	・自分の役割 を果たしなが ら他の児童生 徒と一緒に楽 しい経験がで きる。	1 7－A	・町の地図作りを協力して行 う。それぞれの児童ができる 役割を任せる。	・協力して模造紙の地図に 写真を貼ったり、店の名前を 書いたりすることができた。
7 3	そうじをし よう (自立活動)	・ごみや汚れ をみつけた り、気づいた りできる。	1 3－A	・床を箒で掃く。床に新聞紙 を細かくちぎったり、丸め たりしたものをはばらく。児 童の実態に応じて大きさ を変え、教室の枠の中に入 れるよう促す。	・床の新聞紙を箒で掃い て集めることができた。
7 4	図工 (図工)	・大人の話を 聞いたり、写 真などを手が かりにしたり して、見通し をもって行動 する。	8－A	・電子黒板を用いて keynote で活動の流れ(作り方の流 れ)を示す。動画で作って いる様子を撮影し流すこと で重度の児童も含め画面に 注目することができた。	・活動の場面ごとに活動 の画像や動画を映しておく ことで、見ながら1人で活 動に取り組もうとする児童 が多く見られた。また、流 れの一覧も映しておくこと で、次の活動へ自ら移ろう とする児童もいた。
7 5	掃除 (自立活動)	・指示にした がって準備や 片付け、簡単 な清掃をする ことができる。	1 2－A	・日直や掃除係が掃除用具 の準備・片付けを行っている。 タイマーをセットし、箒は く時間を決めたり、雑巾で 拭く回数を指示したりして、 全員が取り組めるように している。	・清掃することが好きな 児童が増え、積極的に準 備や掃除に取り組むよう になった。
7 6	自己紹介 (ことば)	・自分の好き なこととし たいことを 伝える。	5－A	・好きなことの写真やイラ ストを指さしたり、簡単 な言葉で友だちに伝え たりする。	・写真やイラストに気 づき、注目して選 び、自分なりの方法 で友だちに伝えるこ とができた。
7 7	体あそび (体育)	・自分が決 めた目標に向 かって取り組 むことができる。	1 5－C	・大縄跳びに取り組む。縄は 一周回したり横に振ったり など、児童の実態に合 わせて回し方を 買える。 ・目標となる事柄や回 数が分かりやすいよう、 児童一人一人に合 った達成カードを作 成する。	・達成カードを作成す ること目標が分 かりやすく、跳 ぶ前に「6回跳びま す。」と具 体的な目標を 発言してから 取り組む様 子が見られ た。また、 達成したと きにシール を貼るこ とに喜びを 感じ、前向 きに取り組 む児童も いた。
7 8	自立活動 (自立活動)	・マインド マップの作 成を通して、 自分のこと について表 現すること ができる。 ・マインド マップの交 流を通して 相手のこと を知ろうと する。	5－A 1 6－A	・マインドマップを作成し、 発表し合う。 ・顔写真やイラストなど を使い、視覚的に分 かりやすいよ うにする。	・保護者の協力のもと、 好きなものや苦 手なものなど をリサーチし 作成した。作 成していく 過程で、自 己への理 解にもつ ながって いったと思 われる。ま た、友だ ちが作成 したマ インドマ ップの写 真やイラ ストを じっと 見る様 子があ り、相 手のこ とを知 る機 会にな ったの ではな いか。

7 9	生活 (生活)	・地域清掃を通して、勤労の喜びや尊さを体験する。 ・友だちと協力しながら清掃に取り組む。	1 5-B 1 7-A	・地域の公園や公共施設の清掃に取り組む。 ・郊外での活動のため、安全に十分に気をつける。	・清掃をととして、地域のことをより知る機会となった。進んで落ち葉やごみを拾う姿があった。振り返り学習として、写真を見ながらどのようなごみをどれくらい拾ったのかを再度確認したことで、より達成感を得られたのではないかな。
8 0	年末お楽しみ会 (特別活動)	・係の仕事を果たしながら、友だちと一緒に楽しい経験や嬉しい経験をする。	1 7-A	・係活動の仕事(司会、始まりの言葉など)を一人一人が担う。 ・全員が係活動の仕事を達成できるよう児童の実態に合ったものを教員が考える。	・係活動を通して年末お楽しみ会を実施することで、発言する機会や活躍する場が増え、自分たちで作り上げた会になったと思われる。当日に向け、練習する姿も見られたので、達成感を得ることができたのではないかな。
8 1	ことばとかず (かず)	・課題解決能力	1 5-C	・コンピュータに意図した動きをさせるための論理的思考、プログラミング的思考を身につけさせる。	・絵を動かすことができた。連結して動かす、思った方向へ動かす、色を変える等、命令を実行させるためにはどうするかを考えながら取り組んだ。
8 2	自己紹介 (生活)	・意思表示 ・自分の好きなことやしたいことを伝える、	5-A 6-A	・自己紹介をする場面で、様々なイラストや写真を用意して、好きなものを選ぶようにする。 ・ある程度好きなものを把握しておき、そのカードを準備。選びにくい子には、選択肢を減らして近くで見せる。	・1つを選ぶのが難しいこともある。選択する力は今後も伸ばしていきたい。
8 3	あいさつ (自立活動)	・あいさつ	1-A	・朝の会、終わりの会、授業のはじめや最後。 ・「足トントン手はおひざ」で必ず始まって終わる。ゆっくりリズムよくいう。(勉強が始まるというのを伝える。切り替えのタイミング)	・授業がはじまるタイミングで自ら「足トントン」と言っていて、遊びを終えることがある。 ・授業が終わるまでが授業という認識ができている子もいる。
8 4	図工 (図工)	・自分で色などを選択することができる。 ・つくり方の動画や教員の手本を手がかりにして政策に取り組む。	5-A 8-A	・色カードや実物の絵の具を提示して選択しやすくする。 ・視覚支援(動画)を用いたり、児童の目の前で手本を示したりする。	・選択肢が多すぎる際は、2つずつにするなど工夫すると自分で選択できる児童が多かった。また、色カードや実物を提示することでスムーズに選択できた。 ・目の前で手本を示すことで注目することができ、さらに動画を手がかりにして制作する姿が見られた。
8 5	チクッとことば (道徳)	・相手の気持ちを考える	C-6	・教室での様子の絵を見て暗い表情の子どもはどんな気持ちだったのか考える。 ・自分で言われて嫌だったことばを考える。	・友だちが誰かに言っている言葉を聞いて、「それってチクッとことばだな」など意識している様子が見られた。
8 6	個別学習 (ことば) (かず)	・20分程度、同じ姿勢で作業を続ける。 (作業の継続)	1 4-B	・個別の学習の際に、児童それぞれに合った課題を20分程度行わせる。集中させるために机を話して周りのものが目に入らないような環境を作り、児童の能力や実態に合った課題設定をしている。	・20分程度継続して課題(漢字やひらがなの読み書き、パズル形合わせ、紐通しなど)を行うことができていた。

8 7	お手紙を書こう (ことば)	・手順に沿うことができる。	7-B	・はがきの書き方のフローチャートを理解して、それに沿ってはがきの表面を書くことができる。	・手順表の通りに(型から外れることなく)はがきを書くことができた。
8 8	図工 (図工)	・遊びを通じて身近な人々と関わり、楽しい経験を積む。 ・どんなおもちゃランドにしたいか教員と一緒に考えたり、おもちゃを作ったりすることができる。	1 7-A 1 5-A	・おもちゃランドに1年生を招待し、1年生が遊べるおもちゃを作成する。 ・児童の実態に合わせグループ分けをし、さまざまなおもちゃを作成する。また、実行委員会を立ち上げ、それぞれ役割を担うようにする。	・さまざまな複数のおもちゃを作成することでどの児童も遊ぶことができ、1年生と6年生と一緒に遊ぶ姿も見られた。また、自分たちが作ったおもちゃを身近な人が楽しそうに遊ぶ姿を見たり、それぞれの役割に取り組んだりすることで、1年生の児童や教員から直に評価され、達成感を味わえたのではない。
8 9	給食 (自立活動)	・苦手なおかずを自分から伝えることができる。	9-A	・本児から何かしらの働きかけがあるまで待つ。 ・伝えられた時にほめる。 ・はじめにどれも1口ずつ食べ、どれが好きでどれが苦手かを決められるようにする。	・毎回自分から言えるわけではないが、苦手なものを伝えることに対する抵抗感は減ってきている。
9 0	私たちの住む町 (生活)	・音声、画像、動画が中心の教材を準備する。選択も映像から選べるようにする。	5-A	・様々な都道府県の名所や特産品を見て、行きたい都道府県を選ぶ。	・重度でも画面をタッチして意思を伝えることができた。
9 1	プリントをファイルにとじよう (ことば)	一人ですること増やす・手順にそって簡単な作業ができる。	7-B	・完成したプリントをファイルにとじる。 ・手本を示しながら一緒にプリントをとじていく。 ・手順を写真でわかりやすく提示し、手順表を見ながら一人でとじられるようにする。	・はじめは手伝ってとじだったが、何回目からは一人でプリントをとじられるようになった。できたプリントとファイルを渡すだけで、一人でプリントをとじ、授業の終わりの合図にすることができた。
9 2	ふれあいあそび (音楽)	・友だち(人)と関わることに楽しいと思えるようになる。	3-A	・児童のペアを配慮する。(相性のいい児童) ・簡単なふりつけの活動にする。 ・児童同士で難しい場合は教員とペアになる。	・「○○くんのすきなことがわかった!」「こうすると喜んだ!」と感想があった。 ・授業以外の時間にふれあいあそびの動作をしてあそびを要求してくることがあった。人との関わりにつながったと考えられる。
9 3	(無記入)	・人間関係形成 社会形成能力	2-A	・着替えの際や給食着を着る際に、身だしなみを確認するように伝える。	・自分で意識して整える児童もいた。言葉かけがあると整えられるようになった。
9 4	生活 (生活)	・雑巾を絞ることができる。 (課題対応能力)	1 0-C	・雑誌、バッキング緩衝材、乾いた布巾などで絞る動作を練習してから雑巾を絞ってみる。	・徐々に効率よく絞ることができている。
9 5	着替え (自立活動)	・シャツを入れたり、マスクを鼻まであげたりするなど身なりを整える。	2-A	・着替えをする場所の壁にチェックシートのイラストを掲示し、自分で確認できるようにする。最初はシャツの入れ方について手を添えて伝えたり、マスクを鼻まであげるように言葉かけをしたりする。	・1か月経つと自分で「シャツ」と言ってズボンに入れることができていた。マスクを鼻まであげることは自分で気づくことは難しく、言葉かけがまだ必要。

9 6	日常の中で (自立活動)	・相手に対して要求を伝える(人間関係形成)	4－A	・好きなお絵かきに使う道具を手の届きにくい棚の上に置いておく。お絵かきをした際には「ペンください」など教員にトントンと触れ、教員のほうを見て言うことを伝える。習得するまでは、毎回手本を見せ、その後模倣できるようにする。	・数か月かかったが、自分から教員の方に来てトントンと触れ、顔を見て要求を伝えられるようになった。同時期に同様にトイレに行くことも伝えてから行けるようになった。
9 7	朝の会 (自立活動)	・話を聞いたり、写真などを手がかりにしたりして見通しを持って行動する。(自己管理能力)	8－A	・1日の予定を授業カードや場所の写真などを使って説明する。授業によっては活動内容も簡単に伝える。必要な場合は授業前にも同様に説明する。	・見通しが持てず年度当初は常に泣いていたが、徐々に見通しを持ち、様々なことに泣かずに参加できるようになった。
9 8	生活 (生活)	・ごみや汚れをみつけたり、気づいたりできる。(課題対応能力) ・簡単な掃除をすることができる。(H)	1 2－A 1 3－A	・ごみに見立てた新聞紙をまき、それをほうきで掃くように設定する。掃く時の体の向きは「かにさん」など児童がイメージしやすい言葉で伝えながら手本を見せる。・教室の床に平行にテープを貼っておき、掃く時や雑巾がけをする時の目印にできるようにする。	・どの子もごみ(新聞紙)を掃いてちりとりのところまで持ってこられるようになった。 ・テープを目印にすると雑巾がけで真っすぐ進める子が増えた。
9 9	生活 (生活)	・説明を聞いて写真を手がかりにして校内探検の計画を立てて実行できる。	8－A	・校内探検で行きたい場所、したいことを考えて発表しあい、役割分担をして実際に校内探検に行く。	・実際に探検に生き、その場所で仕事をしている人に話を聞いたり、シールを貼ってもらったり、一緒に写真を撮ったりできた。
1 0 0	生活 (生活)	・説明を聞いて何をすればよいかわかる。 ・他の生徒と連携・協力して作業できる。	8－C 9－C	・黒豆を収穫する。 ・指示された個数を袋詰めする。	・他の児童が途中でやめた作業を引き取って最後までやり遂げた児童がいた。 ・小分け袋に1つずつ黒豆を増やしながらか部詰めることができた。

【資料6】マトリクス運用シートの集積（中学部）

	単元名	身に付け させたい力	マトリクス	本時の学習活動 支援方法	身についたかどうか
1	バスケット ボール (体育)	・課題対応能力を身につける	1 5-B	・状況に合わせた動きをパターン化して取り組ませる。 (3 on 3 など)	・なかなかゲームをたくさんすることが難しい状況だったので十分に身についたとは言えない。
2	国語	・簡単なコミュニケーション力	4-B	・あいさつ当番を自分たちがじゃんけんをして決める。 (教員が必ず見届ける) 決まったら不平を言わず従える。	・時々、不満が出るときはあるが、全体としてはルールに従えている。毎回誰が当番になれるかをみんなが意識している。
3	生活	・清掃の意味や必要性の理解	1 1-A ABC	・清掃時に全員が手順を守り、清掃活動に参加している。(掃く場所がわかる、ごみの集める場所がわかる) 等を教員と生徒で決めて行う。	・みんなで廊下・特別清掃場所・教室内・ごみ捨て等に役割を決め。全員で取り組んでいる。
4	生活	・役割分担を考える力	1 7-A	・1つの作品の製作にあたり、役割分担を決め、それぞれができることに取り組む。教員はアドバイスをするとどめる。	・生徒の発信によって役割分担を決め活動している。
5	生徒の発信によって役割分担を決め活動している。(特活)	・簡単なコミュニケーション力	1 5-A	・クラスの全員でそれぞれが何をしたいかを決め、グループに分かれて活動する。(個人での活動も可) 教員は簡単なアドバイスにとどめる。	・それぞれが自分のしたいことを伝えることができています。
6	職業	・1つの作品を丁寧に作り上げる。 ・仕事と対価について実感させる。	7-C 1 5-B 1 7-C	・担当する作業を教員と一緒に仕上げる。 ・毎時、前回授業の仕事ぶりをお金(作り物)で評価しながら振り返る。	・一人ひとりの作業が1つの作品を作り上げることを実感し、それが商品となることを理解できた。 ・お金がもらえる喜びを日に日に実感することができた。
7	理科・社会	・自分の役割を果たしながら、他の生徒と楽しい経験やうれしい経験をする。	1 7-A	・自分が作業する部分を選択させ、自分の担当する部分を完成させる。	・それぞれが作業した作品を合わせて、より大きな作品を作ることによりよい作品になったことを実感できたと思われる。
8	音楽	・授業の流れを把握し、指示にしたがって行動できる。	7-B 8-B	・授業の始めにスケジュールを提示し流れを把握する。生徒が分かりやすく見やすい楽譜や絵カード(楽器)を作成し、提示する。指示が明確になるようにオーバーリアクションで説明するよう心がける。	・生徒一人ひとりがしっかりと教員の方を見て話を聞き、スケジュール表や分かりやすい楽譜を提示することで流れや内容を理解し、スムーズに授業を受けることができた。
9	国語	・日直(先生)の指示に従い(合わせ)、挨拶ができる。 (場に応じた挨拶、人間関係)	1-B	・授業の開始時、終了時に生徒1名(日直9が前に出てきて、教員と一緒に「規律、これから(これで)国語の授業を始めます(終わります)、礼」というように言う。	・起立で全員が揃って行動できている。また、起立していない生徒がいれば、待てるようにもなっている。 「着席」と言われてから、座れるようになってきている。
10	理・社	・あいさつ、みだしなみ	1-A 2-A	・始業時に服装を整え、姿勢を正して着席するよう言葉かけをする。 ・はじまり、終わりの挨拶は教員の合図で行うようにする。	・チャイムと同時にシャツをズボンに入れているか確認し、自席に着席することが習慣化しつつある。

1 1	器楽 合奏 思 齊 祭 に 向 けて	・他の生徒と 連携・協力しな がら作業を行 う。	9－C	・生徒一人ひとりの意見を聞 く。最終決定を生徒に任せ る。具体的に指示するように する。(欠席の多いクラスで あり、毎回メンバーによって 動き等が変更になる。) ・モチベーションが上がるよ うに言葉かけを行う。長欠生 も意識できるように授業を 進める。	・生徒同士で欠席生徒の役 割をカバーしたり、欠席生徒 が来た際には、積極的に言葉 をかけたりサポートする姿 が見られた。分からないこと を自分から聞きに来たり、自 らの役割を果たせるように 手伝って欲しいことを申し 出たりすることができるよ うになった。長欠生も他の生 徒から良い刺激を受け、練習 本番を自らの責任を全うし ようと努力する姿が多々見 られた。
1 2	体育	・指示者の指 示を聞いて行 動することが できる。	8－B	・立つ位置やホイッスルを使 用し、指示者に注目をさせ る。マイクを使用してどの生 徒にも声が届くようにする。	・舞台上上がり、全生徒が見 える位置でマイクを使用し たことで全体指示を聞いて 行動することができたと思 われる。また、注目できてい ない際は、ホイッスルを使用 したことで注目し、指示を聞 くことができたと思われる。
1 3	買い物計画 を立てよう (数学)	・グループワ ークを通して 意見を伝えあ う。 ・他の生徒と 連携しながら 買い物計画を たてる。	1 5－A 9－C	・グループワークにおいて選 ぶ商品や予算の過不足が出 た場合にどう考えるか言葉 かけを行う。 ・商品や価格を調べる際に役 割分担を促す。	・買い物計画を立てる際に、 各生徒の好き嫌いや予算の 過不足が出た場合にどうす るかなど意見を伝えあう場 面が多く見られた。この学習 を通して実際に買い物に行 った生徒がいたため、力が身 についたと考えられる。
1 4	国語・数学	・挨拶や意思 表示など。	1－A	・挨拶時に、しっかりと挨拶 ができていない生徒がいた ら、もう1回やり直しするな ど。	・身についてきている。
1 5	家庭	・自分の思い や気持ちを自 分なりの方法 で伝える。	9－A	・赤黄緑の多数の食べ物カー ドから自分が食べたい(好き な)ものを選び発表する。選 んだカードを黒板に貼った り、口頭で発表したりした。	・どれにするか迷っている 生徒には言葉がけをすること で選ぶことができ、発表も 同時に言葉かけを受けるこ とで全員発表した。
1 6	音楽	見通しを持っ て授業・活動に 参加することが できる。	7－A 8－A	・ホワイトボードに本時の活 動内容を文字と絵カードで 示し、終わる都度消してい く。絵カードの絵は、実際に 取り組む教材のタイトルと 同じ絵を用いる。	・1つの活動が終わる度に 自分でスケジュールを消そ うとする子どもや、単元が終 わり新しい教材に移ると、 「〇〇(それまでの単元、教 材)終わったねえ」と新しい 教材・取組みに移行すること を意識できている子どもが 見られ、一定の見通しが持 てていることが伺える。
1 7	国語	・経験したこ と、感じたこ とを相手に伝え る。 ・「土日の出来 事」の記述を月 曜日に行う。	5－C	・「いつ」「どこで」「だれと」 「何をした」「どう感じたか」 を項目に分けて記述できる ようプリントを制作する。	・項目ごとに整理して記述 することで必要な情報を相 手に伝えられるようになって きた。
1 8	家庭	・印に従って 刺しゅうがで きる。 ・困ったとき に教員に援助 を求める。	7－C 9－B	・印のついていところ針 と糸をくぐらせて刺しゅう をする。	・手順通りに刺しゅうをし たり、困ったときに援助を求 めたりができています。

19	職業について (国語)	・他者を意識する。	15-B	・見やすさを意識したスライド(パワーポ)の作成を行う。事前に背景、フォント、画像の取り込みについての学習済	・「この画像なら分かりやすいかな?」「これなら興味を持ってくれるかな?」等、作成中に生徒より質問があり、見る人のことを考えることができていた。
20	長さ・大きさを知る (数学)	・他者と協力しながら作業をする。	9-C	・たたみの大きさを知るためにビニール紐でたたみ1枚分の大きさを再現する。グループに分かれて長さを計る。紐を止める、切る、作業を生徒に行わせる。	・「ここを押さえて」「ここを計るわ」「こっちにまわって」等、指示や会話をを行いながら協力して活動を行えた。
21	やすりがけ (職業)	・20分程度同じ姿勢で作業をする。	14-B	・切断した木材の表面・切断面を、やすりがけしてきれいにする。 ・作業時間を口頭及び板書で示し、活動の始まりと終わりを意識させる。	・20分間、私語や休むことなく作業を続けることができた。
22	立方体の展開図 (数学)	・手順表の通りに活動する。	7-C	・配布した手順表をみて流れや内容を理解しながら立方体の展開図を作成する。事前に立方体について説明し理解を促す。画像と作業手順を示した手順表を各自に配布する。	・手順にしたがい展開図を作成することができた。
23	〇〇家のクリスマス (国語)	・他者が喜ぶことを考える	15-B	・〇〇家のクリスマスをどのように行えば、楽しめるかを考えてもらう。アイデアが出やすいように画像などを用いて家族の紹介を行う。モチベーションにつなげるため、アイデアを実践し結果を報告することを約束する。	・「子どもの好きなおすしを買って帰る」「おくさんには花を買って帰る」「早く帰ってあげる」「手料理を作ってあげる」等、相手が喜びそうなアイデアをたくさん意見として出せた。
24	集団行動 (体育)	・指示を受ける相手が分かり、指示にしたがって行動できる。	8-B	・集団行動の「やすめ」「気をつけ」「前にならえ」「回れ右」などを号令で全員に一齐にできるように、正しい行い方を説明して見本を示して支援する。	・授業で毎回繰り返すうちに、上手になってきている。
25	話の大事なところを聞こう (国語)	・話の要点を整理する力。	8-C	・聞き取りワークシートを用いて学習する。	・年間を通して継続した取り組みが必要。
26	美術	・作品を作る喜びや達成感を身につける。	15-C	・多くの作品や資料を提示し、選択肢を増やすことで自分の制作意欲を高めていく。	・制作に興味関心を持つことで制作意欲が高まり、やがて作品を作る喜びや達成感につながった。
27	スウェーデン刺しゅうをする。 (職業)	・手順に沿って作品作りができる。	7-B	・手順の見本を示す。 ・基本的な道具の扱い・縫い方の習得。	・指示を聞いて作品作りができていた。 手順に沿っていた。
28	軽作業 (職業)	・作業持久力の向上	14-B	・軽作業を連続して20分以上続けることが「実習」につながるように意識させる。	・継続して取り組むことで身につくと考えている。
29	お金の計算 (数学)	・挨拶、身だしなみ、人とのかわり、金銭の扱い	1-B 2-B 4-B	・授業の始めや終わりで身だしなみを整え、挨拶の習慣をつける。 ・お店でのやりとりの仕方(伝え方)を確認し、買い物学習に取り組む。	・授業前に身だしなみを整え、挨拶する習慣が少しずつ身についてきている。 ・お金の大切さやお店での丁寧な言葉づかい及び要求の仕方が身についてきている。

30	音楽	・他者と協力をして課題に取り組むことができる。	9ーC	・学習内容を確認し、ペアを組んで互いに協力して活動できるようにする。	・生徒同士でコミュニケーションを取りながら、協力して音楽発表ができていた。
31	学校周辺の道路標識(社会)	・調べたことを発表する。 ・学習の流れにそって、課題に取り組むことができる。	5ーB 7ーC	・調べる事柄が一覧表になったサイトを指定し、情報を調べやすくする。 ・学習の流れをモニターに提示する。	・一覧表から関連する情報を探しだすことで、見つけやすさと発表のしやすさを感じていたようである。 ・学習活動を流れにそって提示することで、見通しをもって課題に取り組めたようである。
32	木材で作ろう(職業)	・作業で使用する道具の正しい使い方を知り、安全に扱う。	10ーC	・全体での説明も行うが、実際に道具を使用する場合は、一人ずつ個別に行い、安全面や個々に合った使用上の注意点や改善点などを伝える。	・一度の作業で全てを理解することは難しいが、継続して続ける。個別で作業することで、目の前の作業に集中することができる。何度も繰り返すうちに、「補助・言葉かけ有り→言葉かけ無し→見守り」と段階的に「一人で安全に扱う」ことに近づいている。
33	理科・社会	・説明を聞いて示された手順通りに調べ学習をし、まとめることができる。	4ーB 7ーB	・地図づくりに向けたGoogle Earthの使用法を聞き、実践する。 ・Google Earthで調べたことをプリントにまとめる。	・Google Earthの使用法が分かると、意欲的に調べる姿が見られた。 ・調べることに夢中でまとめる作業に至っていない生徒もいるので、その点は手順を確認する必要があるように感じる。
34	1日の献立を考えよう(家庭)	・1日を通しての栄養バランスや摂取エネルギーを考えて、1日の献立を作成する。 ・作成した献立を発表する。また聞いた発表の感想を言う。(発言する)	7ーC 15ーC 5ーC	・主菜を選ぶ、主食を選ぶなど、作成手順を分かりやすく示す。献立を作成しやすくするためにたくさんのメニューの選択肢やタブレットを用意しておく。 ・友だちの献立を見たり聞いたりして、味・栄養バランス・見ためなどの観点から感想を発表する。	・手順を示すことで自分で考えて献立を作成することができた。栄養バランスも材料をこれまで学習した3つの食品群に仕分けさせることで考えることができていた。 ・献立や簡単ではあるがその献立にした理由を発表することができていた。感想については、なかなか思い浮かばない生徒もいたので、感想の具体例や食生活に関する基礎知識をもう少し伝える必要があると思った。
35	職業	・働くことについて理解を深める。	11ーC	・なぜ働くのか、何のために働くのかについて話を聞いたり自分の意見を発表したりする機会を設ける。実際にたくさんの働く人の映像を示す。	・働くことの楽しさややりがい、大変さや内容などを知ることができた。何のために働くか考えることができた。
36	国語	・話の内容に応じた行動をしたり、返答したりする。	4ーB	・互いの話を集中して聞き、感想を述べたり質問をしたりすることができる。	・友だちの話に興味をもって話を静かに聞くことができた。質問タイムでは、一人1回以上質問をしたり、返答したりすることができた。
37	生物の観察(理科)	・手順(表)に沿うことができる。 ・自分の意見を伝える。	7ーB 5ーB	・生物の観察カード(プリント)の表に生物の観察事項を記入する。 ・自分の観察カードを見ながら、観察したことを発表する。	・表を見て、各自観察したことを記入できていた。書く欄の間違ひはあったが、おおむね表に沿って書けていた。 ・教員が支援する場面もあったが、皆の前で観察した項目を発表できた。

3 8	デジタル描画 (美術)	・様々な情報への関心を持ち、タブレット操作に関心を持つ。	7-B	・Ibis Paintx (描画アプリ) の操作方法を身にうけるため、大画面で映した工程とプリントで手順を示す。	・身についてきている。
3 9	数学	・相手に対して簡単な報告や要求を伝える。	4-A	・個別学習に取り組む際、「できました」の報告をし、○つけししてもらい、または、わからないとき、「教えてください」を言う。	・繰り返しの活動の中で、徐々に自分からの発信ができるようになってきている。
4 0	お金の学習 (数学)	・課題に取り組み、数を取り扱うことに慣れる。 ・授業ということを意識し、授業に参加する時間を増やす。	8-A	・授業の始まりと終わりを明確に示す。 ・興味をひくイラストや、音楽、映像を使用した教材を使用し注目を促す。	・授業の間は、席に座り、集中して課題に取り組むことができるようになってきた。
4 1	ごみひろい (自立活動)	・ごみを見つけ、気づいたりできる。 ・指示にしたがって簡単な清掃をすることができる。	1 2-A 1 3-A	・紙ごみとプラごみを分別してごみ箱に入れる。 ・2ペアで協力してごみをひろう。	・ごみの種類を見分けてごみをごみ箱に入れることができるように頑張っている。
4 2	共同制作 大きなころがし絵 (美術)	・自分の意思や要望の表出	5-A	・描画に使用する道具や絵の具の色を選ぶ。 ・目の前に選択肢を提示したり、教員の言葉を復唱したりするように促すことで、選びやすくする。必要に応じて選択肢を減らす。	おおむね、ひとつ選択して手に取る。またはタッチすることができている。選択したものが活動に反映される経験を繰り返すことで自発的に人・物に働きかける力や意欲を育てる。

【資料7】マトリクス運用シートの集積（高等部）

	単元名	身に付け させたい力	マトリクス	本時の学習活動 支援方法	身についたかどうか
1	職業	・決められた時間集中して作業に取り組むことができる。 ・全員で一つの製品を完成させる。	1 4－C 9－C	・決められた大きさに折り紙をちぎり、指示された箇所にのりで張り付ける。 ・全体像を確認する。	・手を止めることなく作業を継続し、報告や相談も自らできていた。とても集中して取り組んでいた。 ・自分のちぎった折り紙が使われ、仲間と協力して貼り進めていくことで、全員で一つの製品を作っているという意識をもって取り組んでいる様子がみられた。
2	美術	・見本を見て作業内容を理解し、制作に取り組む。	7－B	・一つ一つの工程を区切り、見本を見せては実践し、これを繰り返す。1回の説明を短くすることで注意を保てるようにする。	・1時間の授業の中で取り組むことを細分化したことで、教員が示した見本を把握することができた。また、注意事項を（忘れずに）押さえて、制作に取り組むことができた。
3	カレンダーを作ろう （理・社）	・1か月の予定の見通しをもつ	8－A	・1か月の予定を画像や動画で具体的に示し、さらに日にちを記入した行事の絵にカレンダーの日と合わせ、カードを切り抜き貼る。完成したカレンダーを見せ行事を確認する。	・こわくて保健室に入って検診を受けられなかった生徒が少し入れたと次の授業で確認できた。運動会や思斉祭など印象に残るが、この授業でというよりは、学年の授業それぞれで伝えている成果であると思う。
4	長さ （数学）	・授業の始まりのあいさつ、返事ができる。 ・教員の出した指示や問題を受けて取り組むことができる。	1－A 8－A	・しっかりとあいさつや返事ができるよう言葉かけを行い、繰り返して身につける。 ・「長い方」を指示されたところに置く。プリントやコップなどを用意して置く場が明確になるようにする。	・繰り返し言葉かけをすることで、きちんとあいさつできるようになった。返事は忘れてしまう生徒もいるため、引き続き徹底して言葉かけを行う。 ・はじめは慣れず戸惑う場もあったが、教員の説明や指示を丁寧に行い、何度か実践することで、指示とどうするべきかの理解も進んできている。
5	理科・社会	・指導者の説明を聞いて、指示に沿って自動販売機をつくる。	8－B	・ペーパークラフトの折る部分に色分けして、線を引く。 ・注目させてから説明を始める。	・指導者の説明を聞いてから行動（制作）することができた。
6	朝の自立活動 （自立活動）	・自分の意見を分かりやすく相手に伝える。 ・相手の話を聞く。	5－B 3－B	・話のテーマを用意する。話を整理するため、メモ（プリント）を用意する。 ・話の仕方・聞き方について事前に伝える。	・5W1Hを意識して話をできるようになりつつある。 ・友だちの話を聞いた後、どのような内容であるかを確認すると、大まかな内容を理解することができつつある。
7	自立活動	・自分の思いを伝える力 ・人前で発信する力 ・言葉づかい	3－C 5－C 8－C 9－C 1 6－A	・自分に身近なテーマ（一番好きな○○は何ですか？またそれはなぜですか？）について作文し、グループ内の前で発表させる。	・始めは空白のままの状態になってしまいがちな生徒も、周りの発表を聞いているうちに少しずつ書き、自分の思いを表せるようになってきた。

8	学年レク (特別活動)	・学年、クラス などへの所属 間を養う。 ・他者とのや りとりを経て、 気持ちや意見 を調節する力 を養う。	A～C 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 15, 16, 17AB	・教員の支援のもと意見の発 表→調整→決まったことを 守る意識を促す。(主にクラ ス内での相談) ・決まりに従って集団で取り 組む。また、認め合えるよう に声をかける。	・クラス単位などで意見を 主張すること、ひくこと、中 間をとることなど、認め合い ながら決めていくことで、集 団の一員としての自覚を促 すことができた。
9	進路・実習に 向けて (自立活動)	・仕事をする うえで必要な コミュニケーション(報・連・ 相)の仕方を覚 える。	1・2・ 3・4・ 5・6・ 7・8・ 9-C 9-B	・現場実習に向けて本人への 仕事をする という動機付 けと報・連・相や言葉づかい、 面接時のマナーなどを指導 する。	・本人のモチベーションも 高く、言葉づかいに注意しな がら報・連・相をすることが できた。ただ、自ら判断し行 動するまでには至らなかった。
10	家庭	・相手の話に 対して反応を 示す。	3-A	・全員の生徒に対して質問を 毎時3～4提示する。口頭で 反応できる生徒、写真やサン プルで質問に答えられるよ うにするなど、生徒によって 個別対応をしている。	・画面や実物などを使うと より反応を示しやすくなった。 まだまだどのようにすれば 生徒に反応を示しやすくな るか模索中である。
11	統計 (数学)	・何のために 作業するか理 解する。 ・作業手順の 説明を聞き取 る。 ・理解した手 順に従い、繰 り返し正しく作 業をする。 ・不明な点は 確認する。 ・他の生徒と データを合わ せることで必 要なデータを得る。	7-C 8-C 9-C 4-C (11-C)	・コイントスの結果(表・裏) をくりかえし試行・記録す る。グループ全員のデータを 合わせることで1つの統計 資料を作成する。	・年間を通し、教材を変えて も取り組んでいるので、話を 聞く、実施する、報告する、 などはスムーズに行ってい る。(くり返すことで定着し てきている。)
12	作文メモを 作ろう (国語)	・事実とそれ に伴う自分の 思いを発信す る。	9-A	・作文用のメモを使い要点を まとめる。 ・メモの内容に自分の考えを 添える。	・メモに質問を設定してお くことで、簡潔にまとめるこ うができた。 ・自分の思いは、個人差はあ るがそれぞれ書けていた。
13	社会におけ るルールと マナー(C班) (理科)	名前を呼ばれ たら必ずすぐ に返事をする。	3-C	・出席確認時だけでなく、質 問に対する回答や意見を求 める際は、名前を呼んで生徒 を指名する。	・2割弱の生徒は、「返事！」 という言葉かけを必要とし たが、全体としては概ねすぐ に返事できた。
14	社会におけ るルールと マナー(D班) (理科)	名前を呼ばれ たら必ずすぐ に返事をする。	3-C	・出席確認時だけでなく、質 問に対する回答や意見を求 める際は、名前を呼んで生徒 を指名する。	・数名の生徒は、「返事！」と いう言葉かけを必要とした が、全体としては概ねすぐに 返事できた。
15	社会におけ るルールと マナー(C班) (理科)	挨拶する際、先 言後礼に従い、 礼の角度も意 識する。	1-B	・挨拶で使う言葉や、礼の角 度を図にしたものをプリン トにして配布した。 ・生徒同士で礼の角度をチェ ックしあうようにした。	・図と見比べながら、生徒同 士でチェックしあったこと により、礼の角度を意識する ようになった。 ・先言後礼は馴染みがなか ったようだが、7割程度の生 徒がすぐに実践できた。

1 6	社会におけるルールとマナー(D班)(理科)	挨拶する際、先言後礼に従い、礼の角度も意識する。	1-B	・挨拶で使う言葉や、礼の角度を図にしたものをプリントにして配布した。 ・生徒同士で礼の角度をチェックしあうようにした。	・図と見比べながら、生徒同士でチェックしあったことにより、礼の角度を意識するようになった。 ・先言後礼は馴染みがなかったようだが、8割程度の生徒がすぐに実践できた。
1 7	授業全般 (C班)	・休んだ時に配布されたプリントがないか自ら尋ねる。 ・足りないプリントが貰えないか依頼する。	4-A	(未記入)	・言葉かけを必要とするところもあるが、おおむね実践できた。
1 8	授業全般 (D班)	・休んだ時に配布されたプリントがないか自ら尋ねる。 ・足りないプリントが貰えないか依頼する。	4-A	(未記入)	・言葉かけを必要とするところもあるが、おおむね実践できた。
1 9	授業全般 (C班)	・ノート代わりに使用しているプリントがなくなりそうになったら自ら授業が始まるまでに申し出て、数枚貰って準備を整える。	4-A	(未記入)	・1、2名授業中に申し出ることがあるが、おおむね実践できている。
2 0	授業全般 (D班)	・ノート代わりに使用しているプリントがなくなりそうになったら自ら授業が始まるまでに申し出て、数枚貰って準備を整える。	4-A	(未記入)	・おおむね実践できている。
2 1	自立活動	・自分の思いや気持ちを自分なりの方法で伝える。 ・相手の意見を聞いて、全体の考えをまとめる。	9-A 6-B	・自分の考えをまとめ、他者に伝える。発言しやすい雰囲気を作り、言葉かけをする。 ・全体の考えをまとめる。簡単な台本を用意して、生徒の発言を引き出すように促す。	・自分の考えを出し合いスムーズに話し合いを進めることができた。 ・相手の意見を尊重して、全体の考えをまとめることができた。
2 2	手工芸(職業)	・姿勢を維持しながら作業を続ける。	1 4-C	・ビートルネックにラッチフックを使用して毛糸をつける。声かけをしたり、作業が継続しにくい生徒はタイマーで時間をくぎったりして作業できる時間を少しずつ増やしていく。	・当初は気が散ったり立ち歩いたりしたが、40分継続して作業ができるようになってきて、集中力や持続力が身についた。

2 3	サッカー (体育)	・サッカーの ドリブル(教員 の見本をしっ かり見る力、ま ねをしようと する力)	1 6 -C	・友だち同士で教え合う(仲 間づくり、協調性を養う)力 強く蹴りすぎたときに教員 がボールを取りにいたり、 別のボールで再開したりす る。	(未記入)
2 4	美術	・3 0 分×2 程度同じ姿勢 で一つの制作 を続ける。	1 4 -C	・試行錯誤しながら作品を完 成させようと取り組んでいる。	・身についている。集中して 制作に取り組んでいる。
2 5	手工芸 I (職業)	・ルールを守 る。 ・正確に作業 をする力を付 ける。	(未記 入)	・毎時間ルールを確認する。 ・「くり返し」を大切にする。	・少しずつ身についてきて いる。
2 6	行事の思い 出を振り返 ろう (国語)	・自分の思い や気持ちを伝 える。	9 -A	・思斉祭の練習や本番等の流 れの中で一番思い出に残っ ていることは何か。なぜその ことが思い出に残っている かを番号で選ぶという活動 です。支援方法としては、困 っている生徒に思斉祭まで お出来事を思い出せるよう 言葉がけをする等です。(こ の活動は次の作文を書く活 動につながっていきます。)	・自分の思いや気持ちをい くつかの選択肢から選び相 手に自分の思いや気持ちを 伝える。
2 7	職業 I	・課題対応能 力	1 0 -B	・机や椅子を移動させて清掃 をする。	・継続して取り組むことで 机や椅子を移動させる力が ついてきた。モップで廊下そ うじもできつつある。
2 8	箒を使った 掃除を体験 しよう (自立活動)	・箒を使って 床を掃く。	1 3 -A	・ごみに気がつきやすいよう に、細かくちぎった紙片を床 に撒く。床に貼ったテープに 沿ってごみを箒で集める。見 本を示す。	・繰り返し取り組むことで、 作業の流れが理解でき、自発 的な動きが増えた。
2 9	布の成り立 ちを知る (家庭)	・手順に沿っ て作業が進め られる。	7 -B	・手順を動画で示す。 ・授業プリントに沿って学習 を進めれば本時の目標が達 成できるようにしていた。	・こちらの指示通りに繊維 を取り出すことができてい た。手順に沿っていた。
3 0	生活	・落ち着いて 授業を受ける ことができる。	4 -B	・授業に集中できるように手 ぶり等大きくしてそれぞれの 授業の主担の目的とする ことを分かりやすく説明す る。	(未記入)
3 1	数学	・整理整頓が できる。(道具 の使い方の理 解、道具を使う 技能)	1 0 -A	・形のマッチングを行い、仲 間分けをする。	・マッチングができるよう になり、形別にものを分けら れるようになった。
3 2	清掃活動 (職業)	・コミュニケ ーション力。	9 -C 1 7 -A	・他コースの生徒と共同した 清掃活動。職業コースの生徒 がリーダーとして段取りの 検討、作業の方法を伝達する などして清掃に取り組む。	・どのように伝えればよい か、試行錯誤しながら取り組 む姿が見られた。コミュニケ ーション力の向上に向けた 経験となった。
3 3	それぞれの 楽器を担当 し、合奏を行 う (音楽)	・自分の意見 を伝える。	5 -B	・様々な楽器を体験させる。 ・音のシールを貼ったり、個 別に音の書いた楽譜を用意 したりして取り組みやすい ようにする。	・様々な楽器の演奏を体験 した中で、全員が自分の演奏 してみたい楽器を選ぶこと ができた。音のシールや個別 の楽譜から、根気よく練習す る姿もみられた。

3 4	音楽	・自分の良さや個性を理解する。 ・集団の中で他者と協調して行動できる。	9－C	・様々な演奏活動に取り組み自分の良さや個性を認識する。 ・合奏－自分の演奏、他者の演奏をよく聴き協調して合わせていく。	・自分の得意なこと、苦手なことを認識し、演奏パートを選択することができた。また、全体の調和を意識して楽器演奏に取り組めた。
3 5	大阪府の地理・歴史について (社会)	・話の内容を理解し、まとめることができる。 ・学習した内容(知識)を日常生活において活用する。	8－C	・ワークシートを活用し、学習内容のポイントとなる部分を自分で記入できるようにする。 ・学習した内容が日常生活のどのような場面で活かされるのか具体例を紹介する。	・ワークシートを使用することで、情報(内容)のまとめ方を学習することができ、学んだ内容が活かされる場面を教員の体験談として話すことで「自分もやってみよう」という意欲につながったと考えられる。
3 6	天気調べ (理科)	・必要な情報を聞き取ってメモを取り、その情報を比較する	8－B	・天気、気温、湿度、降水量の情報を聞き取ってメモを取り、最高気温・最低気温の数字を比較して印をつける。継続的に取り組みを続け、読み上げるスピードを上げる。	・継続して取り組むことで読み上げるスピードを上げてもらうようになってきている。万が一聞き逃したときもすぐに聞き返すことなく、続きを聞き取って書ける生徒が増えてきている。
3 7	衣服製作の基礎縫い練習とマスクケース製作 (家庭)	・困った時に他者に援助を求めたり、作業完了後「できました」と報告したりできる。	9－B	・基礎縫い練習では(本一縫うごとに「できました」と報告するように伝える。「○○かして下さい」「○○先生手伝って下さい」など状況に合わせてどのように伝えればいいのか作業前にプリントを配り確認する。	・自分から発言できず、失敗したまま作業を進めていた生徒もいたが、何度も伝えると自ら発言できる生徒が増えた。
3 8	校内実習 (特別活動)	・校外の人たちに、商品やサービスを提供し、評価される経験をする。	1 7－C	・職業の時間に作った製品を保護者や来校者に販売する。 ・接客、呼び込み、会計、梱包等、自分の役割に責任をもって行う。	・反省会の時間をもち、一人ずつ発表と評価の機会をつくる。 ・自己の目標が達成できたことにより、自己肯定感が増したのではないかな。
3 9	家庭	・指示に従い、手順通りに作業を行う。(様々な情報への関心) ・自分自身で作品を作り上げることで達成感を得る。(自己肯定感)	7－C 1 5－B	・被服実習において、自分の進捗を毎時確認しながら手順通りにバッグを製作する。 ・しるしつけ、アイロンがけ、ミシン縫いなど全ての工程をできるだけ自分で行うよう指導する。	・手順を確認しながら、失敗したところはもう一度やり直すようにし、最後まで仕上げる事ができた。 ・バッグを完成させた時に、「早く持って帰ってみんなに見せたい」と各々が喜んでいった。「一から作った作品」ということで達成感を味わうことができた。
4 0	喫茶実習 (職業)	・校外の人たちに商品やサービスを提供し、評価される経験をする。 →今年度はコロナ対策のため、校内のみで実施しています	1 7－C	・3つの役割に分かれて喫茶店を生徒で運営する。 ・流れや役割を紙にリストアップして、できる限り自分たちで運営できるように支援する。	・自分の役割を果たしながら、お客様に対応する力や、自身の技術を向上させようとする力が身につけてきている。回数を重ねながら、今後もさらに身につけられるようにしていきたい。
4 1	理科・社会	・ルール性、順序性を意識し、手順に沿って行動する力。	7－B	・○×レース(○は上、×は下を通して線を引くプリント学習)などを通じて、指示を待つ、正確に描く、完了を報告するなどに取り組む。	・スピードが格段に上がり、正確さも向上した。「できました」などの報告もしっかりできるようになった。

4 2	国語	・相手の話を理解しようとする態度を示す。	3－B	・発表学習をする時に「発表を聞く時のポイント」を示した。	・「発表を聞く時のポイント」を示したことで相手の話を理解しようとする態度を示せていた。
4 3	美術	友だちと協力して一つの作品を制作する	9－C	・制作手順を説明し、それぞれが担当する箇所の話し合いをして決める機会を設ける。 ・準備、片付けの役割分担を行う。	役割分担について自ら提案し、意欲的に進めることができた。 自分の政策箇所が終わると友だちの箇所を率先して手伝う姿がみられた。
4 5	理社	場面に応じてあいさつする力	1－C	最初の礼の時に身だしなみや姿勢を意識し良い挨拶ができた時はめる。	大きな声、良い姿勢であいさつできるようになった。
4 6	音楽	集団場面で自己表現を行うことによりはっきり言う力や、やり取りする力を伸ばす。	5－B	みんなの前で和太鼓を演奏する。 各自に合わせ曲の速さを工夫したり曲の中に自由に打てる場面を設定したりし、表現を促す。	みんなの前で一人一人が表現することができた。
4 7	国語	自分の思いを伝える。	5－B	行事の感想文を通して自分の思いを伝える。 ネガティブな表現も可とする。(但し理由はいる)それにより自分の思いを伝えられる。	ネガティブな表現も出たが、そのぶん自分の思いも伝えられ、気持ちの整理がつき、後半に前向きな表現が出るようになった。
4 8	職業	作業の継続	1 4－ABC	堆朱のはしを塗り重ねの順を確認しながら、耐水ペーパーで磨く。 耐水ペーパーで磨いた後は、コンパウンドでさらに磨く。	継続して作業に取り組み、耐水ペーパーで磨いていく過程で個人個人違う模様となり、自分が作ったという達成感が得られたと思われる。
4 9	職業	作業の継続	1 4－ABC	板状に粘土を伸ばす。 模様を粘土に押していく。	継続して作業に取り組み、各自押していく模様が違うため、完成した際に自分が作ったという達成感が得られたと思われる。
5 0	美術	自分のしたいことややりたいことを伝える。 自分の思いや気持ちを自分なりの方法で伝える。	5－A	制作時にどの色や素材で作りあげるかを一緒に考える。	ついた。
5 1	美術	自分の目標や依頼をよりよく達成する方法を考え実行する。	1 5－C	下描き用紙から本描きの過程まで順を追って取り組む。 (ムービー制作／グルーガン版画)	ついた。

【資料8】マトリクス運用シートの分析結果

思斉支援学校キャリアプランニングマトリクス									
学校教育目標		豊かなこころ ・ 楽しむ力 ・ 体力 ・ コミュニケーション							
基礎的 汎用的能力		A段階【44%】			B段階【27%】			C段階【29%】	
人間関係形成 社会形成能力【36%】	あいさつ【4.8%】								
	(1)	3.9 1.7 1.9	朝や帰り、始まりや終わりのあいさつをする。	(1)	0.7 3.4 1.9	学校生活において、人や場面にに応じたあいさつを知り、実践する。	(1)	0.0 0.0 1.0	学校生活や社会生活において、人や場面にに応じたあいさつをする。
	身だしなみ【2.2%】								
	(2)	3.3 0.0 0.0	校内服や給食着等を、学校場面に応じて身なりを整える。	(2)	0.0 1.7 0.0	場や状況に応じて身なりを整える。	(2)	0.0 0.0 1.0	社会生活場面に応じた身なりを整える。
	人とのかかわり【15.0%】								
	(3)	5.9 0.0 1.9	相手の話に対して反応を示す。	(3)	2.0 0.0 2.8	相手の話を理解しようとする態度を示す。	(3)	2.0 0.0 4.7	返事の仕方や言葉遣いに気を付ける。
	(4)	2.6 1.7 1.7	相手に対して簡単な報告や要求を伝える。	(4)	1.3 0.9 1.9	話の内容に応じた行動をしたり、返答したりする。	(4)	0.7 0.0 2.9	報告・連絡・相談をする。
	意思表示【14.0%】								
	(5)	6.6 1.7 1.9	自分の好きなことやしたいことを伝える。	(5)	3.3 3.4 4.8	自分の意見を伝える。	(5)	1.3 3.4 2.9	見聞きしたことを相手に分かるように話す。
	(6)	2.0 0.0 1.0	相手のしたいことを知る。	(6)	0.0 0.0 1.9	相手の意見を聞いて、全体の考えをまとめる。	(6)	2.0 0.0 1.9	他者に配慮しながら、人間関係を築こうとする。
自己管理能力【自己理解 32%】	様々な情報への関心【32.0%】								
	(7)	1.3 1.7 1.0	流れに沿ってスケジュールに従える。	(7)	3.9 8.6 3.8	手順（表）に沿うことができる。	(7)	2.6 8.6 4.8	手順（表）の通りに行うことができる。
	(8)	7.2 3.4 2.9	大人の話を聞いたり、写真などを手がかりにしたりして、見通しをもって行動する。	(8)	2.0 5.2 2.9	指示を受ける相手がわかり、指示にしたがって行動できる。	(8)	1.3 1.7 5.7	話の内容を聞き取ることができる。
	(9)	5.2 1.7 3.8	自分の思いや気持ちを自分なりの方法で伝える。	(9)	0.0 1.7 2.9	困ったときに、他者に援助を求めたり、作業の進捗状況を教員に報告したりすることができる。	(9)	3.2 6.9 6.7	他の生徒と連携、協力しながら作業する。
	課題対応能力【23%】								
課題対応能力【23%】	道具の使い方の理解 道具を使う技能【3.2%】								
	(10)	2.0 0.0 1.0	清掃に必要な道具の名前と物が一致している。	(10)	0.0 0.0 1.0	整理整頓の正しい仕方を理解する。	(10)	2.6 1.7 0.0	よく使う道具の正しい使い方や清掃の手順を理解する。
	清掃の意味や必要性の理解【3.2%】								
	(11)	2.0 1.7 0.0	「汚い」「きれい」「気持ち悪い」「気持ち良い」の違いがわかる。	(11)	0.0 1.7 0.0	「どこを」「どのように」清掃すれば良いのが分かる。	(11)	1.3 3.4 1.0	「なぜ」「何のために」という行動の意味を考え、理解する。
	身に付けた知識・技能の活用【2.5%】								
	(12)	4.6 1.7 0.0	指示にしたがって、準備や片付け、簡単な清掃をすることができる。	(12)	0.0 0.0 0.0	場所が変わっても、基本的な手順に沿って清掃できる。	(12)	0.0 0.0 0.0	限られた時間で、場所や状況に応じて、効率よく清掃をする。
	ゴミや汚れを見つける、やりきる力【1.9%】								
	(13)	2.6 1.7 1.0	ゴミや汚れを見つけた、気づいたりできる。	(13)	0.0 0.0 0.0	きれいになることに気持ち良いと感じ、進んで清掃を行う。	(13)	0.0 0.0 0.0	きれいになるまで、任された場所の清掃をやりきる。
	作業の継続【3.8%】								
	(14)	0.0 0.0 1.9	姿勢を維持しながら10分程度活動を継続する。	(14)	0.7 3.4 1.9	20分程度、同じ姿勢で作業を続ける。	(14)	0.0 0.0 4.8	40分程度、同じ姿勢で作業を続ける。
	課題解決力【8.6%】								
	(15)	3.9 3.4 1.0	集団の中で、自分たちがしたいことやみんなと一緒にしたいことを決める。	(15)	3.3 8.6 1.9	相手に喜ばれることを実践する。	(15)	1.3 3.4 1.9	自分の目標や依頼をよりよく達成する方法を考え、実行する。
プランニング能力【9%】	相手の気持ちを知る【2.9%】								
	(16)	1.3 0.0 1.9	相手が好きなものやしたいことを知ろうとする。	(16)	1.3 0.0 1.0	活動の内容や方法を決めるために、相手が喜ぶことを聞いたり、考えたりする。	(16)	0.0 0.0 1.9	相手の立場になる経験を基に活動をよりよくしようとする。
	自己肯定感【6.3%】								
	(17)	7.9 3.4 1.9	自分の役割を果たしながら、他の児童生徒と一緒に楽しい経験や嬉しい経験をする。	(17)	0.0 0.0 1.0	校内の相手に対して、楽しいことや喜ぶことを実践し、評価される経験をする。	(17)	0.0 1.7 1.9	校外の人たちに、商品やサービスを提供し、評価される経験をする。

【資料9】

「図工・美術」（交流学习）学習指導案

大阪府立思斉支援学校

T1 長谷川 綾（小学部）・飯田 絵美（高等部）

T2 大田 光・渡辺 大介・伊藤 祥子・山田 拓（小学部）

T2 石田 真子・酒井 康次（高等部）

1. 日時 令和4年11月4日（金） 第5・6時限（13：15～14：30）
2. 場所 第1学年1組教室 ・ 美術室
3. 学部・学年・組 小学部第1学年16名 ・ 高等部第3学年Cグループ12名
4. 単元（題材）名 「リースをつくろう」
6. 学習グループの実態

【小学部】

本学年は、男子児童13名、女子児童3名の計16名で構成されている。

図工は、絵の具やクレパス、小麦粉粘土などを使ってさまざまな道具や素材を扱った学習活動に取り組んできたが、教員と一緒に、もしくは個別に取り組むことが多く、友だちに道具の使い方や作り方を教えたり、教えてもらったりという経験はない。また、新型コロナウイルス感染症予防のため、小学部内でもグループ別学習など学年を横断した学習活動に取り組んだことがなく、校外学習などの行事において一緒に活動をした程度である。他学部においても、生活学習で校内探検に取り組んだが、散策のみで交流は行っていない。児童によって、他学部の生徒への関心はさまざまで、通学バスや学園生同士で顔を知っていて自ら声をかける児童もいれば、意識を向けることが難しい児童もいる。

本時では、紙粘土を使ってリースの装飾作りに取り組む。今まで小麦粉粘土は扱った経験があり、素材に対する興味関心が強く、自ら触ったり、形を作ったりしている姿があったため、紙粘土においても主体的に取り組めるのではないかと考える。また、それぞれで作った装飾をリースとして1つの作品にすることで、ともに作り上げていくという意識が芽生え、協力する姿勢や達成感を持ちやすくする題材であると考え。

本時では、高等部の生徒が小学部の児童に教えたり、促したりすることをねらいとしているため、教員は児童と生徒の関わりを仲介しながら授業を展開していくことに重きを置きたい。本単元の交流を通して、同じ学校に通っている他学部の生徒の存在を知り、「教えて

もらう」という経験から年上のお兄さんお姉さんの優しさに触れ、学校生活への期待感や安心感が高まってほしい。

【高等部】

高等部C班は男子生徒8名、女子生徒5名から構成されている。高等部入学時より新型コロナウイルス感染症の流行より、他者との距離感に気を配り、共同制作の実施などに制限がかかっていたため、1年次は色鉛筆や水彩絵の具を使用した平面作品、2年次はアクリル絵の具やマジックを使用してのデザイン作品と、個人制作を中心に造形活動に取り組んできた。例年1年次に大阪府立淀川清流高校との交流はあるが、感染症予防のため、直接会っての交流ではなく、作品交流のみとなった。直接会って、話して、協力してという流れがなかったため、生徒たちに「交流」という意識が芽生えにくい状態であり、3年生になり1年次の交流を振り返っても、すぐに思い出すことができなかった。

本校は小学部、中学部、高等部が同じ学校の中にあるが、今まで学部を超えて交流する機会がなかった。本単元では直接会って、話して、協力してという流れで「交流」の意識を持たせること、自分よりも年下の児童に分かりやすく教えるという経験を積ませたい。

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

【小学部】・高等部の生徒と一緒にリースの装飾を作ることができる。

・高等部の生徒の話や関わりに対して反応を示す。

【高等部】・小学部児童と協力してリースづくりをする。

・小学部児童に分かりやすく手順を教える。

(2) 本時の評価規準

【小学部】

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 手指を使って、紙粘土をこねることができる。	① 高等部の生徒に自分の名前や選んだ色を伝えることができる。	① 高等部の生徒を見たり、名前を読んだりするなど相手への関心を持つ。
② 道具を使って型抜きすることができる。	② 高等部の生徒の話や関わりに対して、うなずいたりハイタッチをしたりなど反応を返すことができるか。	② 自ら素材に触れ、粘土を持ったりこねたりすることができる。

【高等部】

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① リースづくりの制作手順を理解している。 ② 児童が選択した色の紙粘土をつくる。	① 小学部の児童に合わせて分かりやすく教えることができる。 ② 交流の感想を発表することができる。	① 小学部の児童と積極的に関わりを持ちながら、造形活動に取り組もうとしている。

(3) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価基準	付けたい力
25分 導 入	1 今日の授業の場所と流れ、めあてを知る 2 教室に移動し、グループに分かれて座る 3 学習活動の流れを確認する	・見通しを持ちやすいよう、タブレット端末を使って提示する。 ・座席の位置が分かりやすいよう小学部は顔写真、高等部は名前を書いた表をホワイトボードに提示する。 ・密にならないよう教員が間に入ったり、席の間隔を取ったりするよう言葉かけする。 ・具体的に分かりやすいよう、タブレット端末を使って写真やイラストで提示する。 1. 自己紹介 2. 粘土をこねる 3. 型を取る 4. ふりかえり		

ま と め	今日の授業の感想を言葉で伝える。 【小学部】 1段階・・・感想や感謝の気持ちを言葉で伝える。 2段階・・・「ありがとう」や「ハイタッチ」をして伝える。 8 次時の学習活動を知る	できるようにする。 ・教員から高等部の生徒へ向けて、本時の活動の良かったところを具体的に伝え、達成感や充実感を持てるようにする。 ・次時の学習活動の日時と内容を伝え、見通しを持てるようにする。		B-4
-------------	--	--	--	-----

7. 教室配置等 省略

大阪府立交野支援学校四條畷校

I 研究開始にあたって

1 経緯

(1) 学校の概要

交野支援学校四條畷校は、平成 22 年につくられた 4 分校のうちのひとつで、大阪府立の支援学校で唯一の中学部・高等部 6 年間の知的支援学校である。中学部の通学区域は、四條畷市及び大東市、高等部の通学区域は、四條畷市・大東市に加え、東大阪市の 4 中学校区、交野市及び枚方市の 4 中学校区に広がるため、5 市にまたがる。令和 4 年度の在籍者数は、中学部 50 人、高等部 147 人の計 197 人である。

学校は、国道 170 号線を挟んで巨大ショッピングモールに隣接している。近しい距離には、四條畷市立岡部小学校や四條畷市立西中学校がある。また、光円寺や忍陵神社など神社仏閣も近くにあり、学校周辺には、比較的田畑が残っている。最寄駅・忍ヶ丘駅までは少し距離があるが、高速道路・第二京阪道路は近い。

地域と学校との関係性はよく、学校のある砂地区の自治会長が学校運営協議会委員であったり、地域住民の方を社会人等指導者活用事業を利用して剪定の外部指導者として招聘したりするなどの協力関係がある。

(2) 課題分析

令和 2 年度に『キャリア教育支援体制強化事業』を受け、まず、校内でプロジェクトチーム（准校長、教頭、首席 2 人、進路部 2 人、支援・研究部 3 人、教務部 2 人）を立ち上げた。プロジェクトチームは、半数以上が、本校が初任校で教諭経験年数が 3～5 年のメンバーで構成されていた。メンバーそれぞれは、各学部・学年でそれぞれの教科や職業科目等を担当する中で、試行錯誤のうえキャリア教育の観点を位置づけ授業を展開していたが、学校全体としての系統立てられたキャリア教育の方向性を意識する機会は乏しいという現状であった。

そこで、まず本校の特色・特徴について、プロジェクトチームメンバーがどのように捉えているのかについて、SWOT（スウォット）分析にて現状を分析することとした。

SWOT 分析とは、現状分析のために使われるフレームワークで、外部環境や内部環境を強み（Strengths）、弱み（Weaknesses）、機会（Opportunities）、脅威（Threats）の 4 つのカテゴリーで要因分析し、方向性や改善策を洗い出すことで、目標を達成するための方策を導きだしていく方法の一つである。

内部環境の強み（S）	内部環境の弱み（W）
①中高のみ。情報共有・連携がしやすい。 ②一学年の生徒数が比較的少なく、動きがとりやすい。 ③自立活動の時間が確保されている。 ④評価が前・後期制 ⑤保護者の理解が得やすい。保護者と情報共有ができて（R2 年度学校教育自己診断アンケートにおける「日頃の子どもの情報共有」に係る保護者の肯定的評価：93.8%） ⑥比較的ベテラン教員が多い。 ⑦管理職と教員が近い。 ⑧高校の跡地を活用した施設であるため、校地、体育館、グラウンドが広い。 ⑨廊下や階段など生徒が清掃する場所が多い。	①中高のつながりが少ない。中高合同の授業がほとんどない。学習の系統性が明確でない。 ②キャリア教育で育てたい力(めざす人間像)についてのイメージが不統一。キャリア教育としての中高のつながり、職業科授業の統一性がない。(見通しが持ちにくい) ③軽度の知的障がいの子供に対する進路指導が十分ではない。 ④通学区域が学部で変わるため、一貫した指導、学習が難しい。 ⑤教員の世代交代が進んでいない。 ⑥新たな実践を一から始める時間的余裕がない。(何か他校の実践を取り入れたいと思っても動きにくい。) ⑦教室に手洗い場がないなど、支援学校仕様に整備された施設が少ない。 ⑧清掃の時の取組み内容が不明確。
外部環境の支援的要因（O）	外部環境の阻害的要因（T）
①大型商業施設(AEON)、会社、物流倉庫、福祉作業所が近くにあり、見学、体験がしやすい。 ②砂地区、各市関係機関との連携がある。地域人材の活用あり。(少しずつ地域との連携ができてきている。) ③北河内支援学校間の情報交換ができる。 ④自然が比較的豊か。	①現場実習の機会が少ない。 ②最寄駅が遠く、公共交通機関を利用した移動がしにくい。：学習活動に取り入れにくい。 ③地域とのつながり、交流が少なく、地域の理解が得にくい。 ④通学区域が広域で、居住地域との連携が密にとりにくい。新通学区域の枚方市・交野市とのつながりが薄い。 ⑤外部人材、ボランティア、外部講師の活用が少ない。 ⑥交流相手校との交流が形式的な交流のみになっている。

SWOT分析から見えていたことは以下のような内容であった。

- ・ 中学部・高等部のみなので、何か新たなことを始めるような場合には、比較的、中学部と高等部が連携をして始動しやすい規模であるが、実際には、学習の系統性が図られていなかったり、合同学習などの機会がなかったりするなど中学部と高等部による連携が十分でない。
- ・ 一学年の在籍者数は多くないので、学年団教員の意思統一を図りやすいはずであるが、キャリア教育で生徒に育てたい力のイメージが不統一である。また、一般就労をめざせる生徒への指導に注力できていないところもある。
- ・ 本校が1校め勤務校である教員が全教員の半数をしめており、円滑な世代交代に課題がある。新たなことを一から始める雰囲気醸成が必要である。
- ・ 学校の敷地面積は広く、校内で職業教科的な実習(清掃・剪定・植栽など)ができる箇所は多いが有効活用できていない。また、清掃活動などは、学部・学年で活動目的や指導

方法は不統一である。

- ・学校や公共施設、神社仏閣、商業施設等が比較的多いが、近隣での職業に係る校外活動や実習の機会が十分ではない。
- ・通学区域が広域で、令和2年度から新たに通学区域となった枚方市・交野市とのつながりが弱い。学校創立10年あまりであり、地域・砂自治区とのつながりもそれほど強くない。

(3) 事業の方向性

SWOT分析から見てきたことを受けて、プロジェクトチームメンバーでキャリア教育強化の観点から是非取り組んでいきたいことについて意見交換を行い、本事業にて、本校として取り組むべき3つの柱を設定した。

① 教員研修

現状分析の中で、キャリア教育で生徒に育てたい力のイメージが学校全体で統一されていないことがあがり、本校で「育てたい生徒像」を考えていくうえでも、生徒の卒業後の生活がイメージできている必要があるということになった。

高等部卒業後といっても幅が広く、また教員それぞれのこれまでの経験の違いでもイメージのしやすさに差が生まれることから、高等部卒業後数年ではなく、10年後、20年後の生活を知る機会を設定することとした。

② 清掃活動

各教科、科目の系統性、中学部・高等部6年間の一貫性を意識した取り組みや、異年齢学年同士の合同学習が十分なされているとは言えない現状であることから、学校での学習の積み上げが、確実に力になっていることを生徒自身が実感できる活動をどうしたら提供できるかを考えた。

その柱としたのが、清掃活動である。掃除は、どの学部・学年でも取り組んでいることである。学校全体で清掃方法を統一することにより、生徒は日々の取り組みの中で技術を高めていくことができ、学校での係活動・当番活動や家庭の手伝い等で任された仕事に責任をもって行うことができるようになる。(資料集2『キャリアプランニングマトリクス』における「キャリアプランニング能力」のJ-II(2)) また、より高い技術のある上級生が下級生に清掃の仕方を教えるという学年・学部を超えた指導交流も可能になる。清掃方法の統一に関して言うと、他の府立支援学校で、数年前からすでに校内清掃検定に取り組んでいる学校があり、そのノウハウを本校で生かすことを考えた。また、府の公民連携の取り組みの中、株式会社ダスキンから教員研修などの協力が得られるとの情報があった。ある一定の清掃技術が身についた生徒は、地域での清掃へと活躍の場を広げていくという展開も期待できると考えた。

そこで、『四條畷校版・清掃検定』の試行実施をめざすこととした。

③ 地域連携

地域を活用した学習活動が活発でないことから、生徒が地域で活動する機会を設けたり、地域の方を外部講師として招くなど、更に、地域と連携を進めていくことができないかを考えた。

地域に生徒の学習活動の場を広げる、また地域の方が指導者として学校と関りができることで、地域の方にもっと支援学校で学ぶ生徒について知ってもらえることができる。また、生徒にとっては、学校以外の場所での活動や、教員以外の方から指導を受けることにより、地域との結びつきを感じることができ、地域の方から「助かった」「ありがとう」と声をかけられることが、自己有用感にもつながると考えた。

地域への広がりの方針であるが、ふたつめの柱である「清掃活動」は、取り組みが進んでいくことにより、地域へ活動の場を広げていくことができる。本校の徒歩圏内には、学校や公共施設、神社仏閣、商業施設等があることから、協力いただける施設も一定確保ができると考えた。

また、社会人等指導者活用事業により、令和元年度から地域の方を剪定の指導者として来ていただく取り組みも始めていたことから、他の教科科目で地域の方を外部講師として招へいできないかを話し合った。そこで、本校の周辺はまだ比較的田畑が残る地域であることから、本校の職業科目・農園芸の指導者として地域で農業に携わる方との連携が可能ではないかと考えた。

Ⅱ 令和２年度の取組み

1 教員研修

(1) 教員研修に至るまで

テーマは、「支援学校卒業後の生徒の生活を知る」とした。支援学校高等部を卒業して10年後、20年後の生活を知ることがを主題にするため、まず、誰に講師として来てもらうのかを議論した。支援学校におけるキャリア教育を考えていくうえで、一般就労した方だけに焦点を当てて取り組むわけではなく、福祉就労についても、支援学校卒業後の進路として教員が知っておくべきことと考え、お一人は、本校の卒業生であり、現在生活介護事業所で働かれているAさんに講師をお願いすることとした。もうお一人は、一般就労されている方で、かつ、支援学校卒業後10年以上（できれば20年後）という方をお願いしたかったが、本校及び他校で講師を探したがみつからず、北河内東障害者就業・生活支援センターから紹介いただき、支援学校卒業生ではないものの療育手帳B2所持の46歳、講師Bさんに来ていただくことにした。

(2) 教員研修（令和2年12月14日実施）の概要

研修では、まず講師Aさんの保護者の方から、学校生活を送る中で、保護者の方が大事にしていた、①生活リズムを崩さないこと、②学校生活でできたことをほめること、③長く楽しめる好きなことをつくることが、本校を卒業して社会に出てからの成長にもつながっているという内容のお話をいただいた。

講師Bさんからは、学校を卒業してから今に至る話をしていただいた。講師Bさんは、高等学校卒業後、職業訓練校を経て製造会社や植栽管理会社に就職されたが、いずれも退職となった。その後は、北河内東障害者就業・生活支援センターからの支援を受けながら就職活動を行い、現在はスーパーで正社員として働いておられた。結婚やマイカー購入、マイホーム購入などの話、また、詐欺にあった実体験などを交えながらご講演いただいた。北河内東障害者就業・生活支援センターで、講師Bさんの支援に携わっている就労支援ワーカーの方にも来ていただき、障害者就業・生活支援センターの役割や支援内容等についても詳しく教えていただいた。



(3) 令和2年度の教員研修をうけて

教員研修にて、講師Aさん、講師Bさんの講演を聞くことで、改めて、学校において、生活リズムを確立しておくことや、一定時間の作業を継続できる集中力や体力をつけておくことが大事であることが確認できた。それと同時に、支援学校教員として、支援学校卒業生の生活についてもっと知るべきであること、卒業後の生活に欠かせない制度や利用できる施設について、卒業生が陥りやすいトラブルについてももっと知る必要があること、そして、それらを踏まえたうえで生徒に育てたい力、学校で取り組むべきことについての議論を継続して重ねていく必要があることに気付いた。

そこで、次年度以降の教員研修として、グループワークで、生徒の将来をイメージして、育てたい生徒像の議論を進めていくこととした。

2 清掃活動

(1) 他校への視察

清掃活動を本校におけるキャリア教育のひとつの柱にするにあたり、令和2年度はまず、教員が清掃に関する基礎的な知識や技能を身につける必要があった。そこで、すでに平成26～28年度に「就労支援・キャリア強化事業」を受け、校内での清掃検定を実施している府立高槻支援学校での取組みを視察した。

視察当日（11月19日）は、廊下でのモップ検定とスクイージー検定（窓清掃）が行われ、指導担当教員や検査官（部主事等が担当）が見守る中、生徒が緊張感を持って清掃作業に取り組んでいた。作業の開始報告 → 準備 → 清掃 → 片付け → 終了報告という流れで作業が進んでいき、終了するとすぐに検定結果が伝えられた。最上級の評価である「1級」と告げられた際の生徒と担当教員の嬉しそうな表情が印象的であった。また、検定場所で待機していた別の生徒は、緊張から口数が多く、落ち着かない様子で周囲に話しかける場面が見られたが、いざ検定が始まると、真剣な表情になり、作業を丁寧かつ迅速

に行い、見事1級を取得した。日々の授業では見ることのできない、「検定」という目標や緊張感があるからこそ見られる表情と、取り組む姿勢であるとのことであった。

本校でも清掃検定を実施することにより、十分な教育的効果が期待できると感じることでできた視察となった。

(2) ダスキンでの教員研修

3月26日に、府と公民連携されている株式会社ダスキンで、教員6人が研修を受けた。「子どもたちの力を伸ばす学校掃除」をテーマに、学校掃除の特徴について、掃除時間で育むことができる力とは何なのか、清掃技術をどのように子どもたちに教えるのかについてロールプレイで取り組むなど、教員間で意見交流をするかたちで研修は進められた。以下、研修で出た意見の一例である。

学校掃除の特徴	掃除時間に伸ばすことができる力
・みんなで取り組む ・役割を分けて取り組む ・掃除をする時間が決まっている ・自分に関係する場所を清掃する ・手順を考えて取り組む ・決められた道具を使う ・様々な担当区域がある など	・清掃技術 ・継続力 ・協調性 ・責任感 ・タイムマネジメント能力 ・コミュニケーション力 など

伸ばすことができる力の一つとして、清掃技術が挙げられる。ただ単に掃除をするだけでなく、正しい道具の使い方や手順を守って取り組むことで、清掃した場所はよりキレイになり、より達成感や清潔感などを味わうことができる。また、どの職業でも仕事の順序などが定められていることがほとんどである。所定の方法で仕事に取り組む力を養うためにも、清掃技術に関する指導は重要だと思われる。

また技術面だけでなく、日常生活に大きくかかわる能力の育成にも寄与するものと教員が理解することで、あいさつや報告・連絡・相談、コミュニケーション力など、生徒それぞれの特性などを意識した自立活動の位置づけとしての指導も可能になる。

清掃検定をするうえで、上記の内容を参考にしながら次年度からの試行実施に向けた準備を進めていった。

Ⅲ 令和3年度の取組み

1 教員研修

(1) 卒業後に向けて学校でできること、教員が知っておくべきことを考える

令和2年度の教員研修を受けて、支援学校卒業後の生徒の生活を見据えて、「学校でできること、教員が知っておくべきこと」をテーマに、グループワーク形式の研修を実施することとした。グループワーク形式の研修は2回に分けて行った。

まず、グループワークに参加する教員が共通したイメージがもてるようにプロジェクトチームメンバーにて、知的障がい支援学校に通う中学部1年、高等部1年の生徒を想定した架空のプロフィールを作成(資料3)した。具体的には、個別の教育支援計画の実態把握の部分を活用し、療育手帳A所持、ダウン症の生徒C(中1)と、療育手帳B2所持、自閉症の生徒D(高1)の生徒像とした。グループの編成は、各グループに中学部・高等部の教員がどちらも入るようにし、プロジェクトチームメンバーがファシリテーターとして入って、話し合いを進めるようにした。



1回めは、架空の生徒Cと生徒Dの現状、実態把握の記述内容から支援学校卒業時の進路や、想定される課題等を挙げていった。そして、そこから卒業後の生活で困らないようにするために、いま、学校でできることを話し合った。

2回めは、1回めのグループワークでの話し合いを受けて、生徒C、生徒Dが学校を卒業して、30歳のCさん、Dさんとなっている想定のプロフィールを作成した。進路先や家庭生活において現時点で苦勞していること、困っていることなどを設定し、そこから、学校で取り組んでおく必要があったことや、教員が知っておく必要があったことなどを話し合った。

グループワークを進めていく中で、学校教育の段階でつけておきたい力や、それに向けて学校で取り組めることなどがいろいろとあがった。生徒C、生徒Dに対して、「身につけたい力」「学校でできること」として共通してあがってきた項目の一例を示す。

身につけたい力	学校でできること
・体力、健康管理（服薬管理） ・気持ちのコントロール ・公共交通機関の利用 ・余暇の充実 ・お金の管理 ・自己肯定感 ・困ったときに相談できる力 など	・体力づくり、体調管理 ・気持ちを伝える練習 ・自主通学の練習 ・好きなものの幅を広げる ・買い物学習 ・成功体験を積み重ねる ・失敗を含めて体験させる など

また、SNSトラブルなどといった今の生徒を取り巻く課題についても把握し、支援・指導できる必要があるという意見や、グループホームについての知識はあいまいであるなどの意見があがったグループもあった。そこで、それらの内容を取りあげた研修を実施することになった。

（２）SNSトラブルについて

11月4日に、「SNSトラブルについて」の教員研修を実施した。

本教員研修に先んじて、保護者と教職員に対してアンケートを実施した。保護者アンケートでは、スマホやタブレットの長時間使用による生活・睡眠時間の乱れ、課金トラブルなどの問題があげられた。これらをふまえて、①【スマホの基本的な機能について】②【SNSトラブルの事例紹介】③【ディスカッション】の3本柱で研修を進めた。ディスカッションでは、「保護者と生徒と一緒に学ぶ機会をつくる」、「スクリーンタイム等、スマホの機能やアプリをまず教員が知っておくべき」、「新入生の保護者を対象として、スマホの扱い方をレクチャーする機会をもつ」など、具体的なアイディアがたくさん出た。

また、研修後には各学年でLINEの使い方に関する授業を実施するなど、教員間でSNSトラブルに対しての意識が高まったように感じた。同時に、今後も増えていくであろうSNSに関するトラブルをクリアしていくためには、学校としてもカリキュラムを更に整えていく必要がある。



(3) グループホームのシステムと実際の生活について

12月23日に、「グループホームのシステムと実際の生活について」という内容で、障害福祉サービス事業所「徳風会」の代表の方を講師に招いて教員研修を実施した。講師は、教員経験があり、学校との違いをわかりやすく説明いただいた。また、本校の通学区域にある事業所であることから将来的に本校の卒業生が利用する可能性もあるという観点からも参考になった。

グループホームにかかる費用やどういう方が利用できるのか、部屋は何人部屋か等グループホーム事業の成り立ちから、利用についての基本的事項、グループホームでの実際の日や、グループホームで起こるトラブルなどについてお聞きすることができた。グループホームによって支援員の関わりや、利用者に求められる身辺自立の程度等に違いがあるが、グループホームを利用している方は大前提として、朝は時間通り仕事場に出勤し、夜は就寝時刻があまり遅くならないなど、一日の生活リズムが確立しており、洗濯・掃除など身の回りのことは基本的には自分でできる方であった。共同生活であり、対人トラブルが理由で退所する方もおられるということから、コミュニケーションがうまくとれることも大切ということだった。居室は個室でプライベート空間は確保されているため、余暇の時間の過ごし方をもっていることは大事だということを感じた。グループホームは、家庭生活と同じようにルールがほとんどなく自分で時間の使い方を考えるということも学校との大きな違いだとお聞きした。

この研修を終えて、「グループホームについて初めて知ったことも多かった。」「写真や利用者さんのエピソードを聞くことができ、実態についてよくわかった。」「生徒が学校を卒業した後の20年後30年後がイメージできた。」などの感想が多くあった。

(4) 令和3年度の教員研修をうけて

ここまで、学校で生徒につけたい力について共通認識をもつことをねらいに教職員研修を進めてきたが、支援学校卒業後の生活は、生徒の障がいの状況によっても大きく違い、研修で取りあげた2人の事例は、そのひとつにすぎない。障がいのある方が利用できる施設や制度等、知っているようで詳しく知らないことはまだまだ多く、法律や制度は、時代によって常に変化していく。キャッシュレス化や通信機器の発達など、日常生活様式の変化にも対応が必要である。

つまり、学校で育てたい生徒像、身につけたい力、教員が知っておくべきことは、数回の教員研修で完結できるものではない。大事なことは、生徒を指導・支援するにあたって大事にしたいことを学部・学年を越えて議論する場をもち続けることであり、教員が知っておくべきことを常にアップデートしていける機会をもつことである。今後もプロジェクトチームを中心とした持続可能な教員研修システムの構築をめざす。

2 清掃活動

(1) 四條畷校版・清掃検定の取組み

令和2年度の府立高槻支援学校への視察及び株式会社ダスキンでの教員研修を経て、令和3年度は、四條畷校版・清掃検定を試行実施することを目標とし、その始期を10月（二期制の後期開始時期）からスタートさせることとした。

① 清掃検定の評価項目の作成

清掃検定の評価項目を作成するにあたり、本校における前例やノウハウが蓄積されていなかったため、ゼロからのスタートになった。したがって、清掃検定の形式に対する1つの着地点が不明瞭なまま作り出すことになった。そこで、令和2年度、すでに清掃検定を実施している高槻支援への学校視察で得た情報や成果をもとに交野支援学校四條畷校版の作成を進めることにした。

評価項目は、高槻支援学校のものと同様に清掃技術だけでなく、仕事に向かう姿勢やあいさつなども盛り込んだ。点数の計算方法と評価項目の分け方については、本校独自で作成した。

台拭き検定：テーブルを拭く、という動作に対する評価項目	
項目	評価規準
タオル（布巾）を持つ	・手の大きさに合わせて布巾をたたんでいる
ふちを拭く	・机の外周から拭き始めている
中央を拭く	・外周を拭いた後、机の内側をジグザグ拭きしている
確認・その他	・内側を拭いた後、机の縁を拭いている ・（作業中誰かが通るとき）作業を止め、相手の方を向いてあいさつしている

点数の計算方法に関して、例えば「確認・その他」でいうと、1項目ごとに加算する形式をとっており、全て達成されると2点という数え方をしている。できた項目に応じて点数が増えるので、生徒が達成感を感じやすいと思われる。同時に小項目ごとに点数をつけるため、より具体的に自分ができていなかった項目にフォーカスしやすくなるのではと考えた。

評価項目について、本校のものは、職業コース履修者や清掃に関する授業を受けている生徒だけでなく、今後、中学部・高等部の生徒誰もが受けられるように設定した。必要な清掃技術はそのままに、より平易な内容になるように調整をかけた。平易な内容にする際に、ダスキンでの教員研修でロールプレイしたときの内容やそのときの研修資料を参考にした。

四條畷校版・清掃検定は、自在箒を用いた廊下の清掃、自在箒を用いた階段の清掃、台ふきの3つからなり、例えば、自在箒を用いた廊下の清掃検定では、身だしなみ・態

度・あいさつから、道具の準備、清掃中の姿勢、箒の掃き方、清掃の手順、最終確認から片付け・報告に至るまで評価内容 28 項目からなり、検定中評価内容がクリアしていればチェックをいれていく。チェックがついた項目の合計により、5 級から 1 級までの級位を判定する。(チェック数が少なくても、5 級の判定はつく。)(資料 4 参照)

② 清掃検定のねらい

プロジェクトチームで、清掃検定を実施するうえで、検定を行うことのメリットや生徒にとっての効果、検定結果をどのようにキャリア発達に繋げていくかについて話し合った。以下がその内容である。

- ・ 明確な目標が設けられているため、生徒にとってめざすべき技能が明確である
- ・ 級を獲得することによって、生徒は達成感が得られる
- ・ 級を獲得した生徒は、学校外での清掃活動に参加できるという新たな目標を設定することができる
- ・ 学校外での活動に参加することで、教員以外から肯定的な評価を得ることができ、「役割の意識」、「役に立っている実感」、「働くよろこび」を感じる経験が自己有用感や前向きに仕事に臨む姿勢につながる。

③ 清掃検定の試行実施

本校の職業コース「クリーンコース」を設定した当初は、職業コースの生徒の学習活動の一つとして校内清掃にも力を入れていた。しかしながら、その後、開校当時の高等部教員は全員異動や退職により入れ替わり、クリーンコースの取組み内容はその年度の担当者任せになっていく中で、取組みはうまく引き継がれず、現状の職業コースの授業では、清掃活動をメインにした取組みが行われていなかった。

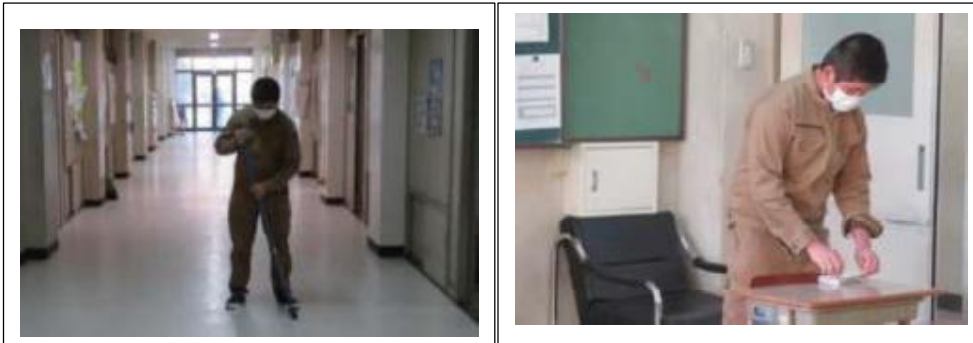
令和 3 年度 10 月から清掃検定を試行するにあたって、まず、検定を行う時間帯と対象を検討した。検定を行う時間帯については、作成した清掃検定の内容を検証する必要があることや、教員も検定の試験官としての経験がなく試行錯誤しながら進める必要があること、1 回の検定にどれくらい時間を要するかが明確でないことから、授業時間での実施は難しいとの判断があり、放課後時間を活用することとなった。放課後の実施ということになれば、自主通学をしている高等部生徒が対象となり、全員が自主通学生である職業コース・クリーンコースの生徒を対象としてスタートすることとなった。

2 学期がスタートした 9 月から一定の練習期間を経て、クリーンコースにて清掃検定を受検したい生徒を募り、10 月の試行実施することができた。(クリーンコースの授業は、火曜日と金曜日の 1～4 限目)

清掃検定という明確な目標ができたことにより、高 3 生徒 1 人が積極的に参加を申し出て、10 月下旬という早い時期に第 1 回清掃検定を実施することができた。検定が終わってからの事後学習(どこがよくできていたのか、どこを修正したらもっとよくなるのか、級数の発表など)を経て、授業内や普段の学校生活における清掃活動で修正すべきことを意識しながら取り組む姿勢が見られた。

第 1 回清掃検定の結果を職業コース・クリーンコース内でフィードバックすると、前

向きに捉える生徒が増え、令和3年度は計3人の生徒が清掃検定を受けた。検定を受けた3人の生徒は、自己評価よりも結果が上回っていることを知って自信を感じることが多く、「次は〇〇検定を受けたいです」と意欲的に取り組む姿勢も見られた。



(2) きょうだい学年の取り組み

令和3年度から中学部と高等部の生徒同士が授業等で交流する機会をつくることを目的としてきょうだい学年の取り組みを始めた。その中で、中学部1年生と高等部3年生で「清掃活動・廊下のふき掃除」に取り組んだ。

廊下のふき掃除は、自立活動の一環として高等部3年生が週に一度のペースで行っていた。中学部1年生の生徒は、その活動を見学しに数回訪れ、「高等部の先輩はすごいなあ」と発言していた生徒もいた。

きょうだい学年は生徒にとっても教員にとっても初めての取り組みであったため、交流を深める意味合いを込めて雑巾がけ競走をすることにした。中学部の生徒と高等部の生徒でペアになって取り組んだ。取り組みの中で、中学部の生徒が追いつくまで待ってあげる姿や応援する姿が見られた。雑巾がけに難しさのある生徒はモップがけをしたが、中学部の生徒のモップに手を添えて、一緒にモップがけをする先輩の姿も見られた。

令和3年度からはじまったきょうだい学年の取り組みであるが、令和4年度については、一定の清掃技術と清掃に向かう態度を兼ねそろえた高等部生徒が中学部の生徒に教えるという場面も作っていければと考える。そのような取り組みから、先輩へのあこがれ、職業科目へのあこがれ、働くことへのモチベーションにつなげていきたい。



(3) 教員に対する伝達講習の取組み

令和3年度の冬季休業中を利用して、「子どもたちの力を伸ばす学校掃除の在り方」と題して、株式会社ダスキンで受講した教員研修の伝達講習を行った。

学校での清掃活動を振り返って、参加教員同士で意見交換する中で、様々な意見が出された。

- ・日々、同じ活動を繰り返し行う掃除は習慣化しやすい。キャリア教育につながる取組みである。
- ・授業を気持ちよく受けられる環境づくりとして必要で、分別やエコ等の学習にもつながられる。
- ・掃除は正しく行うことで、それぞれのスキルアップが図られ、それがみんなの役に立つことにつながっていく、そうすることで、しんどいことではなく、やって当たり前であり、それが楽しい活動になっていく。

(4) 令和3年度の清掃活動に係る取組みについて

本校では、清掃活動を本事業での取組みの最も重要な柱として位置付け取り組んでいる。清掃検定は、他校での実践事例があり、企業協力が得られやすいというメリットもあって、比較的短期間で試行実施に至ることができた。

令和3年度については、職業コース・クリーンコースの生徒のみの試行実施ではあったが、生徒にとって目標をもって取り組みやすい内容となっており、成果が見えるかたちでかえてくるため、その後のモチベーション向上につながることがわかった。

3 地域連携

(1) 学校外での清掃活動の取組み

令和3年10月からの清掃検定試行実施に合わせて、まず、近隣にある四條畷市立岡部小学校に校庭の清掃を本校の生徒にさせていただけないかと打診をした。岡部小学校とは、支援教育地域支援整備事業を通じて、リーディングスタッフが何度も訪問相談を行っていたこともあり、校長先生からも快諾いただけた。

また、令和元年度から剪定の指導者として来ていただいている方を介して、忍陵神社での清掃活動も了解を得ることができた。



令和3年度中、クリーンコースの生徒で清掃検定を受検し、岡部小学校や忍陵神社での清掃活動を行ったのは、高等部2年生2人、高等部3年生2人である。

そのうち、高等部3年生の2人は、普段から地道に作業をすることができるが、授業内で教員や生徒間で「報告・連絡・相談」を主体的に、積極的にすることが課題である生徒であった。その2人のうちの1人が、清掃検定という明確な目標を設けたことにより、試行実施開始時に真っ先に「自分はチャレンジしたい」という意思を示した。もともと、まじめで丁寧に作業ができる生徒だったこともあり、自在箒を用いた廊下の清掃検定で、いきなり2級を獲得することができた。また、清掃検定試行実施に合わせて、岡部小学校の校庭や忍陵神社の境内を清掃する活動に参加した。清掃活動中に小学校の校長先生や神社の宮司さんから、「ありがとう」、「本当に助かります」といった肯定的なことばをかけていただくという経験がモチベーションとなって、次の検定種目への挑戦につながるといった好循環もうまれた。また、これまでは自信なく作業していた場面でも、自分からわからないことを確認するようになるなど積極性がでてきており、清掃活動以外の作業にも波及した。

令和3年度については、清掃検定の試行実施に合わせて、小学校や神社、公民館など、学校の意図を理解して協力いただける機関が複数あり、検定で認められた力を学校外で発揮できる場を用意することができたことによって、清掃検定の取組みが検定合格のためだけの取組みにならなかった。そして、学校外で生徒が清掃活動をする場を作ることが

「学校以外の場所もきれいになってうれしい」、「地域の役に立っている」という自己有用感、前向きに仕事に臨む姿勢にもつながることもわかった。

(2) 農園芸の取組み

本校では、開校以来、運動場の一角を学習園として開拓してきた。開校当初は、固いグラウンドに畝の高さ分土を盛った程度の畑であったが、開墾が進み、現在では大根などの根菜類も大きく育つ学習園になっている。令和3年度には、村野浄水場から浄水発生土の譲渡も受け、畑の拡幅も行った。また、四條畷市の株式会社グリーンファームとも連携し、高床式砂栽培にも取り組んでいる。

学習園で取れる野菜は、とても立派で、しかも安心な有機栽培野菜である。しかしながら、収穫した野菜は生徒が各家庭へ持ち帰るか、教職員に対して無人販売をする以外の活用をしていなかった。また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行によって、外部への販売は難しい状況だった。



生徒が、自分たちで育てた野菜を自分たちで販売することができれば、「立派な野菜だね」「おいしそうね」などといった客の反応を見ることによって、自分たちが丹精込めて作った野菜を喜んで買ってもらえたという喜びになり、次回ももっといい野菜、もっとおいしい野菜をつくりたいという、仕事の意欲向上につながると考えた。

プロジェクトチームメンバーが、JR学研都市線・忍ヶ丘駅周辺での販売について、四條畷市役所に問い合わせたところ、販売許可等のハードルが高いことが分かった。そこで、本校の学校運営協議会委員でもある砂自治会長にかけあったところ、砂公民館で販売することについて快諾いただいた。更に、砂自治会長からは、「販売をするのであれば、宣伝をしたほうがよい」と言っていた。冬休み中に岡部小学校で行われるとんど祭を紹介いただいたので、プロジェクトチームメンバーが、とんど祭に行きチラシをまいた。砂自治会の回覧でも紹介いただき、砂地区になる掲示板でも案内をした。

また、先に駅前販売についての問い合わせをした四條畷市役所からも、本校が砂公民館をつかって有機野菜の販売をする様子取材し、四條畷市の広報に載せたいという依頼

を受けることになった。

販売を行う前週には、プレ販売を本校の事務室前で教職員を対象に行った。



1月21日の販売会の日は、1・2時間めの授業で、農園芸班は、学習園及び高床式砂栽培で、その日の商品となるハクサイ、ダイコン、ミズナの収穫と袋詰めを行った。クリーンコースの生徒は、砂公民館前の清掃や机を並べるなどの販売準備を行った。

11時からの開店であったが、様々な宣伝効果もあって（砂自治会の協力もあって）開店前から10人ほどの方が列を作ってくれてくれるほどお客さんも集まり、開店から30分足らずで準備していた野菜はほとんど売れてしまった。（ダイコンであまりに大きく立派なものは、「冷蔵庫に入りきれない」「食べきれない」と敬遠されて、数本売れ残った。）

四條畷市の広報の方は、1・2時間めの収穫から取材に来てくださり、野菜も購入してくださいました。販売を終え、広報の方からの取材を受けた生徒たちは、とても満足げな表情で「とても楽しかった」、「たくさん買ってくれてうれしかった」とインタビューに答えていた。



3月15日にも第2回販売会を行い、その日も準備していたチンゲンサイを完売することができた。

令和3年度の有機野菜の販売会は、砂自治会の協力もあり、開催した2回とも盛況

のうちに終えることができた。しかしながら、このような取組みは単年度の単発イベントではなく、持続可能な取組みに発展させていく必要がある。そのためには、商品である野菜も「支援学校の生徒が育てたものだから」という協力的な目的での購入ではなく、「交野支援学校四條畷校でとれる野菜はいつもおいしい」、「無農薬栽培だから安心できる」、「スーパーで買う野菜より新鮮で立派」、「しかも価格も市場価格より安い」など商品価値自体が高いから購入してもらえというものを提供し続ける必要がある。また、広報についても、回覧板や砂自治区の掲示板など砂自治会頼みのところが大きかった。地域密着型の良さもあるが、より多くの人に本校の野菜を購入し、良さを知ってもらうための広報の方法（例えば、HP 上での広報）も検討していく必要がある。

（３）外部講師（剪定・ビジネスマナー）の取組み

① 剪定

本校は、高等学校跡地を利用していることもあり、支援学校の中では敷地面積が広く、低木・高木等植栽も多い。令和元年度から社会人等指導者活用事業を利用して、地域の剪定職人の方に指導者として月に１度くらいのペースで来ていただいている。

剪定職人の方から直接指導を受ける中で、プロの仕事の速さ・正確性・手際の良さに驚くと同時に、仕事をする姿のかっこよさに気付く生徒が多かった。剪定実習をしているときに、剪定職人の作業の様子をよく見て、取り入れられる部分を自分に取り込もうと主体的に向き合う生徒もいた。剪定という作業は、作業の前後で自身の成果を感じやすい作業であり、作業終了後に達成感を味わう生徒がほとんどであった。

雨の日は剪定作業ができないため、そのときは剪定職人の方に「仕事」についてのインタビューにご協力いただくようお願いした。教員があらかじめ聞く質問（①剪定の仕事を選んだ理由、②仕事をしていて嬉しかった経験、③仕事で気をつけていること）を提示したうえで、どのようなことを聞きたいか募った。「仕事で困ったことがあったときに、どのように乗り越えたのですか」、「剪定という仕事をしていてよかったと思う瞬間はどのようなときですか」、「仕事で一番大事にしていることは何ですか」というような仕事に大きく関係する質問、「どのように息抜きするのですか」、「休みの日は何して過ごすのですか」などの余暇に関わる質問、「剪定職人の方にとって仕事とは何ですか」という職業観を聞く質問など多種多様な質問があり、仕事に対する意識の高さを感じられた。実際にインタビューをしたときは、大切だと思ったことをワークシートに記入するほか、自身のメモ帳にも併せて書き込んでいた。感想を発表する場面では、「ここまで仕事に対して深く考えたことは初めてです」、「貴重な話が聞けて嬉しかった」など生徒が自分自身に内容を落とし込んでいると捉えられる感想が多かった。

② ビジネスマナー

令和3年度からは新たに大阪市の就労移行支援事業所（学校の沿線にある）に依頼してWeb会議システムを利用した面接指導に取り組んだ。昨今、新型コロナウイルス感染予防の観点から、面接のあり方が変わっていているとのことがあり、Web会議システムを利用した面接指導を取り入れるに至った。

オンライン面接という初めて経験することや、面識のない方から実際に面接を受けるということで緊張を強く感じている生徒たちの様子が伝わってきた。取組みの中で、「面接はすごく緊張するものだと思った」と改めて認識すると同時に、「自分が伝えたいことはがんばって伝えられたと思う」と自身のがんばりを振り返ることのできる生徒が多かった。

学校内にとどまらず、地域や外部講師との連携が生徒の教育活動の幅を広げ、生徒の学んだことが実践でき、そして生徒の自信や自己有用感に大きく寄与するだろうことがわかった。



IV 令和4年度の取組み

1 教員研修

(1) 教員研修（令和4年10月13日実施）の概要

令和2年度実施の教員研修にて、卒業生が陥りやすいトラブルについてもっと知る必要があるという意見があがっていた。このことについては、令和3年度のグループワーク研修にて、SNSトラブルなどといった今の生徒を取り巻く課題についても把握し、支援・指導の必要性についても言及があった。令和4年10月13日（木）に、消費生活専門相談員の講師を招き、『若者が巻き込まれがちな消費者トラブルと対処法』と題した職員研修を実施した。

本研修では、SNSでのトラブル以外に、卒業後に巻き込まれるかもしれないトラブルや対処方法を講師の方に紹介いただいた。平成30年（2018年）6月に民法の定める成年年齢を18歳に引き下げること等を内容とする「民法の一部を改正する法律」が成立し、令和4年4月1日から施行されたことを受けて、問題となる点も挙げていただいた。

- 18歳で成人になるということは、何が変わるのか。
 - ・ 未成年者取り消しができない。未然防止がこれまで以上に重要になる。
- 最近の若者の消費者トラブルの傾向はどのようなものか。
 - ・ 傾向として20～24歳の若者に多く発生している。儲け話に関する相談が多い。
 - ・ 「スマートフォン」がトラブルを運んでくるとも言われるくらい、トラブルのきっかけはSNSを通じてのことが多い。
- 若者が狙われる消費者トラブルにはどのようなものがあるか。
 - ・ 身に覚えのない架空請求、ワンクリック請求については、対応せず、無視すること。
 - ・ 高額なアルバイトや名義貸し、暗号通貨、マルチ商法など簡単に儲かるといった話（特に先払いをさせたり、契約を急がせたりするもの）は全部が詐欺だと思って関わらない。
 - ・ サブスクリプションなどは、無料のお楽しみ期間を過ぎると自動的に有料契約になるものもあるので、忘れずに解約手続きをする。
 - ・ インターネット通販を装った詐欺サイトは、代金だけ支払わせて品物が届かなかったり、クレジットカード情報などの個人情報が盗まれたりすることがあるので、SNSにあがっている広告からはサイトに入らないようにする。また、「会社概要」や「特定商取引法に関する表示」などを確認しておく。
 - ・ ゲームに夢中になり、クレジットカード決済でアイテムなどを購入し、利用額が多額になるトラブルを回避するためには、ペアレンタルコントロールやフィルタリングサービスを活用する。子どもによる高額課金では、消費者センターに相談することで、減額することができた事例もある。

- ・ SNSを通じて知り合った人からお金を要求されるケースもあるが、実際に会っていない相手を信用しないことを肝に銘じておく。
- ・ 訪問販売、電話勧誘等で高額な契約をさせられた場合などには、クーリング・オフが可能な期間があることを覚えておく。
- 金銭感覚についての注意すべき点はどのようなものがあるか。
 - ・ 18 歳からクレジットカードを持つことができる。量販店などでは審査なく即時発行されることもある。クレジットカードで代わりに買わせて、商品を指定された住所に送る副業トラブルなどに巻き込まれることもある。
 - ・ 交通系電子マネーやスマートフォンを使ったコード決済など実際にお金のやり取りをしない支払いでは、お金を使っている感覚が薄くなる。
 - ・ クレジットカードやスマートフォンやそれ自体がお金、財布であるという感覚を持ち、人に預けたり、暗証番号を人に教えたりしない。
- 困ったり、トラブルに遭ったりしたときは、どうすればよいか。
 - ・ まずは、信頼できる大人に相談する。
 - ・ 周りの人は、本人のいつもと違う様子に気づいたら、さりげなく聞くようにする。
 - ・ 居住地の消費生活センターに相談する。消費者ホットライン「188」に電話をすると居住地の消費生活センターにつなげてもらえる。

研修を受ける前から、ニュース報道や身近な事例などから、様々な消費生活トラブルがあることは知っている教員も多かったが、大人であっても遭遇する可能性のある（回避したり、適切に対処したりすることが難しい）トラブルもあった。

スマートフォンやSNS等の利用に伴う生徒間トラブルは、校内でも近年増えている。卒業後はもとより在学中においても、生徒がそういったトラブルに巻き込まれないようにするためには、やはり教員が具体的なトラブル事例や回避策について知っておく必要がある。

本研修を受けて、SNS等のトラブルは、学校教育の期間に情報モラルに関する指導を丁寧に行うことで、未然に防ぐことができる可能性があることを、改めて学ぶことができた。

しかしながら、本研修は、教員が消費生活トラブルの内容や対処方法を知ることだけがメインテーマではない。在学中また卒業後の自立した生活の中で生徒が、消費生活トラブルに巻き込まれないようにするために、また仮に巻き込まれた時でも適切に対処できるようにするためには、どのように指導すべきかを検討することが必要である。そのため、本研修を受けて、一週間後に教材づくり研修を行った。

（２）教員研修（令和４年１０月２１日実施）の概要

１０月１３日（木）の研修内容をうけて、実際に中学部・高等部の生徒を想定した消費生活トラブルに係る教材（授業で使用するスライド）を作るワークショップ型の研修を行った。

中学部４グループ、高等部８グループ（１グループ４、５人）を編成して研修を進めた。

今回は、中学生、高校生という生徒の生活年齢を考慮した教材づくり、作った教材をすぐに使えることをねらいとするため、中学部、高等部の教員を混ぜずにグルーピングをした。ただ、学年ごとではなく、中学部と高等部でそれぞれ学年を混合したグループ分けをしたことにより、他学年の教員と交流しながら授業の進め方のイメージから教材作りまで共有できる場として設定した。また、教材づくりの共通認識として、以下の3点を示した。

- (i) 授業での使用を念頭に置いて、10～15分程度の内容とする
- (ii) 対象は、家にスマートフォンやタブレット端末がある生徒を想定
- (iii) iPadのプレゼンテーションソフトであるKeynoteを使用すること

授業でiPad等のICT機器を生徒がよりよく使っていく環境を整えるためには、まず教員が機器に触れ、使ってみることからであるという考えのもと、本研修においては、教材作成ソフトをKeynoteに限定することとした。そうすることで、教員が必然的にiPadを使うことになるとともに、本研修で作成した全ての教材がiPad上で共有されることとなり、すぐに授業で活用することが可能となるメリットもある。

また、各グループで作成する教材は、本研修の時間内（1時間）で完成できることを念頭に置き、教材のテーマも、「架空請求による不当請求について」「ゲームによる高額課金について」「個人情報の流出について」「LINEトラブルについて」の4つに絞り、各スライドで使えるような画像等の素材もあらかじめ共有フォルダに用意した。



初めてKeynoteを使用した教員も少なくなく、初めはパソコンのプレゼンテーションソフトとの使い勝手の違いに戸惑う様子も見られたが、画像のトリミングなど基本的な処理方法などを、グループをこえて教え合いながら、作業を進めていった。

時間が経つにつれ、教材のターゲットとなる生徒の具体的なイメージから、様々なアイディアを出し合う様子が見られた。生徒の興味を引き付けるように、画像や動画などの素材を入れ込んだり、文字サイズや画像の位置を考えたり、動きをつけたり、どのグループも創意工夫をこらした教材をつくることができた。

(作成教材の一例)



(3) 令和4年度の教員研修をうけて

令和2年度、令和3年度では、支援学校卒業後の生徒の生活を見据えて、「教員が知っておくべきこと」、「学校で生徒につけたい力」をテーマに教員研修を計画・実施してきた。

令和4年度の研修では、「教員が知っておくべきこと＝生徒が卒業後に陥る可能性のある消費生活トラブル」を外部講師から講義を受けて知ることから、「学校で生徒につけたい力＝消費生活トラブルを回避する力」をつけるためにはどんな指導が必要で、そのための教材とはどのようなものが良いかを考えて、ワークショップ型の研修にて具体的な教材をつくりあげることまでをセットで取り組むことができた。

講義型の教員研修は、新たな知識が取り入れられ、教員個々のその時点での課題の整理が進むことなどから、受講することによってその後の教育活動への活力になることは間違いない。しかしながら、実践の中での積み重ねがないと、忘れてしまうことはよくある。今回は、講義型研修から日をあまり置かず、「消費生活トラブルは多岐にわたり、その手

口も巧妙である」⇒「そのため、生徒がトラブルに巻き込まれる危険性が非常に高い」⇒「生徒がその危険性を回避するためにはどんな指導が必要か」⇒「指導のための教材とは」・・・と考える熱が冷めないうちにワークショップ型の研修を行い、しかも、その研修内で具体的な教材づくりまで完結できたことが良かったと考える。

長期休業中と違い、学期中の放課後に行う教員研修は、一回の研修時間が1時間以内に限られている。その中で講義及びワークを入れ込むことは難しいが、短期間にシリーズで実施する今回のようなスタイルであれば、両方のよいところをミックスすることが可能である。

今回の研修を受けて、12月にはプロジェクトチームメンバーが中心になって、高等部1年生のスマートフォンを使用する生徒を対象にLINEの使い方に関する授業を行った。今回のワークショップで作成された教材をそのまま授業に使用したわけではなかったが、それぞれのグループの生徒の状況にあわせてアレンジを加えて授業を行うことはできた。

ワークショップ型の研修を通じて教材づくりを行い、その教材をきっかけに授業を計画・立案するということにつながったことから、今後は講義型研修＋ワークショップ型研修＋研究授業のような取組みについても検討していきたい。



2 清掃活動

(1) 高等部職業科目での取組み

令和3年度は、10月から四條畷校版・清掃検定の取組み開始や、近隣の岡部小学校や忍陵神社、砂自治会公民館といった学校外で清掃技術が発揮できる場の広がりがあった。これらの学習活動は、本校の高等部職業コース・クリーンコースの生徒を対象とした取組みであった。(今年度の検定にて、廊下の清掃検定1級を取得した生徒は、12月初旬時点でクリーンコースの生徒2人である。)

令和4年度からは、清掃検定や清掃活動の対象生徒を広げていくことが目標となる。本校・高等部では、2・3年生を対象とした選択職業の時間(週6コマ:4コマ続き+2コマ続き)があるが、令和4年度から「軽作業」「窯業」「縫製」「園芸」「木金工」「作業基礎」に加えて「清掃・喫茶」を新設した。令和4年度からは、クリーンコースの生徒はも

とより、「清掃・喫茶」を履修する生徒についても、清掃検定の受検対象としたり、校外での清掃活動へ参加できるようにしていく。

(2) P T A校内清掃活動について

本校では、1年に数回、P T A役員・学級委員の方々を中心に、特別教室を清掃していただく活動を行っていた。しかしながら、令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、P T A校内清掃活動についても中止せざるを得ない状況であった。

令和4年度に入り、学校教育活動やP T A活動において、規制されていたことが少しずつ緩和されてきたことを受け、P T A会長から校内清掃活動を再開したいとの打診があった。

そこで、P T A会長に令和3年度の高等部クリーンコースの取組み（清掃検定や地域連携による校外清掃活動）を紹介し、クリーンコースの生徒とのコラボレーション企画としてP T A校内清掃活動を実施することを提案した。クリーンコース担当とP T A役員とが、企画の中身を相談する中で、ただ一緒に清掃をするだけではなく、清掃前にクリーンコースの生徒がP T A校内清掃参加者（保護者）に清掃方法を指南してから、清掃を開始することに決まった。

P T Aとのコラボレーション企画の内容が決まってから、生徒それぞれの役割を決め、授業の中で数回、当日の流れを確認した。取り組むにあたって、生徒たちにとってP T Aとの合同校内清掃活動の目標・目的は何なのか、クリーンコース担当から説明した。伝えた内容は、

- 自分自身が正しい方法・順序で自在箒を使って廊下を清掃することができるかどうか確認する
- 相手に分かりやすく伝える
- 困ったことがあったときはグループ内で相談したり、教員に質問したりするなどして適切に対処する

の3点である。ねらいを明確に示すことで、働くために必要な力をつけるために大切な取り組みだと前向きに捉えて活動に参加する生徒が多くいた。

参加される保護者の人数に応じて、3グループに生徒を分けて実施した。分かれてからは、グループ内で誰が説明をして誰が実演するのかなど、相談するところから始めた。役割を決めたら、グループ内で練習→模擬実演と進めていった。グループ内で練習している中で、模擬実演場所の会議室の床面が、タイル状になっているため掃きにくそうにしている生徒の姿が見られた。床面を平らにするためにブルーシートを敷き、どちらが掃きやすいのか聞き取りをすると、ブルーシートの方が掃きやすいとのことだった。生徒の意見を取り入れ、模擬実演とP T A校内清掃活動当日は、床面にブルーシートを敷いて実演することにした。

模擬実演に関して、選択職業「清掃・喫茶」を履修している生徒に保護者役をお願いした。しかしこの時点で「清掃・喫茶」履修者は自在箒の使い方を学習していなかったため、クリーンコースの生徒は、「清掃・喫茶」の生徒が理解しやすいように説明する必要がある

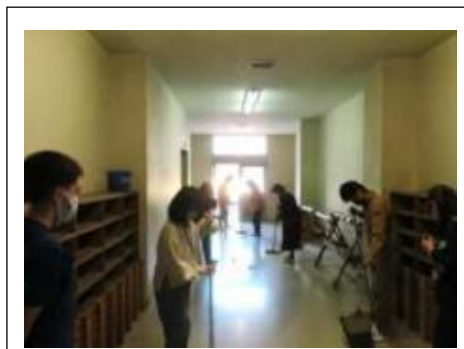
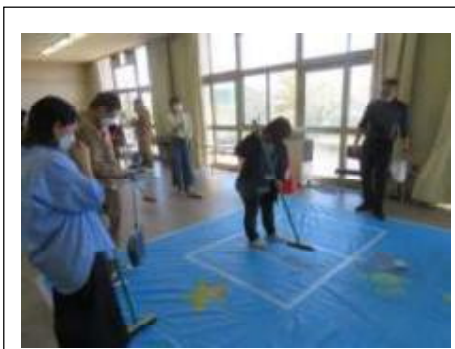
った。そこで、グループごとに説明する内容を生徒同士で確認・相談しながら模擬実演をし、その他のグループは模擬実演を見学してアドバイスをするという授業展開をした。実際に教えてから気づいたことや、「説明は具体的な方が良い」などのアドバイスをされて初めて分かったことなど、生徒一人ひとりが振り返りをしながら練習に向き合う様子が見られた。何度か模擬実演をしてから、通し練習を行った。そうすることにより、PTA校内清掃当日は、生徒が主体となって進めることができた。

10月14日（金）、PTA校内清掃当日は、PTA役員やPTA学級委員以外の保護者の参加もあり、17人の保護者が集まった。中には、「生徒から清掃方法を教えてもらう」という企画の趣旨に興味をもって参加いただいた保護者もおられた。

まず、会議室内で、実際に自在箒を持って掃く動作の練習から開始した。生徒は、緊張しながらも自在箒の持ち方や、自在箒での掃き方、廊下の掃き掃除の手順について、一度に掃く幅をわかりやすく白線で示したブルーシートの上で実演しながら説明して見せた。

- ・自在箒の持ち方：柄の上部と中間を持つ
- ・自在箒の掃き方：肩幅の範囲だけ、一方方向に向けて掃き、掃き切ったところで自在箒についたごみ・塵をトントンと落とす
- ・廊下掃き掃除の手順：上記の掃き方で廊下の隅から掃き始め、ごみ・塵を廊下中央に集めていく

生徒の説明に続いて、参加の保護者も、ブルーシート上で実際にやってみてから、体育館棟の廊下清掃を開始した。



クリーンコースの生徒と参加保護者が、正しい清掃方法にて黙々と作業する姿は規律がとれていて、とても気持ちが良い光景だった。また、効率よくごみ・塵を集めることができるため、予定していた体育館棟の廊下清掃が予想以上に早くに終わった。参加の保護者から、「校舎棟の廊下清掃も行いましょう」との声があがり、校舎1階東棟、南棟、西棟の廊下をそれぞれグループ分けして効率よく清掃した。掃き作業が終わると、そのグループのクリーンコース生徒が隅などをチェックし、掃き残しがあれば、確実にゴミ・塵を収集していった。日頃の授業において、クリーンコースの生徒が仕事として清掃を行っている姿勢を参加の保護者に見てもらうことができ、「さすが厳しい」「いつもきちんと清掃している証拠ですね」との声があがった。

清掃後に再び会議室に戻って行った振り返りの会・反省会の司会進行も、クリーンコー

スの生徒がつとめた。参加の保護者からの感想は以下のとおり。

- ・ 今日初めて職業コースの存在を知った。生徒1人ひとりのがんばっている姿が見られてよかった
- ・ 生徒と一緒にできるからもっと掃除がしたくなる
- ・ 子どもから何か教えてもらうことは今回が初めてで、とてもよい経験になった

クリーンコースの生徒にとっても、普段の取組みの成果を見ていただくにとどまらず、大人相手に清掃方法を伝え、主導的に清掃活動を進める立場を経験する機会がもてたことは、大きな意味があった。振り返りの会でもクリーンコースの生徒から「保護者(大人)に清掃方法等をレクチャーするのが初めてだったので緊張感があった」と感想があった。参加の保護者からたくさんの肯定的な感想をいただき、クリーンコースの生徒は、達成感と安堵感に満ちた表情をしていた。



(3) 学校外での清掃活動の取組み

① 四條畷市立岡部小学校での清掃

令和4年度も引き続き、近隣にある四條畷市立岡部小学校に清掃実習を受け入れていただいた。岡部小学校は、令和4年度から校長先生が変わられていたが、本校との支援教育地域支援整備事業での協働体制や、清掃活動による協力体制について引き継がれており、快く受け入れていただいた。

令和3年度は、10月からの実施であったため、年間実施回数は2回、参加生徒数は2人であったが、令和4年度は、1学期に2回、2学期に2回、計4回実施することができ、

参加したクリーンコースの生徒の人数も総計8人となった。(11月末現在)。

クリーンコースの生徒が任されている清掃範囲は、小学校の正門から左手に入って、学校フェンスと校舎に挟まれた限られた空間ではあるが、桜などの落葉樹も多く、2～3人で担当するとなかなりの広さがある。落葉の季節である秋の清掃では、1時間以上の作業時間でも落ち葉を集めきれないほどである。また、クリーンコースの生徒の作業時間中には、小学校の2校時めと3校時めの間の業間休みがあり、主に低学年の児童がその空間で鬼ごっこなどして遊んでいる。また、近隣の保育所にも開放されている空間であるため、小さな園児の動きにも気をつけなければならない。

令和4年度は、一回に参加する生徒数も3～6人であり、令和3年度に比べて作業量・作業効率は格段に上がった。また、取り組む回数が増えるにつれ、クリーンコースの生徒同士がチームでの動きを意識して、相談しながら取り組む様子が見られるようになった。落葉の多い時期の清掃では、「エリアを分けて担当する」「掃き集める者と集めた落葉等を集積場所に一輪車で運ぶ者を分けて作業する」など、分業化することで作業効率が上がるが、クリーンコースの生徒同士で相談し合う中で、それぞれが「自分は今、何をすべきか」を考えながら清掃に勤しむ姿が多く見られるようになった。

また、小学校児童も、クリーンコースの生徒が校庭を清掃する風景を当たり前のようにとらえており、小学校児童や保育園児と、クリーンコースの生徒が自然にあいさつを交わしたりもしている。



② 忍陵神社での清掃

忍陵神社にも、令和3年度に引き続き、清掃活動の場を提供いただいた。

令和4年度の忍陵神社での清掃（5月27日実施）は、将来的に就労をめざしている高等部2年生の生徒のクリーンコース体験実習という位置づけで行った。今年度、高等部2年生でクリーンコースに所属しているのは1人のみであるが、1年生段階から企業体験実習を経験する生徒は6人おり、3年次からクリーンコースに挑戦したいという希望をもつ生徒もいる。また、令和4年度から開講した選択職業「清掃・喫茶」で学ぶ生徒もいる。当日は、クリーンコースの生徒1人、「清掃・喫茶」の生徒1人を含む7人が参加した。

いずれの生徒にとっても、初めて校外の場所で清掃をする機会であったこともあり、普

段の授業とは違った緊張感があり、気を引き締めて臨んでいることが表情から感じられた。

緊張感のある雰囲気ではあったが、普段、学校で取り組んでいることがしっかりと生かされており、自分が担当する清掃箇所が終わったことを教員にきちんと報告できる生徒も数多くいた。清掃実習の振り返りでは、「神社を利用する人のためにキレイにできてよかった」、「今回の実習は自分の中でよい経験になった」という意見が聞かれた。



(4) 令和4年度の清掃活動に係る取り組みについて

令和3年度からの取り組みの中で、特に校外での清掃活動が一定軌道に乗り、定例化しつつある。

令和3年度までは、校外での清掃活動への参加は、クリーンコースの生徒であり、清掃検定において2級以上/5段階中を獲得した生徒に限られていたため、2～3人しか経験することができていなかったが、今年度はクリーンコース生徒の多くが、昨年度からの取り組みにより一定以上の清掃スキルが身についたこともあり、3人以上のチームでの作業も可能になった。チーム作業が可能になったことにより、生徒同士が相談しながら、作業内での役割分担を自主的に決めて、効率よく動けるようにもなっている。

また、新・選択職業コース「清掃・喫茶」が新設され、クリーンコース以外でも清掃の基礎を学べる場が広がった。3年次からクリーンコースの履修を考えている高等部2年生を対象に、プレで校外清掃の活動を行えたことも、今後、更に清掃検定受検者や校外清掃活動参加者の裾野を広げる意味でよい取り組みとなった。

3 地域連携

(1) 農園芸の取り組み

令和3年度、学校が所在する砂地区の自治会長の協力もあり、近隣の砂公民館前を会場に野菜の販売会を実施（令和4年1月21日実施）してから、令和3年度3学期中に計2

回、令和4年度に入ってから、学期に2回程度の間隔で定期的に販売会が実施できている。

販売会を地域に周知するため、地域の催事に参加させてもらってビラ配りや宣伝をしたり、砂地区の回覧板でチラシ配付を行ったり、砂地区の掲示板にチラシを掲出してもらったりしている。

令和3年度に実施した2回については、イベント的な要素もあったが、令和4年度からは、より「卒業までに学校外での経験を増やして、働くための準備を授業の中で位置づけて行いたい」との考えをもって取り組んでいる。

野菜の販売会の日時が決まると、それに向けての準備を始める。選択職業「園芸」の生徒には、一人ひとりが販売会において主体的に動けるように、販売会の流れやそれぞれの役割を事前によく確認する。令和3年度については、「園芸」履修の生徒全員（園芸履修者は15人（各回出席者状況により8人程度参加））が販売会に参加していた。ただ、参加人数が多くなることで、生徒一人ひとりの販売会における役割意識が小さくなる懸念がある。そのため、令和4年度は、販売会の回数を重ねていく中で1回の販売会での生徒の参加人数を少なくしていった。（8人程度からさらに減らしていった4人程度にしていた。）そうしたことにより、販売会における生徒一人ひとりの役割をより明確に示して取り組むことができるようになり、接客や袋詰め、会計、買い物かごの消毒など、生徒一人ひとりが「自分がこの仕事を責任もってやり遂げる」という思いをもって販売に意欲的に参加できるようになってきた。

昨年度からこれまで行った販売会は、自治会の方々の多大なる協力もあり、いずれの回でも、販売開始時刻からお客さんが並ぶほどの盛況である。開催のたびにに来ていただける地域の方もあり、「販売会を楽しみにしています。」との声をいただくほどである。また、生徒に「ありがとう。がんばってね。」と優しい言葉かけをしてくださることも多くなった。多くのお客さんは、地域のリピーターではあるが、学校の横に隣接する大型ショッピングセンターからの帰りで、たまたま砂公民館前を通りがかった人が「誰でも購入可能ですか？」と尋ねてこられ、お買い上げいただくケースもあった。

自治会の方からは、「地域と学校がお互いを知れるいい機会になった」という意見もいただいている。販売会が定例化していくことで、生徒と自治会の方とが定期的にコミュニケーションをとることで生徒の障がい理解につながる部分もあると感じている。



農園芸では、令和3年度から社会人等指導者活用事業を利用して、地域の農家の方を指

導者として招いて、畝たてや野菜の梱包方法を教えていただいている。

農家の方から直接指導を受ける中で、「畝たてにすごい自信を持つことができた」「1年前よりすごく早く畝たてができるようになった」と作業に自信を持って取り組む生徒が出るなどの効果も見られている。

また、販売会に出す野菜の袋詰め作業にも協力いただき、「袋詰めをだれでもスムーズにできる方法」を伝授いただいた。「これならできる」と自信をもって作業に取り組めるようになった生徒が多くみられた。



(2) 外部講師（剪定・ビジネスマナー）の取り組み

① 剪定

令和4年度も、社会人等指導者活用事業を利用して、地域の剪定職人の方に指導者として月に1度くらいのペースで来ていただいた。

今年度からクリーンコースに所属した生徒は、プロの仕事の速さや正確さに驚いていた。作業の中で剪定職人から刈り込むときのコツを教えてもらい、方法を確認しながら積極的に剪定に取り組む生徒がほとんどであった。令和3年度から剪定の指導を受けていた生徒は、職人の方から「去年よりも上達したなあ」と伝えていただいた。特に、枝木を丸く整える作業については、道具の正確な扱いが求められるほか、遠くから見てバランスよく切れているかどうか確認しながら行う必要がある。「たった1年でこれだけできたら大したものだ」と直接ほめてもらえた生徒もあり、より主体的に剪定作業に取り組む様子も見られた。



地域の剪定職人の方にご教授いただいたことで、剪定作業に対する意識や作業能力はここ2年ほどで大きく向上したように思える。そこで、クリーンコースの生徒が、校内の剪定作業でこれまでに身に付けたことを発揮する場を設定するため、令和4年度は、大阪府庁舎実習（剪定業務）へ初めてエントリーした。

7月の庁舎実習にクリーンコースの生徒3人が参加し、花壇の手入れ（土の搬入から花の植え付けまで）、剪定作業、救急救命講習などに取り組んだ。クリーンコースの生徒は、他の府立支援学校の生徒も実習に参加する中、コミュニケーションをとりつつ真剣に仕事に向かうことができていた。他の府立支援学校の教員から「とてもしっかりされていますね」と言葉をかけていただく場面もあった。特に、剪定作業は素早くこなすことができており、実習担当の職員からもよくできていたと評価いただいた。

参加した生徒3人は、これまでも企業体験実習を経験している。今回の実習先は、大阪府庁であり、今まで経験した実習地より自宅から遠く、ＪＲ学研都市線、ＪＲ環状線、京阪電車本線など複数の路線が乗り入れる京橋駅での乗り換えがある。実習初日の帰宅時に、京橋駅でＪＲ学研都市線の松井山手方面のホームと間違えて、ＪＲ環状線の外回りホームから電車に乗ってしまった生徒から、乗る電車を間違ったとの電話連絡が入った。その生徒は、実習の振り返りで「あのときはどうすればいいかわからず困ったけど、何とか解決できた。それも含めていい経験になりました」と話した。また、「今まで経験した現場実習の中で一番（身体的に）しんどい仕事だった」という感想も聞かれたが、「剪定は学校でやっていたこともあって自信をもって取り組むことができた」との声を聞くことができた。



② ビジネスマナー

令和3年度から協力を依頼した大阪市の就労移行支援事業所には、令和4年度も面接関係で何か取り組めないかと打診した。今年度は履歴書の書き方と、クリーンコースの生徒が直接事業所に赴き、対面での面接指導をお願いした。

クリーンコースの生徒の多くは、就労移行支援事業所に用意いただいたマニュアルを基に自分たちで履歴書を書いていく中で、「自己PRをこのように書こうと思うのですが、どうでしょうか」など、疑問に思ったことなどを講師の方にすぐに質問できていた。その一方で、自分の住所がわからない（履歴書に書けない）生徒が約半数いた。卒業後に就職をめざすクリーンコースの生徒であるから、自宅住所や連絡先（電話番号）は覚えていて当たり前と捉えていたため、これまで敢えて授業内で取り扱っていなかったことであるが、今後は、このような基本的な事項についても課題である生徒がいることを想定して、指導していく必要があると感じた。

7月には、就労移行支援事業所に赴いて対面での面接練習を実施した。1人あたり20分程度面接をし、希望の職種が決まっている生徒に関しては、実際の企業面接を意識して取り組んだ。面接官が就労移行支援事業所の方だったので、いつも以上に緊張感をもって受け答えする姿が見受けられた。就労移行支援事業所の方からは、生徒個々にフィードバックをしていただいた。生徒は、それぞれが記録をとっていた。



③ 新たな外部講師の開拓

令和4年度、本校から1km程の距離に、新たに就労継続支援A型事業所（クリーニング関係）が新たに開設された。早速、クリーンコース担当が連絡を取り、クリーンコースの授業内で行う実習先として、受け入れていただくことができた。

目的地である就労継続支援A型事業所へ初めて訪れる際、クリーンコースの生徒がグーグルマップを使って経路検索をしてから自分たちで行くことを課題とした。出発する30分前にパソコンを使って目的地までの経路を検索し、印刷した地図を持って実習先へと向かった。グーグルマップを使用することに関しては、スマートフォンで使った経験が

ある生徒が多く、ほとんどの生徒ができていた。しかしながら、クリーンコースの生徒の中で地図を見ながら目的地に向かって移動することについては経験がある生徒は少なく、スムーズにはいかなかった。生徒たちは、引率教員に行く方向や曲がる交差点などがあっているかなど質問をしながらも「あっちに行ったら行けるかな」など生徒同士で相談しながらなんとか事業所にたどり着くことができた。

実習内容は、(i)洗濯乾燥機にタオルや衣類を出し入れする、(ii)タオル(主に美容室で使用されるもの)のたたみ作業、の2つであった。(i)の作業に関しては、生徒にとって思った以上に重労働だったようで、生徒が「クリーニングって結構力仕事なんですね」と従業員の方に伝える場面があった。(ii)の作業に関しては、カラーリングで使う染料で変色しているものは従業員の方に報告しつつ、順序通りにたたむ作業だった。作業時は、タオルを広げて確認してからたたむことができていた。実習を通じて、自分たちが気持ちよく髪の毛を切ってもらえる裏側にクリーニングの仕事があることに気づく生徒もいた。



(3) 令和4年度の地域連携に係る取組みについて

社会人等指導者活用事業を利用して、地域の方を校内剪定や農園芸の指導者とするクリーンコース及び職業科目の取組みはすでに定着している。特に、校内剪定は本校の職業コース・クリーンコースの特徴的な取組みの一つであり、生徒の技術も上がってきていた。しかしながら、専門的であるがゆえに、清掃や農園芸が地域連携のもと校外に活動の場をもちやすいのと違って、その力を外で発揮する場を設けることは容易ではなかった。本校は、これまで庁舎実習(警備業務・剪定業務)に生徒を参加させてこなかった。それは、実習場所が生徒の居住地から大きく外れることが理由の一つであった。(高等部の企業体験実習の実習先も、基本的には通学区域内であることが多い。)令和4年度、初めて庁舎実習に参加したことは、クリーンコースの生徒にとって「学校で取組んでいることが確実に力になっている」という自信につながっただけでない。経験することで見えた課題(実習先まで一人で通い、帰宅するところまで確実にに行えること)があり、それを対処するところまで経験できたことも大きな収穫になった。次年度以降も、庁舎実習をクリーンコースの生徒の実習先として位置付けることができればと考える。

V 研究成果と課題

(1) 本校の課題と3年間の取組みについて

令和2年度から、キャリア教育支援体制強化事業を受け、本校でもプロジェクトチームを立ち上げ、まず行ったのは学校の現状分析であったわけであるが、改めて、SWOT分析から見えた課題をここにあげる。

- (i) キャリア教育で生徒につけたい力のイメージが不統一
- (ii) 学部間、学年間での合同学習などの機会が少ない
- (iii) 清掃活動などは、学部・学年で活動目的や指導方法が不統一
- (iv) 本校周辺の学校や公共施設、神社仏閣等を実習の場として活用できていない
- (v) 地域・砂自治区とのつながりが強くない

分析を受けて、本校では『教員研修』・『清掃活動』・『地域連携』の3つの柱で本事業を進めてきたが、3年間の取組みにより(i)～(v)の主な学校課題に明確な回答、成果が出たとは言い難いと考える。

確かに、清掃検定を開始できたり、学校周辺に協力者・協力機関(庭師、農家、地域住民、岡部小学校、忍陵神社、砂公民館など)を広げることができたりはしたが、学校の取組みとして確立されたものにはなっていない。まだまだ、高等部の一部の生徒を対象とした取組みにとどまっている状況と言える。また、教員研修は、定期的に開催し、在校中や卒業後の生徒たちの生活を考えたうえで教員として知っておくべき事柄や、学校在学中に指導・支援が必要な事柄について、インプットする場にはなっているが、それが教育活動へのアウトカムにつながっていない。つまり、上にあげた課題に対する明確な成果が、キャリア教育で生徒に育てたい力のイメージが中学部・高等部で統一され、キャリアプランニングマトリクス等を活用して、教科学習や職業科目での系統性、清掃に係る指導方法等が6学年で図られている状態であるならば、3年間でそのような状況には到底至っていない。

しかしながら、「Ⅲ－１－(4) 令和3年度の教員研修をうけて」で述べたように、キャリア教育の強化・推進に必要なものは、学部・学年を越えて教員が議論する場をもち続けることであり、教員が情報を常にアップデートしていける機会をもつことである。この3年間、キャリア教育支援体制強化事業のプロジェクトチームメンバーが中心だったとはいえ、教員が主体となって動き、学校周辺の協力者・協力機関とのつながりをつくり、それが今後のもっていき方次第では継続的なものとなり、かつ発展的な展開も期待できるものであるということは、一定の成果と考える。

(2) 生徒の意識の醸成について

この3年間の取組みによる、生徒にとっての効果については、年度ごとの取組みの各項でも示してきた。清掃活動・清掃検定で言えば、(i)めざすべき技能が明確であり、(ii)級獲得により達成感が得られ、(iii)次の級をめざす向上心が芽生え、(iv)学校外での清

掃活動で教員以外から肯定的評価を得ることが自信となり、(v) 身についた技能を人に伝達する役割を担うことで責任感・使命感が育つという効果を見てとることができた。

また、地域連携などにより学校外で活動する場面を増やすことは、学校での教育活動で培った力を確かめる機会になるだけでなく、その時点でその生徒に備わっていない力に気づく機会にもなることもわかった。生徒自身が実際場面で困る場面に遭遇することで、それを自身の課題として捉えることがまず大事であり、何とか自分自身で考えてその場を打開しようとし、対応できた時にはより実践的な力となるという効果もあると考える。

令和4年度、7月12日にクリーンコースの生徒6人(高等部3年生5人、2年生1人)と、クリーンコース以外の職業科目を履修していて企業体験実習に参加する生徒4人(高等部3年生4人)に対し、キャリアに関する意識調査を行った。全10項目の設問の中で、主だったものをあげると、【Q1：学校の授業は、将来の役に立つと思いますか】に対しては、肯定的評価は8人(とてもそう思う：4人、そう思う：4人)、否定的評価は2人(どちらとも思わない：1人、全然思わない：1人)であった。【Q2：職業の授業は、将来の役に立つと思いますか】に対しては、肯定的評価は7人(とてもそう思う：4人、そう思う：3人)、否定的評価は3人(どちらとも思わない：2人、あまり思わない：1人)であった。この2つの設問の否定的評価者(Q1に対する2人、Q2に対する3人は、いずれもクリーンコースの生徒であり、【Q3：企業体験実習は、自分のためになっていると思いますか】に対して、10人全員が肯定的評価(とてもそう思う：8人、そう思う2人。クリーンコースの6人だけ見ても、とてもそう思う：5人、そう思う：1人)であることと比べても、低い評価になっているとみることができる。

【Q1】

回答項目	人数
とてもそう思う	4
そう思う	2
どちらとも思わない	1
あまり思わない	
全然思わない	1
未記入	

【Q2】

回答項目	人数
とてもそう思う	4
そう思う	3
どちらとも思わない	2
あまり思わない	1
全然思わない	
未記入	

【Q3】

回答項目	人数
とてもそう思う	8
そう思う	2
どちらとも思わない	
あまり思わない	
全然思わない	
未記入	

この結果は、令和3年度からクリーンコースを履修する高等部3年生にとって、2年生(令和3年度)段階では、校内で学んできた知識・技能を学校外での実習に生かす、力を発揮する場面がほとんどなかったこと、教員以外の評価者から、客観的評価や数値化された評価を得る機会がほとんどなかったことに起因すると考えられる。その点、企業体験実習では、実際の能力が試され、教員以外の評価者から明確な評価が示されるため、肯定的評価が高い。

もともと、クリーンコースを履修している生徒や2年生段階から企業体験実習を経験する生徒は、一般就労をめざす意識がある生徒である。しかしながら、一般就労をめざす意識が高ければ高いほど、同時に「果たして自分は、支援学校卒業後すぐに仕事ができるだけの力があるのだろうか」と不安な気持ちも抱くものと思われる。その不安を解消して

「自分も社会に出て働きたい」「働くことはカッコいい」と思えるようになるためには、学校で学んだことが着実に自分の力になっていることを実感できる必要があると考える。

ちなみに、【Q4：働いている人は、カッコいいと思いますか】に対するクリーンコース6人の回答は、肯定的評価4人、否定的評価2人、【Q5：自分も働きたいと思いますか】の回答は、肯定的評価3人、否定的評価及び未記入3人となっており、意識調査段階では、学校教育活動において自分自身の力の成長が見えにくいことが、就労意欲を低減させていることがうかがえる結果となっている。このことから、上記に示した「授業で培った力の見える化」、「力を発揮する場（学校外）の提供」、「外部評価者の客観的評価」ができる環境が必要であり、その環境にて、可能な限り早期に、そして系統的に取り組むことにより、生徒にキャリア意識を醸成することができると考える。3年間で開発、開拓してきた清掃活動や地域連携による取り組みを、発展的に展開していくことが、本校における今後の課題であり、環境整備上必要不可欠なものである。

【Q4：クリーンコースのみ】

回答項目	人数
とても思う	3
思う	1
どちらとも思わない	1
あまり思わない	1
全然思わない	
未記入	

【Q5：クリーンコースのみ】

回答項目	人数
とても思う	2
思う	1
どちらとも思わない	1
あまり思わない	
全然思わない	1
未記入	1

(3) 就労意欲の向上について

キャリア教育支援体制強化事業の3年間、その年の高等部3年生の就職希望者数の推移は下に示すとおりである。(いずれも、その年度の9月末時点)

令和2年度高等部3年生 37人	就職希望者数	就職希望者の割合	卒業時一般就労者数
	5人	13.5%	1人

令和3年度高等部3年生 22人	就職希望者数	就職希望者の割合	卒業時一般就労者数
	0人	0%	1人

令和4年度高等部3年生 46人	就職希望者数	就職希望者の割合	卒業時一般就労者数 (令和4年11月末時点予定)
	10人	21.7%	10人

数字上は、この3年間で令和4年度の就職希望者数、生徒数に占める就職希望者割合は

最も高いことは見てとれるところである。しかしながら、本事業の成果として上の数字を見ることは短絡的であろう。ただ、今年度の高等部3年生は、高等部1年生段階から就職を希望する生徒は2割を超え、高等部1年生の3学期に企業体験実習に参加した生徒も11人だった。高等部入学当初からの生徒の思いを大事に育て、令和4年11月末現在も一般企業への就職をめざして実習を続ける生徒が10人いることは、当該学年やクリーンコース、職業科目での取組みの成果と言っても過言ではない。

もちろん、支援学校のキャリア教育の目的が、一般企業への就職率をあげることではないが、誰もが自分なりの学校卒業後の社会参加のイメージをもって、「自分が輝けるところで働きたい」、「働くことがかっこいい」、「働くことで自分も社会の役に立っている」と思えるまでもっていくことは、支援学校のキャリア教育の使命であると考えます。

学校卒業後の社会参加イメージをもち、働く意欲が高まるようになるために取り組んだことについて、2点紹介する。

一つは、令和4年2月2日に実施したPTA進路講演会である。元・一般社団法人おおさか人材雇用開発人権センター（C－S T E P）事務局長であり、大阪府立支援学校就労支援コーディネーター等も歴任された植並鈴枝氏を講師に招き、『支援学校卒業後の生徒の進路 ―それぞれが自分らしく生きる―』と題して、本校の保護者を対象とした講演会を開催した。雇用する側が求めている力や、その力をつけるために家庭や学校等日常生活の中で積み重ねることができる経験などの話を、これまで関わられた支援学校の生徒の具体的事例を交えて講義いただいた。「周りが生徒の力を決めつけない。」「無理だろうではなく、できるかもしれないと思って関わる。」「周りが信じることがとても重要。」などこれまで様々な生徒の就労に直接的に関わられた植並氏だからこそそのメッセージを含んだ講義であった。参加した保護者の事後アンケートの内容を以下にあげる。

- ・ 進路を考えるうえで大事なことをいろいろ教えていただけた。
- ・ 日頃の生活がどういうふうにならなっていくか等、今までにない視野の気づきがあった。
- ・ 本人ができることを決めつけていたところがあった。もっとお手伝いや公共交通機関も使えるように支援していきたい。
- ・ 見方を変えてできる可能性を増やす。周りのサポートも大切にすることを改めて感じられた。
- ・ 仕事に就くことを選択肢に入れることも可能かもしれないと考え直すきっかけになった。

生徒の働く意欲を高めるためには、家庭の協力、家庭での取組みは不可欠である。支援学校に通う生徒の多くは、生活していくうえで様々な支援を必要としており、家族・保護者は生徒にとってその最も身近で重要な支援者ではある。しかしながら、様々な支援が必要という現状から、我が子が高等部を卒業する段階で社会的に自立する姿を思い描きにくい保護者もおられる。もちろん、多くの支援学校で学ぶ生徒にとって「生活していくうえで様々な支援が必要」な状況が、高等部卒業後には変わるわけではなく、引き続き周りのサポートが必要ではある。そのため、生徒（我が子）が、サポートを上手に受けつつ、社会的に自立する姿のイメージを学校と保護者、関係機関とか共有する必要があり、共有さ

れた環境にて、生徒（我が子）が学校生活や家庭生活、地域生活を過ごし、よりよい経験を積むことが、「自分が輝ける場所で働きたい」、「働くことで自分も社会の役にたちたい」という気持ちを生徒の中に育てることができる考える。



もう一つは、令和4年7月11日に実施した高等部1年生対象の進路学習会である。講師は、企業体験実習を6月に2週間経験した高等部3年生10人が務めた。講師を務める高等部3年生は、経験した仕事内容や大変だったところ・苦勞したところを、自分でまとめたパワーポイント資料を示しながら説明した。企業体験実習を通して、それぞれの課題に気づき、自分たちがもし高等部1年生に戻れるとしたらという視点で、高等部1年生に「高等部1年生段階からこんなこと、あんなことをしっかり取り組んでおいたほうよい」というアドバイスを送っていた。



高等部3年生の6月企業体験実習は、高等部1年生段階、2年生段階の企業体験実習とは違い、卒業後の進路決定にもつながる実習であるため、企業側が求める水準も高くなり、実習評価も大変厳しくなる。これまでの実習にて比較的肯定的な評価を受けてきた生徒も、現時点で自分にまだたりていないところ（体力面や集中力、作業効率、報告・連絡・相談の正確性、適切な言葉遣い・あいさつなど）を細かく指導されることが多い。そういった厳しい現実、自分自身の課題に向き合う経験をした後の高等部3年生であるから、

「高等部1年生の段階から授業はまじめに受けたほうが良い」、「学校は休まずに来たほうが良い」、「敬語が使えたり、あいさつがしっかりできたほうが良い」、「実習や自主通学など今できることに恐れずチャレンジしてほしい」というメッセージには真実味がある。高等部1年生にとっては、最も身近な先輩である高等部3年生から、体験実習とは言え実際に仕事をしている様子を紹介されることで、自分たちにも近い将来そういった場面が訪れることを知り、今まで（中学校、中学部段階）と高等部とは違うことを意識し始めるきっかけとなる。

本校では、中学部の各学年での進路学習にて、近隣の福祉作業所や商業施設を見学する機会を設けており、大型商業施設内のバックヤードに就職した卒業生に直接話を聞くことなどにも取り組んでいる。「働きたい」の前には「働くことがかっこいい」という憧れる思いが必要であり、具体的に憧れる存在が身近にいれば（そして、そういった存在が多くいればいるほど）、より自分が格好良く働くイメージをもちやすい。中学部と高等部の生徒の交流の場となることを期待して令和3年度から始めたきょうだい学年の取り組み内容としても、取り組んでいければと考える。

（４）むすびに

キャリア教育支援体制強化事業は、令和2年度からの3年間の事業ではあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は年度の開始自体が2カ月以上遅れたことも影響して事業開始も大幅に遅くなった。そのため、事業の実働としては2年に満たない期間という実感である。期間的にも短く、就労支援コーディネーターや授業改善アドバイザーの配置のない事業であったことが、学校としてはむしろ取り組みやすかったと捉えている。

キャリア教育支援体制強化事業のためのプロジェクトチームを立ち上げ、本校のキャリア教育の現状を分析し、進むべき道、取り組むべき柱は確認できている。3カ年という決められた期間の中で、校内の体制を整えていった。次年度以降も引き続き、これまでどおりプロジェクトチームを中心として、教員研修の企画・運営や、地域連携先との取り組みの継続・拡充及び連携先の新規開拓を進めていくことができる。

本校が、本事業を通して気づいた、キャリア教育の推進体制にとって最も大事なことは、常にアップデートしていくということである。「教員研修」「清掃活動」「地域連携」に加え、「中学部・高等部等異学年連携」においてキャリア教育の推進体制を進めていくうえで、教員が常に、現状よりも一層広げるためには、深めるためには、さらに加えるためにはどうしていけばよいかという問題意識をもって取り組んでいきたい。そのために、次年度の学校経営計画の中期的目標へ「仲間や地域社会とのつながりの中で、全ての生徒が社会参画へのあこがれを抱き、主体的な選択を通して希望する進路を実現できる力を育む」ことを位置付ける。また、取組内容として、以下のとおり重点的に実践をすすめていく。

①「教員研修」では、変わりゆく生活スタイルや法律・制度等にあわせて知識をアップデートしていくための研修を企画する。

②「清掃活動」では、清掃検定の対象を拡大していき、一定の清掃技術をもって校内外

の清掃にあたることや、上級生から下級生に対し清掃技術を伝達する。

- ③「地域連携」では、清掃や農園芸商品の販売を定例化しつつ、連携範囲を拡大する。
- ④「中学部・高等部等異学年連携」では、『キャリアプランニングマトリクス』（資料２）における「人間関係形成能力」のD（３）や「キャリアプランニング能力」のJ（１）（２）の系統性を意識して「きょうだい学年」を実施する。

交野支援学校 四條畷校 キャリア教育支援 体制強化事業

【教員研修】

支援学校卒業後の10年20年後の生活を知る
：進路先、グループホーム、利用可能な制度、相談支援センター
金銭管理、トラブル回避 等

情報端末研修：スマホの扱い方・SNSトラブル回避等

清掃研修：ダスキン研修・他校視察・伝達講習

【教科学習】

卒業後の実態を
踏まえた
授業内容の検討

講師派遣
当事者紹介

【清掃活動】

清掃検定：生徒が目標を持って取り組む
授業内容の確立
清掃技術、指導方法の確立
成長が見える・実感できる

教える経験

まようだい学級：生徒同士の教え合い・学び合い
の場の創出
中高連携、清掃方法の統一
先輩学年への憧れ

職業教科への興味

職業教科
への興味

【地域連携】

学校運営協議会

：就業・生活支援センター、自治会
就労継続 B 型事業所等との連携構築

地域清掃：学校外で清掃技術を生かす
体験の積み重ね
協力校園・企業との連携構築
地域との結びつき・自己有用感

地域人材活用：地域の専門家(剪定・農業)との
連携による活動範囲拡大
地域の障がい理解啓発
支援学校の生徒のことを知る

更なる協力
内容充実

【作業学習】

チャレンジ
経験値上げる

支援学校卒業後の
自立した生活

	3～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教員研修	新年度研修 新年度研修 まようだい学級				新年度研修		新年度研修			
清掃活動	新年度研修 新年度研修	清掃検定、方法にむいた 清掃検定の実施等		クリーンコースで清掃開始	清掃検定（試行実施） 職業コース（クリーンコース）にて定期的に検定を 実施			清掃検定（試行実施） 職業コースにて定期的に検定を 実施		
地域連携	新年度研修 新年度研修				新年度研修 新年度研修			新年度研修 新年度研修		

交野支援学校四條畧校「キャリアプランニングマトリクス」＜試作版＞

資料2

基礎的・汎用的能力	観点項目		I	II	III
	みつめる力	自分自身への気づき ○自分自身への気づき ○自分の意思に基づき選択	A	(1) 自分の得意、苦手を知る (2) 自分自身の向き合い方を知る (3) 興味関心に基づいて自分で選ぶ経験を重ねる	(1) 自分の長所、短所を知る(自己認識) (2) 自分の行動を客観的に振り返る (3) 自分の興味関心、経験、事や希望に基づいて、卒業後進むべき進路を決定する
自己理解 自己管理能力	せいかつする力	○ADLの形成・確立 ○生活リズムの形成・確立 ○健康的な身体づくり ○清潔・身だしなみの意識 ○金銭の扱い	B	(1) 排泄、着替え、食事、入浴に付随することのできることを増やす (2) 安定した生活リズムで過ごす (起床、三度の食事、活動、睡眠等の時刻の一定化) (3) 1日の日中活動に必要な体力をつける (4) 場面、必要に応じた生活習慣を身につける (手洗い、うがい、歯磨き、着替えの習慣) (5) 体験を通して、金銭についての価値を知る	(1) 衣食住に関与していることを増やす (洗濯、料理、掃除、公共交通機関での移動等) (2) 時計・スケジュールを意識して主体的に1日、1週間を過ごす (3) 一定時間、作業を続けられる気力・体力をつける (4) 季節や場面等に合わせた服の種類や量の調整をする (5) 一定の金額で計画的に買い物をする 生活に必要なお金(光熱水費や食費等)を知る
人間関係形成能力	つたえる力	○気持ちの表出 ○意思や要求の表出 ○自己評価の表出	C	(1) 不安、苦手、嫌いな等々ガティブな感情を伝える (2) 必要に応じて支援を求める (3) できるようになったことを発表する	(1) 自分の感情を客観的に整理して、適切に伝える (2) 自分に必要な支援内容を適切に求める 困ったことがあったときに相談する (3) 目標に対して自分の行動を評価する 評価を次の活動に生かすことを表明する
	かかわる力	○他者の存在への気づき ○集団への参加 ○自分の役割の意識・遂行	D	(1) 周囲の人と適切な距離感をもつ (好きな人とも、嫌いな人とも、場所や年齢に応じて) (2) 大きな集団(学校内の異年齢集団や苦手な人のいる集団等)で活動する (3) 集団の中で役割を意識して、仕事を果たす	(1) 目上の人、初対面の人、自分より年下の人等、相手に合わせて振る舞う (2) 職場体験、地域生活等、大人とかかわることの多い集団での経験を広げる (3) 集団の中で自分の特長を生かし、ときには支援を得て、ときには周りを手伝って、集団の一員として動く
社会形成能力	ととのえる力	○自分の感情への気づき ○感情コントロール方法の形成・確立 ○ストレス解消方法の形成・確立	E	(1) 自分の感情(快・不快、好き・嫌い)に気づき、周囲に伝える (2) 気持ちの高ぶり、不快感を感じたときに、場を離れる等自分自らの対処方法を見つける(サポートありでも) (3) 一定時間、好きなことを意識してやる	(1) 自分の感情の揺れる原因、傾向に気づき、必要な支援を求めたり、自分で対処したりする (2) 自分のパニックになる原因に近づかないようにする その場では感情を抑え、後で発散する方法を身につける (3) 没頭できる趣味、長く続けられる余暇活動を見つける
	まもる力	○日常的なあいさつの習慣化 ○ルールを意識した行動 ○マナーを意識した行動	F	(1) 自ら進んで関わりのある人に日常的なあいさつをする (2) 学年・学校で決めた学校生活ルールを意識して行動する (3) 食事等、日常生活上のマナーを意識して行動する	(1) 場面、相手に合わせて適切な方法で日常的なあいさつを使い分ける (2) 社会生活を送るうえで必要なルールについて知る 社会生活を送るうえではいけないことを知る 公共施設・サーブ・七五三等の便の方について知る (3) ビジネスマナー等働くうえでのマナーについて知る
課題対応能力	こうどうする力	○主体的に動ける積極性 ○何にでも挑戦できる意欲 ○粘り強く続ける持続力	G	(1) 先の見通しが持てることに対し、支援がなくても自分から動きたし、活動する (2) 好きな人と一緒に苦手なこと・自分の課題に挑戦する (3) 失敗しても諦めず、周からの励ましを受けて、もう一度やってみる	(1) 経験則から、自ら見通しを立てて、主体的に行動する (2) 周りからの必要な支援を得ながら、未知の課題に対して失敗を恐れずに挑む (3) 失敗にあげず、うまくできるまで何度も、やり方を考えるなど工夫して積み続ける
	しゅうちゅうする力	○説明内容の理解 ○指示内容通りの遂行 ○一定時間継続できる体力	H	(1) 説明する教員に対して一定時間注視する (2) 指示内容を聞いて、それに応じた活動をする (視覚支援あり、個別の働きかけあり) (3) 一定時間継続してできる好きなことを見つける	(1) 集団への複数指示のある説明内容を理解する 必要に応じて、メモを取りながら集中して聞く (2) 手順書や自分のメモを参考に、活動内容、作業工程にそって実行する (3) 一連の活動、作業が終了するまで集中して実行する
キャリアプランニング能力	むかう力	○自分の課題への意識 ○将来の自己実現に向けての進め方	I	(1) 学習後の教員からの評価を受けて、活動を振り返り、自分の苦手や課題を意識する (2) 課題に対する目標を教員と一緒に計画して、課題達成に向けて取り組む	(1) 自分の行動を客観的に評価する(自己評価) (肯定評価⇒自己肯定感UP、自己反省⇒次へ生かす) (2) 実習等を通して、自分の課題に気づき、自ら目標を設定して、課題が克服できるように取り組む
	はたらく力	○働くことへのあこがれ ○任されたことをやり遂げる意志	J	(1) 学年が上の先輩や高等部の生徒が活動の様子を見る中で、「やってみたい」「できるよになりたい」と感じる 見学会等で様々な職場があることを知る (2) 係活動、当番活動、家の手伝いで任された仕事を、責任持って最後まで行う	(1) 実習等を通して、将来やりたいことを見つけ、職業生活、家庭生活、社会生活に対する夢や期待を持つ (2) 実習等を通して、達成感、充実感、自己肯定感を感じる 経験を重ねること、仕事場での自分の役割を意識する

資料集3

生徒 C

学部（ 中学部1年生 ） 療育手帳：A ダウン症

項 目		実 態
日常生活動作	健康（医学） 更衣 排泄 食事 移動・姿勢 など	・健康：喘息で服薬あり。 ・更衣：服の着脱は、自立。ボタン・ファスナーも、自立。 ・排泄：自立。自分の意思で行くことができる。 ・食事：自立。偏食はなし。 ・移動、姿勢：自分で移動・姿勢の保持ができる。
言語・コミュニケーション		・日常生活の中に使われるほとんどのことばを理解して行動できる。 ・自身の出来事や気持ちを言葉で伝えることができる。
運動・作業面		・線を意識してはさみで紙を切ることができる。 ・スウェーデン刺繍やビーズ通しができる。
社会面 （対人関係・ 集団行動）		・大人やクラスの友だちに、自分から関わることができる。 ・大集団でも安心して参加することができる。
興味・関心		・テレビやDVD を見るのが好きである。 ・音楽に興味を示し、自分の好きな曲をよく口ずさんでいる。 ・好奇心旺盛でいろいろなことに興味を持つ。
行動面		・楽しいことを優先してしまい、やらなければいけないことができないことがある。
学習面		・国語：ひらがな、カタカナを書くことができる。 ・算数：10までの数と量が理解できている。 丸の数をかぞえることで1桁のたし算ができる。
進路		・本校高等部に進学予定。

生徒 D

学部（ 高等部1年生 ）

療育手帳B2 自閉症

項 目		実 態
日常生活動作	健康（医学） 更衣 排泄 食事 移動・姿勢 など	- 健康： 軽度肥満。 - 更衣： 衣服の着脱が一人でできる。ボタンかけ、ひも結びが苦手。 季節に応じた服装が調節できるように言葉かけが必要である。 - 排泄： 自立。 - 食事： 箸は訓練箸を使用している。 - 移動： 自立。
言語・コミュニケーション		- 言葉で日常会話ができる。 - 誰にでも話しかけることができるが、自分の気持ちを伝えることは苦手である。 - 周りの状況が読めずに、人に困ることをしても気づかないことがある。
運動・作業面		- 細かい作業ができ、丁寧に取り組むことができる。 50分間、決められた作業を集中して取り組むことができる。
社会面 （対人関係・ 集団行動）		- 対人関係：一方的に話すのは好きだが、質問されるのは苦手である。 - 集団行動：全体の指示で行動することができる。 - 社会面：デジタル時計が読める（アナログ時計は学習中）
興味・関心		- アニメが好き。（鬼滅の刃） - ヘルパーと外出することが好き。 - テレビゲームが好き。
行動面		疲れがたまると、行動のコントロールがしにくくなる。 （声が大きくなる、指導者への関わりが）
学習面		- 国語：小4程度の漢字の読み書きができる。 - 数学：2桁の足し引き算ができる。九九が言える。電卓を使うことができる。
進路		就職希望。

第2回キャリア教育研修会

2021.5.20

班 お名前

想定した 「Cさん 30歳」

進路

卒業後、自立訓練事業で2年間→就労継続支援B型事業所に通っている。

生活面

- ・グループホームで2年目。グループホームは、利用者さん4名と同居、支援員さんが1名いる。
- ・土・日は帰宅している。母から、部屋が散らかっているとされている。
- ・お小遣いをもらおうとすぐに使ってしまう。

苦勞していること

- ・朝起きられない。(夜中にYou tubeを見てしまうなど)
- ・週1回ぐらいは仕事に行けないことがある。
- ・土・日は自宅でゲームをしてごろごろしている。
- ・携帯でのトラブル。
- ・異性の指導員さんとの距離が近く、よく怒られる。

① 学校でできること。

② その他

第2回キャリア教育研修会

2021.5.20

班 お名前

想定した 「Dさん 30歳」

進路

職業訓練校1年進み、職業訓練校から企業実習に何社も行くなかで、針金のハンガーの製造会社に就職し、社会人としてスタートした。正社員だったが、会社の業績が悪くなり、正社員からアルバイトへの降格の話が出てきたことをきっかけに、転職を考え、就ボツに登録。1年間の転職活動ののち、現在はスーパーで働いている。

生活面

卒業2年後から、グループホームで生活。

グループホームで出会った彼女と結婚し、結婚後は単独型のグループホームに引っ越した。

現在は、マイホームで暮らしている。

仕事以外での楽しみやお金の使い方

- ・旅行
- ・車(自分の車を購入)の運転が好き
- ・パチンコも少々
- ・マイホームを購入

苦勞していること

- ・お金(グループホームでは小遣い帳をつけていた。金額のずれがあるときもあり。詐欺にあい400万円のローンを組んでしまったこともある)
- ・パソコンの使いかた
- ・携帯トラブル
- ・悩み事を相談できる相手がいない
- ・性教育

③ 学校でできること。

④ その他

資料4（SNS授業）

●対象生徒

→高等部1年生

→個人の携帯やタブレット端末を持っている、家庭で使用している生徒

●グループ分け

→習熟度別で2グループ

●実施日（一人1回）

1回目 Aグループ 12/12(月)9:10~9:25 (教員1名 生徒6名) 1,2組

1回目 Bグループ 12/12(月)9:10~9:25 (教員1名 生徒5名) 1,2組

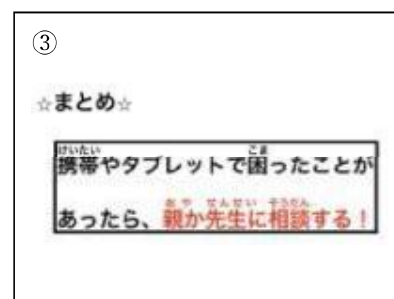
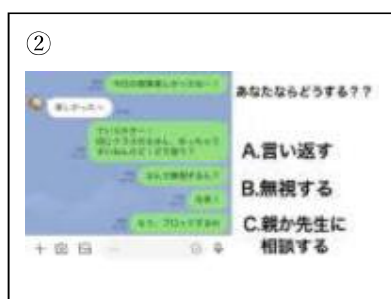
2回目 Aグループ 12/13(火)9:10~9:25 (教員1名 生徒8名) 4,5,6組

2回目 Bグループ 12/13(火)9:10~9:25 (教員1名 生徒4名) 4,5,6組

3回目 Aグループ 12/19(月)9:10~9:25 (教員1名 生徒8名) 3,7組

3回目 Bグループ 12/19(月)9:10~9:25 (教員1名 生徒4名) 3,7組

●keynote スライド



●授業実施後は連絡帳にて持ち帰り、保護者と授業内容の共有

●配布資料

自立活動「line のトラブルについて知ろう」

1年()組 名前()

質問①

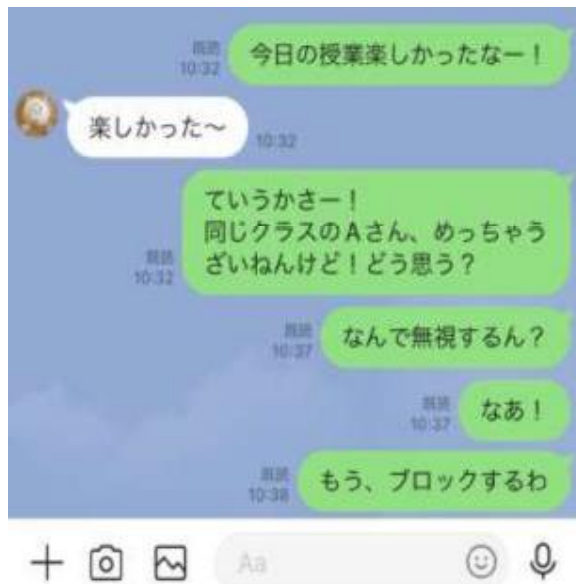
Line を使ったことはありますか？→ はい いいえ

質問②

使ったことがあるアプリに○をしよう→ Instagram Twitter YouTube Tiktok

質問③

家でどのくらい携帯(タブレット)を使いますか？→ ~1時間 ~3時間 ~5時間 5時間以上



あなたならどうしますか？？

- A. 言い返す
- B. 無視する
- C. 親か先生に相談する

☆まとめ☆

①評価内容の項目ができていれば、□にチェック ②チェックの数を評価欄に記入 ③チェック数の合計で段位を出す

校定の流れ	項目	評価項目	評価内容	評価	決まった言い方の例等	備考
準備	1	(審査員に呼ばれてから) 清掃の準備を開始する	☐ 自在ほうき ☐ ちりとり ☐ 毛かき ☐ 道具の点検をしている	/4	「交野を援学校四條畷校のOOです。よろしく願います。」	
	2	身だしなみ、態度	☐ 適切な服装 ☐ きびきびした行動	/2		
	3	審査員に開始を伝える	☐ 適切な声の大きさ及び態度で伝えている	/1	「ただ今より、ろうかの清掃を開始します。」	
ろうかの清掃 (1) 姿勢	4	正しい姿勢、態度で清掃する	☐ 足は肩幅に開いている ☐ ほじょい高さが自在ほうきを持っている ☐ 〈作業中誰かが通るとき〉作業を止め、相手の方を向いてあいさつしている	/3		
ろうかの清掃 (2) 掃き方	5	自在ほうきを正しく用いて清掃する	☐ つま先からつま先までの幅で掃いている ☐ おさえ掃きしている ☐ 掃いた後に、自在ほうきを床にトントンとたたいている ☐ 掃き終えたら、くつ1足分前に出てから掃いている	/4		
ろうかの清掃 (3) 手順	6	正しい手順でろうかを清掃する	☐ ろうかの端から掃き始めている ☐ 自在ほうきの端を利用して、ろうかの端を掃いている ☐ し字の隅は壁に沿って掃き、ほこりをかき出している ☐ ろうかの中側に向かって掃き進めている ☐ 掃き集めたほこりが1列にまっすぐ集まっている	/5		
	7	正しい手順でろうかを清掃する	☐ 中側まで掃き進めたら、もう片方の端に移動して清掃に取り組んでいる ☐ 掃き集めたほこりが中側に1列にまっすぐ集まっている ☐ ろうかの中央にほこりを集めている ☐ 自在ほうきの柄の中央あたりを持ち、ちりとりにほこりを集めている	/4		
ろうかの清掃 (4) 確認	8	点検作業	☐ 掃き残しがないかどうか、ろうか全体を確認している (掃き残しがある場合は、発見次第ちりとりを集めている) ☐ 掃き残しなく、ろうかを清掃できている	/2		
片づけ	9	片づけ、報告	☐ 毛かきを使用して、毛先についたほこりを取っている ☐ 道具の点検をしている ☐ 適切な声の大きさ及び態度で伝えている	/3	「終わりました」	
				/28		

段位	チェック数
1級	26～28
2級	23～25
3級	19～22
4級	11～18
5級	0～10

審査員より)

級

交野支援学校四條畷校
()年 ()組 氏名 ()
台拭きの清掃校定
クリーンコース版
①評価内容の項目ができていれば、□にチェック ②チェックの数を評価欄に記入 ③チェック数の合計で段位を出す

検定の流れ	項目	評価項目	評価内容	評価	決まった言い方の例等	備考
準備	1	(審査員に呼ばれてから) 清掃の準備を開始する	☐ 布巾 ☐ バケツ ☐ 道具の点検をしている	/3	「交野支援学校四條畷校の〇〇です。よろしくお願いします。」	
	2	身だしなみ、態度	☐ 適切な服装 ☐ きびきびした行動	/2		
	3	審査員に開始を伝える	☐ 適切な声の大きさ及び態度で伝えている	/1	「ただ今より、台拭きを開始します。」	
台拭き (1) 絞る	4	布巾を正しく絞る	☐ バケツに水を入れている (半分～8割ほど) ☐ 縦絞りで布巾を絞っている ☐ バケツの高さほどから布巾を絞っている ☐ 絞った後の布巾から水がしたたっていない	/4		何らかの事情で布巾を絞れないときは、支援を求めるなど自ら工夫していればOK
	5	正しい手順で台拭きする	☐ 手の大きさに合わせて布巾をたたんでいる ☐ 机の外周から拭き始めている ☐ 外周を拭いた後、机の内側をジグザグ拭きしている ☐ 内側を拭いた後、机の縁を拭いている ☐ (作業中誰かが通るとき) 作業を止め、相手の方を向いてあいさつしている	/5		
台拭き (3) 洗う	6	正しい方法で布巾を洗う	☐ バケツの中で布巾をゆすいでいる ☐ 縦絞りで布巾を絞っている ☐ バケツの高さほどから布巾を絞っている ☐ 絞った後の布巾から水がしたたっていない ☐ バケツの中の水が汚れているときは、水を入れかえている	/5		何らかの事情で布巾を絞れないときは、支援を求めるなど自ら工夫していればOK
片づけ	7	片づけ、報告	☐ バケツの中の水を捨て、バケツの中をすすいでいる ☐ 道具の点検をしている ☐ 適切な声の大きさ及び態度で伝えている	/3	「終わりました」	
				/23		

段位	チェック数
1級	19～23
2級	15～18
3級	11～14
4級	6～10
5級	0～5

審査員より	評価
級	



©2014 大阪府もずやん

キャリア教育支援体制強化事業成果報告書

文部科学省 教育支援体制整備事業（切れ目ない支援体制整備充実事業）
大阪府立思斉支援学校・大阪府立交野支援学校四條畷校 実践・編集

【事務局・編纂】

教育庁教育振興室支援教育課

〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目

TEL：06(6941)0351 FAX：06(6944)6888

ホームページ：<http://www.pref.osaka.lg.jp/shienkyoiku>

令和5年3月発行

